

第2次田村市総合計画（後期基本計画）  
に関するアンケート調査結果報告書

令和8年1月

田村市

## 目 次

第1章 市民アンケート調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の実施概要	1
3 調査結果の読み方	2
4 参考データ	2
5 調査結果のまとめ	3
第2章 市民アンケート調査の結果	4
1 あなたご自身のことについてお聴きします。	5
2 田村市の住み心地や定住意向についてお聴きします。	8
3 田村市の取り組みへの満足度、今後の重要度についてお聴きします。	28
4 田村市の将来像や今後の取り組みについてお聴きします。	42
5 市民ワークショップの参加意向	64
第3章 関係団体アンケート調査の概要	66
1 調査の目的	66
2 調査の実施概要	66
3 調査結果のまとめ	67
第4章 関係団体アンケート調査の結果	68

# 第1章 市民アンケート調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、「第2次田村市総合計画」（計画期間：令和4年度～令和13年度）の進捗状況や成果を評価するとともに計画の見直しを行うため、市民の皆さまから、まちづくり施策への評価や今後のまちづくりに向けた課題等を分析することを目的に実施しました。

## 2 調査の実施概要

項目	内容
調査対象	18歳以上の市民（市内在住） 2,000人 （性別・年齢・地区の人口割合を勘案した無作為抽出による層別抽出法）
調査方法	郵送調査（郵送による配付・回収）またはWEBによる回答
調査時期	令和7年10月14日（火）～10月31日（金）（18日間）
回答数	780票（回答率 39.0%） うち、WEB回答 231票（回答率 11.6%）
調査地区	市内全地区
主な調査項目	1 あなたご自身のことについて 2 田村市の住み心地や定住意向について 3 田村市の取り組みへの満足度、今後の重要度について 4 田村市の将来像や今後の取り組みについて 5 市民ワークショップの参加意向

### 3 調査結果の読み方

- 図表は、当該設問の回答者における各選択肢の比率（百分率＝％）を示しています。
- 回答者は、構成比算出の母数（人数）を示しています。なお、回答者を限定する設問（前問に答えた人のみが回答する等）は限定後の母数が「回答者」となります。
- 集計結果（本文及び図表の数値）は小数第2位以下を四捨五入し、小数第1位で示します。数値を四捨五入しているため、選択肢比率の合計が100%にならない場合や複数回答の設問で選択肢比率の合計が100%を超える場合があります。
- 集計結果の「0.0」は、四捨五入の結果または回答がないことを示しています。
- 回答者属性別集計では「不明・無回答」等を非表示としています。そのため、回答者と属性の人数の合計が異なる場合や属性別の数値合計が100%にならない場合があります。
- 語句が長い選択肢等は本文及び図表の一部を省略して表示している場合があります。
- 回答者属性は区分の一部を省略して表示しています（下表）。

属性	省略した表示	内容
世帯	2世代同居	2世代が同居（親と自分、自分と子ども）
	3世代同居	3世代が同居（親・自分・子ども、自分・子ども・孫など）
職業	会社員等	会社員、団体職員、公務員
	契約・派遣等	契約・派遣社員、パート、アルバイトなど
	農林漁業	農林漁業（自営、家業従事）
	役員・自営等	会社役員、自営業（農林漁業を除く）・自由業
勤務・通学先	非就労・非通学	働いていない（通学していない）

### 4 参考データ

- 過去に実施した「令和2年調査」と「平成25年調査」と共通する設問については、調査結果の比較を記載しています。

令和2年調査の実施概要	
調査対象	18歳以上の市内在住者 2,000人（性別・年齢・地区比率を考慮した上で無作為抽出）
調査期間	令和2年10月23日（金）～11月9日（月）（18日間）
調査方法	郵送調査（郵送による配付・回収）
回答数	790票（回答率 39.5%）

平成25年調査の実施概要	
調査対象	15歳以上の市内在住者 2,000人（性別・年齢・地区比率を考慮した上で無作為抽出）
調査期間	平成25年10月30日～11月13日（15日間）
調査方法	郵送調査（郵送による配付・回収）
回答数	691票（回答率 34.6%）

## 5 調査結果のまとめ

### 1 田村市の住み心地や定住意向について

住み心地については、『住み心地が良い』が半数を超えており、今後も市内に住み続けたいと考える人が約6割となっています。住み続けたい理由として、家や土地を保有していることや自然環境の良さ、災害の少なさ等が挙げられています。一方で、住み続けたくない理由として、買い物や日常生活の不便さ、交通環境の課題、にぎわいの不足等が挙げられており、Well-Being指標においても同様の傾向がみられ、生活利便性や生活環境に関する課題が定住意向に影響している状況がうかがえます。また、今後の居住意向について「分からない」とする回答も一定数みられ、特に若年層においてその傾向が強くなっています。

市への愛着については、『愛着を感じる』が約7割、『愛着を感じない』が約3割となっており、愛着を感じる市民が多い結果となっています。

幸福度については、「5（ふつう）」が5割前後と最も高く、5年後の幸福度や地域の暮らしへの満足度も同様の傾向となっています。

### 2 市の取り組みへの満足度、今後の重要度

まちづくり施策全体に対する評価をみると、市の教育環境やコミュニティ・行政運営について一定の評価がされている一方で、就労や子育て支援、住環境整備といった生活の基盤となる分野において、より更なる施策の展開を期待している状況がうかがえます。なかでも、施策の満足度については、「生涯学習」や「行政経営」、「地域福祉」において比較的高い満足度が示されており、日常生活を支える基礎的なサービスや安定した行政運営については、一定の評価が得られているものと考えられます。一方で、「農林業」や「商工業」、「働きやすい環境」では、不満度が高い結果となっており、産業振興に係る施策について改善や充実を求める傾向がみられます。特に、「観光」や「働きやすい環境」、「子育て支援・少子化対策」については、今後の重要度が高く、不満度も高い施策であり、重点的な取り組みが求められています。

また、まちづくりへの考え方について、行政と住民の協働意欲が5割以上となっており、住民ひとり一人ができる範囲で地域活動などに取り組んでいけるよう、情報発信や支援を充実させていくことが重要です。

### 3 市の将来像や今後の取り組み

行政サービスのデジタル化については、『取り組むべき』が約7割となっており、なかでも教育分野や福祉分野、安全分野での導入促進が求められています。

また、将来のまちづくりに対する市民の意向としては、「住みやすいまち」や「安心・安全なまち」を重視する声が多く、市の発展に特に重要な取り組みとして「働く場の充実」や「健康・医療の充実」、「子育て支援」などが多く挙げられています。自由記述においても、同様の傾向がみられ、若年層の定着につながるような雇用創出、子育て支援・教育環境の充実、商業の活性化やにぎわい創出といった、市に人を呼び込み、持続可能なまちづくりを進めていくことが求められています。さらに、公共交通や道路整備などの生活基盤の整備や医療・福祉体制や防災対策等、安心して暮らし続けられるまちづくりも求められています。

## 第2章 市民アンケート調査の結果

### 調査項目一覧

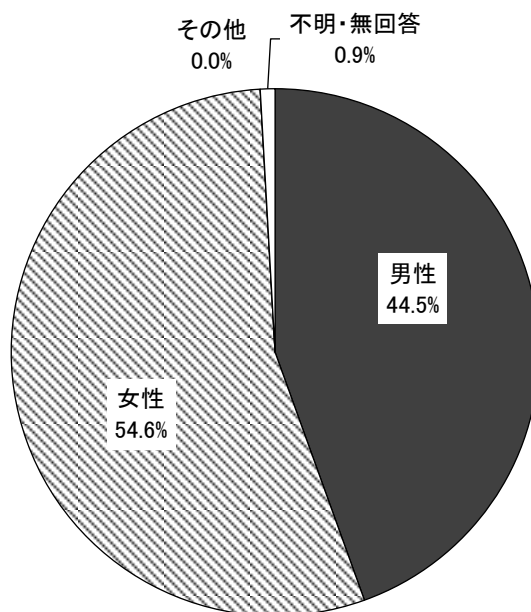
区分	調査項目
1 回答者の属性	問1 性別（自認する性別）
	問2 年齢
	問3 居住地区
	問4 家族構成（同居者）
	問5 主な職業
	問6 通勤・通学先
2 田村市の住み心地や定住意向	問7 田村市の住み心地
	問8 今後の市内居住意向
	付問1（今後も暮らしたい人への設問）住み続けたい理由
	付問2（暮らしたいと思わない人への設問）住み続けたくない理由
	問9 田村市へ愛着や誇りの自覚
	問10 現在の幸福度※
	問11 5年後の幸福度※
	問12 暮らしの満足度※
問13 行政区内の人々の幸福度※	
3 田村市の取り組みの満足度、今後の重要度	問14 まちづくりの取り組みの満足度、今後の重要度（5分野 15 施策の評価）
	問15 地域活動やボランティアへの参加意向
	問16 これからのまちづくりの考え方
4 田村市の将来像や今後の取り組み	問17 行政サービスのデジタル化への考え
	問18 デジタル技術の導入・活用を期待する分野
	問19 デジタル化で期待すること
	問20 田村市からの緊急情報を受け取りたい手段
	問21 田村市で取り組んでいるデジタル関連事業の認知度
	問22 田村市で取り組むべきデジタル化
	問23 市民の「チャレンジ」を促進する支援
	問24 これからのまちづくりへの期待
	問25 田村市の発展にとって特に重要な取り組み（1～3位）
	問26 田村市のまちづくりへの提案やアイデア（自由記入）
5 市民ワークショップの参加意向	問27 市民ワークショップの参加意向

※住民の心の豊かさや持続可能なまちづくりを数値化・可視化するため、デジタル庁において推進している自治体ごとの「暮らしやすさ」や「幸福感」を算出するための設問。

1 あなたご自身のことについてお聴きします。

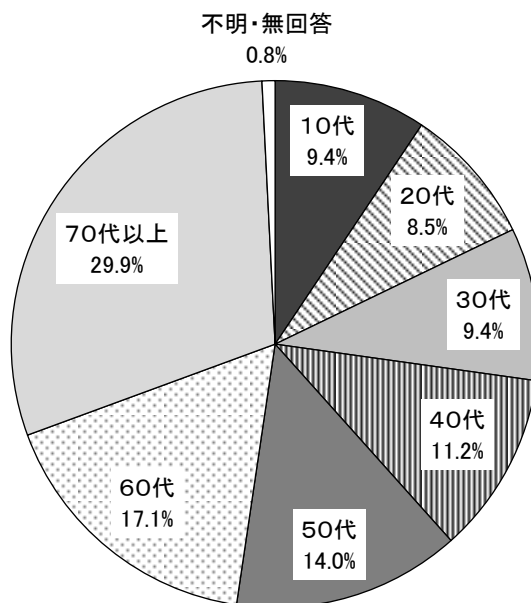
問1 よろしければ、あなたの性別（自認する性別）をお答えください。（1つに○）

全体(n=780)



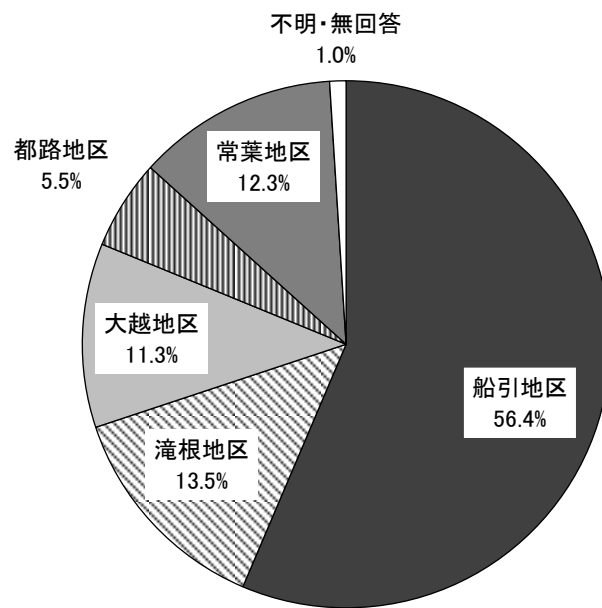
問2 あなたの年齢をお答えください。（1つに○）

全体(n=780)



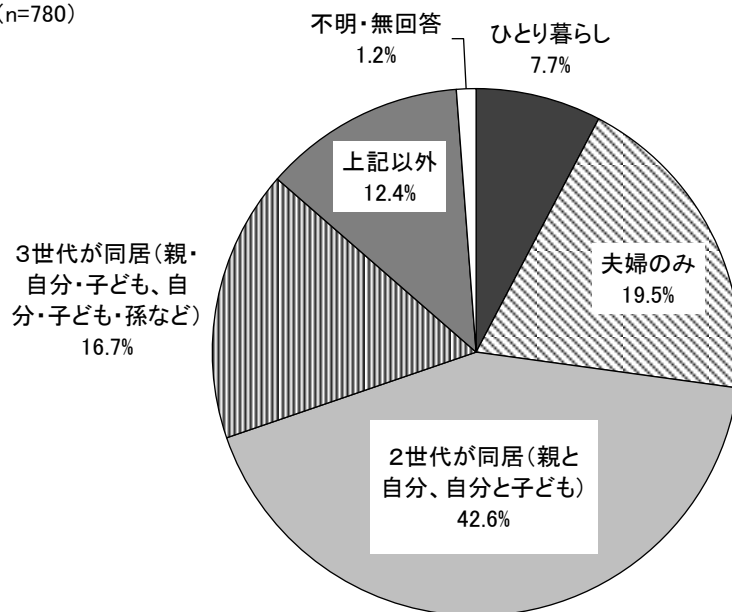
問3 あなたが住んでいる地区をお答えください。(1つに○)

全体(n=780)

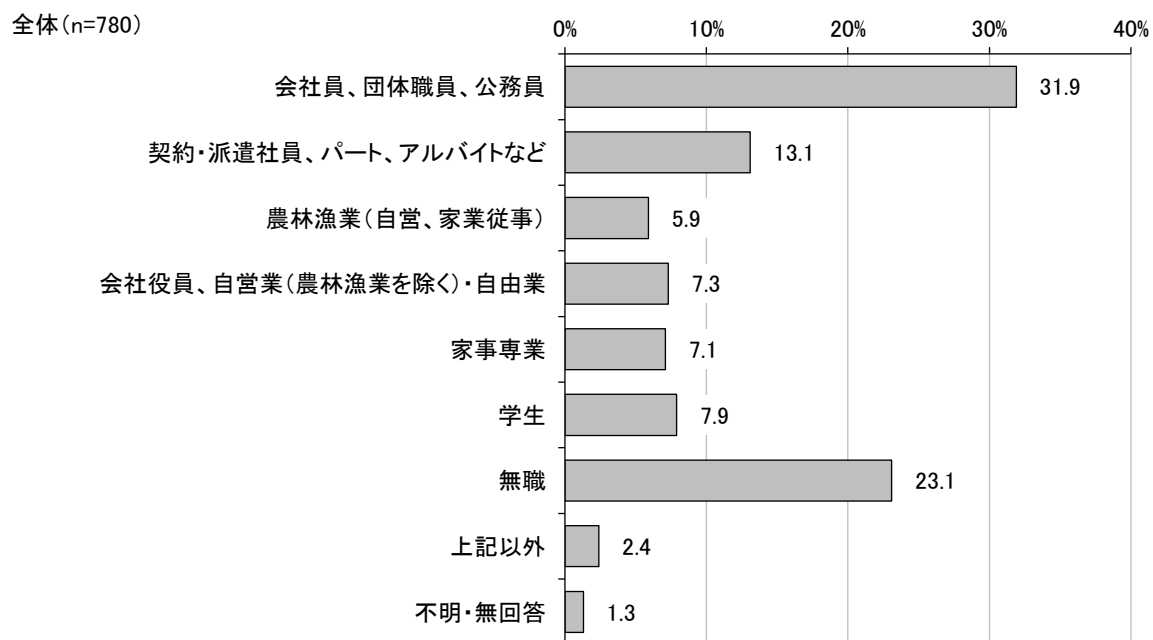


問4 あなたの家族(同居者)構成をお答えください。(1つに○)

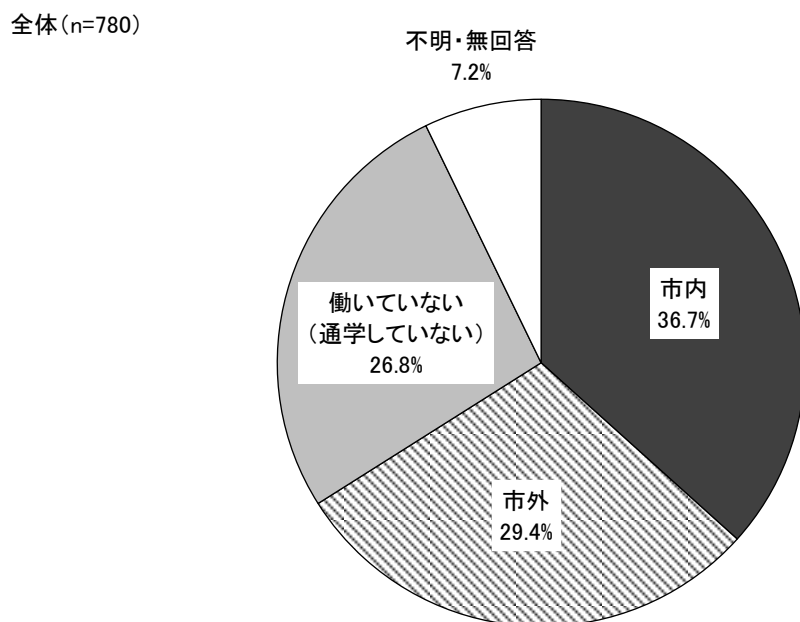
全体(n=780)



問5 あなたの主な職業をお答えください。(1つに○) ※育児や介護、病気などで一時的に休業中の場合は、現在働いているものとして回答してください。



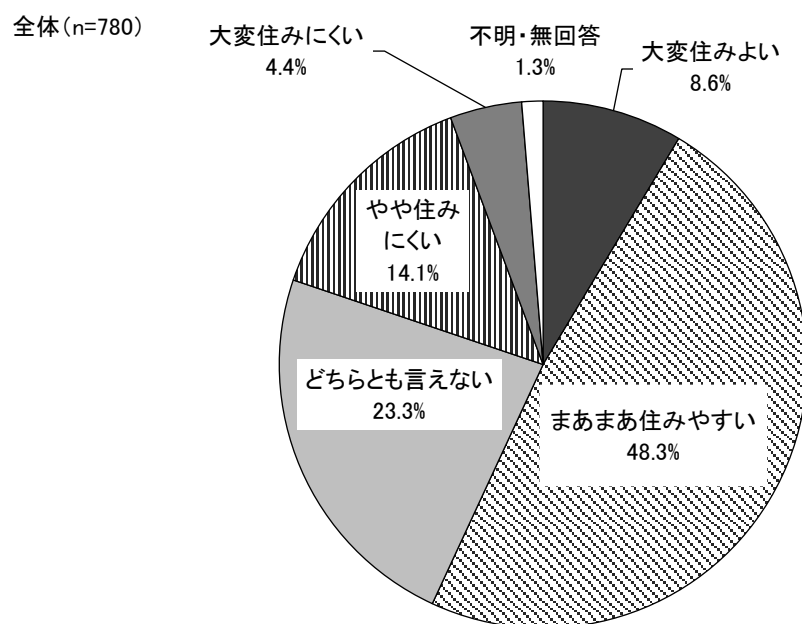
問6 あなたが主に働いている会社、または通学している学校の所在地をお答えください。(1つに○)



## 2 田村市の住み心地や定住意向についてお聴きします。

### 問7 あなたにとって、田村市の住み心地はいかがですか。(1つに○)

- 田村市の住み心地は、「まあまあ住みやすい」(48.3%)が最も高く、「どちらとも言えない」(23.3%)、「やや住みにくい」(14.1%)が続きます。
- 『住み心地が良い』(大変住みよい+まあまあ住みやすいの合計)は56.9%となり、『住み心地が良くない』(やや住みにくい+大変住みにくいの合計)の18.5%を大きく上回ります。



【回答者属性別の傾向】

- 全ての属性で「まあまあ住みやすい」が最も高く、ほぼ全ての属性で『住み心地が良い』（大変住みよい+まあまあ住みやすいの合計）が50%を超えています。
- 『住み心地が良い』（大変住みよい+まあまあ住みやすいの合計）が特に高い属性をみると、ひとり暮らし、農林漁業が70%台となっています。

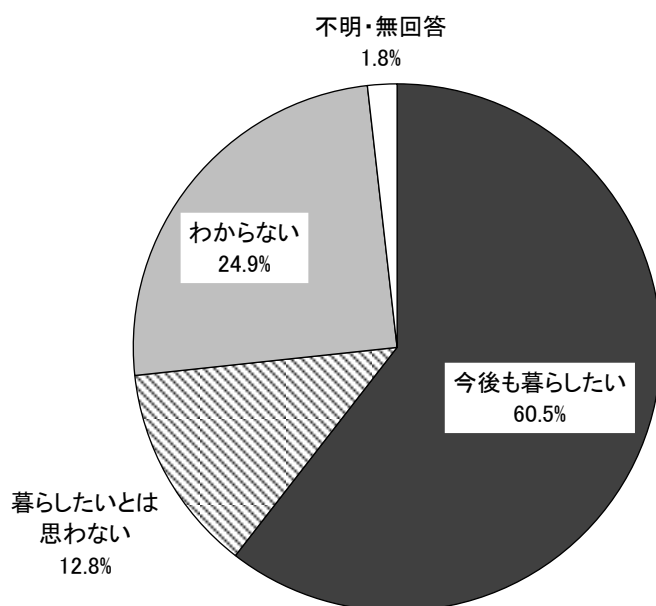
回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	住み心地が良い		えど なち いら とも 言	住み心地が 良くない		良 い 住 み 心 地 が	良 く 住 み 心 地 が
			よ 大 い 変 住 み	住 ま み あ や ま す あ い		に や く や い 住 み	に 大 く 変 い 住 み		
性別	男性	347	8.1	48.4	22.2	17.0	3.2	56.5	20.2
	女性	426	9.2	49.1	24.2	12.0	5.2	58.3	17.2
年齢	10代	73	9.6	41.1	21.9	20.5	6.8	50.7	27.3
	20代	66	7.6	43.9	25.8	13.6	9.1	51.5	22.7
	30代	73	5.5	45.2	26.0	13.7	9.6	50.7	23.3
	40代	87	5.7	54.0	27.6	10.3	2.3	59.7	12.6
	50代	109	6.4	38.5	25.7	24.8	4.6	44.9	29.4
	60代	133	4.5	54.1	24.8	13.5	2.3	58.6	15.8
	70代以上	233	14.2	53.2	18.9	9.4	2.1	67.4	11.5
地区	船引地区	440	11.1	52.7	22.5	10.2	3.2	63.8	13.4
	滝根地区	105	2.9	49.5	19.0	19.0	8.6	52.4	27.6
	大越地区	88	4.5	37.5	27.3	22.7	5.7	42.0	28.4
	都路地区	43	7.0	44.2	25.6	16.3	7.0	51.2	23.3
	常葉地区	96	7.3	41.7	27.1	18.8	3.1	49.0	21.9
世帯	ひとり暮らし	60	15.0	56.7	16.7	6.7	3.3	71.7	10.0
	夫婦のみ	152	5.9	50.7	23.7	14.5	2.6	56.6	17.1
	2世代同居	332	6.9	50.6	24.1	14.2	4.2	57.5	18.4
	3世代同居	130	10.8	43.8	20.8	19.2	5.4	54.6	24.6
	上記以外	97	11.3	39.2	28.9	12.4	7.2	50.5	19.6
職業	会社員等	249	6.4	49.4	22.5	16.1	5.6	55.8	21.7
	契約・派遣等	102	6.9	44.1	29.4	12.7	6.9	51.0	19.6
	農林漁業	46	6.5	71.7	13.0	6.5	0.0	78.2	6.5
	役員・自営等	57	8.8	56.1	12.3	17.5	3.5	64.9	21.0
	家事専業	55	9.1	50.9	20.0	14.5	5.5	60.0	20.0
	学生	62	6.5	35.5	25.8	24.2	8.1	42.0	32.3
	無職	180	12.2	45.6	26.7	11.7	1.7	57.8	13.4
	上記以外	19	21.1	47.4	31.6	0.0	0.0	68.5	0.0
通勤 学務 先	市内	286	7.7	52.8	19.6	14.0	5.6	60.5	19.6
	市外	229	6.6	42.8	27.1	17.9	5.2	49.4	23.1
	非就労・非通学	209	11.5	47.8	25.4	12.4	2.4	59.3	14.8

## 問8 あなたは、今後も田村市で住み続けたいですか。(1つに○)

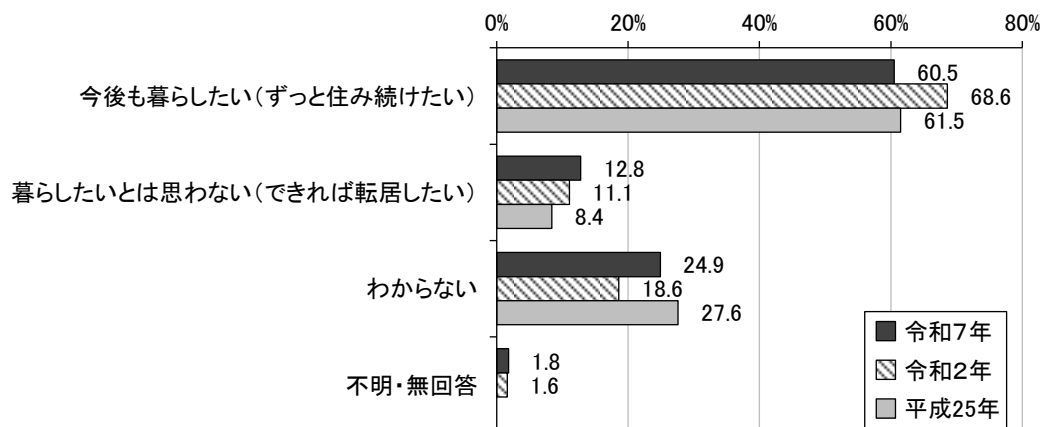
- 今後の市内居住意向は、「今後も暮らしたい」(60.5%)が最も高く、「わからない」(24.9%)、「暮らしたいとは思わない」(12.8%)が続きます。

全体(n=780)



### 令和2年、平成25年調査との比較

- 令和2年調査から「わからない」が6.3ポイント高く、「今後も暮らしたい」が8.1ポイント低くなっています。



\* ( ) は平成25年調査の選択項目

不明・無回答は非表示

【回答者属性別の傾向】

- 多くの属性で「今後も暮らしたい」が最も高くなっています。
- 上記以外では、10代、20代、学生は「わからない」が最も高くなっています。

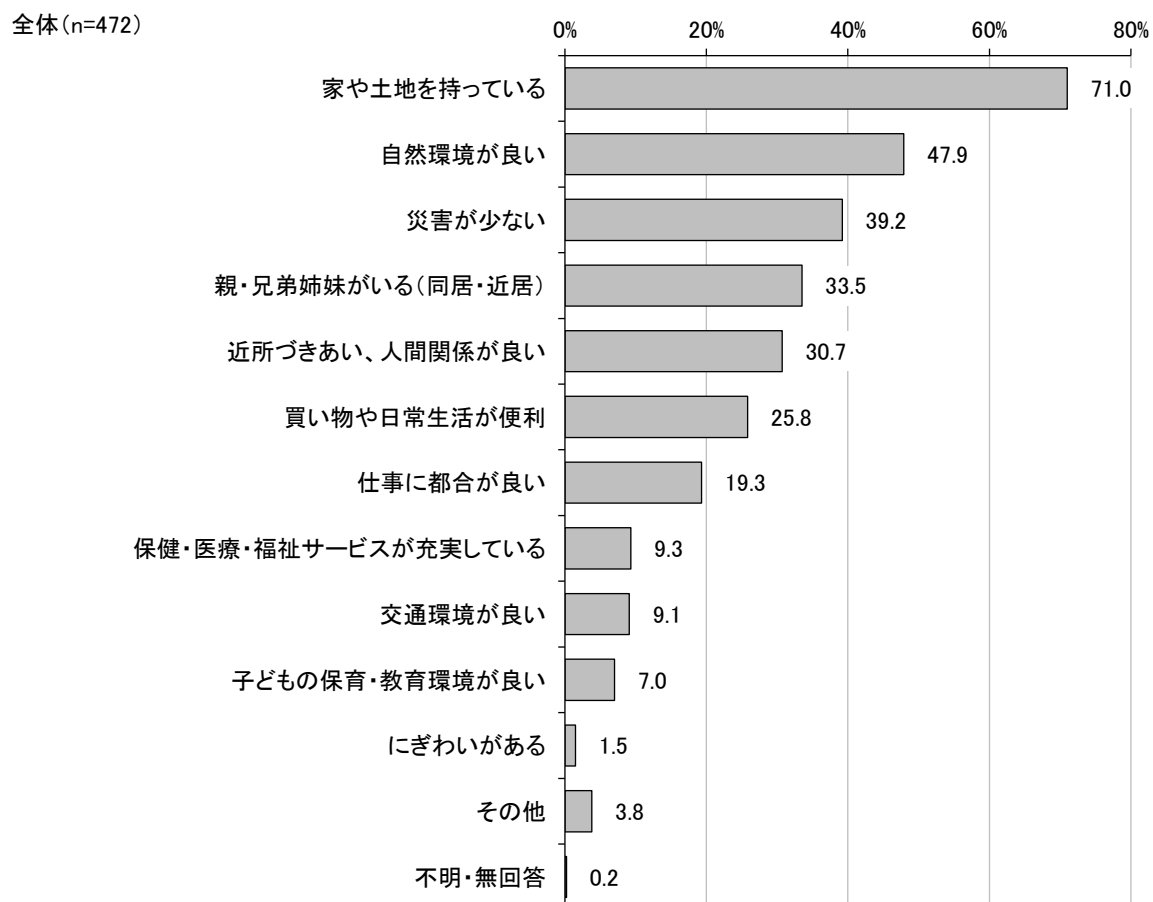
回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	い 今 後 も 暮 ら し た	思 暮 ら し た い と は	わ か ら な い
性別	男性	347	62.2	13.0	22.8
	女性	426	60.1	12.7	26.5
年齢	10代	73	31.5	24.7	43.8
	20代	66	34.8	24.2	40.9
	30代	73	46.6	17.8	35.6
	40代	87	60.9	16.1	21.8
	50代	109	56.9	18.3	24.8
	60代	133	69.2	7.5	23.3
	70代以上	233	79.4	3.4	13.3
地区	船引地区	440	65.7	11.6	22.0
	滝根地区	105	54.3	22.9	21.0
	大越地区	88	50.0	15.9	33.0
	都路地区	43	58.1	11.6	30.2
	常葉地区	96	57.3	5.2	33.3
世帯	ひとり暮らし	60	60.0	16.7	23.3
	夫婦のみ	152	68.4	5.9	23.0
	2世代同居	332	63.3	15.1	21.4
	3世代同居	130	57.7	16.9	23.1
	上記以外	97	45.4	9.3	43.3
職業	会社員等	249	56.2	16.9	26.5
	契約・派遣等	102	51.0	13.7	35.3
	農林漁業	46	87.0	4.3	6.5
	役員・自営等	57	64.9	14.0	21.1
	家事専業	55	69.1	9.1	21.8
	学生	62	25.8	32.3	41.9
	無職	180	73.3	3.3	19.4
	上記以外	19	73.7	10.5	15.8
通勤 学務 先・	市内	286	59.4	13.6	26.6
	市外	229	48.9	21.8	29.3
	非就労・非通学	209	73.7	3.8	20.1

問8で「今後も暮らしたい」と答えた方にお尋ねします。

付問1 あなたが住み続けたいと思う理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

○ 市内居住意向が高い人の住み続けたい主な理由は、「家や土地を持っている」(71.0%)が最も高く、「自然環境が良い」(47.9%)、「災害が少ない」(39.2%)が続きます。



【回答者属性別の傾向】

- 多くの属性で「家や土地を持っている」が最も高くなっています。
- 上記以外では、10代、20代、世帯の上記以外、学生は「自然環境が良い」が最も高くなっています。

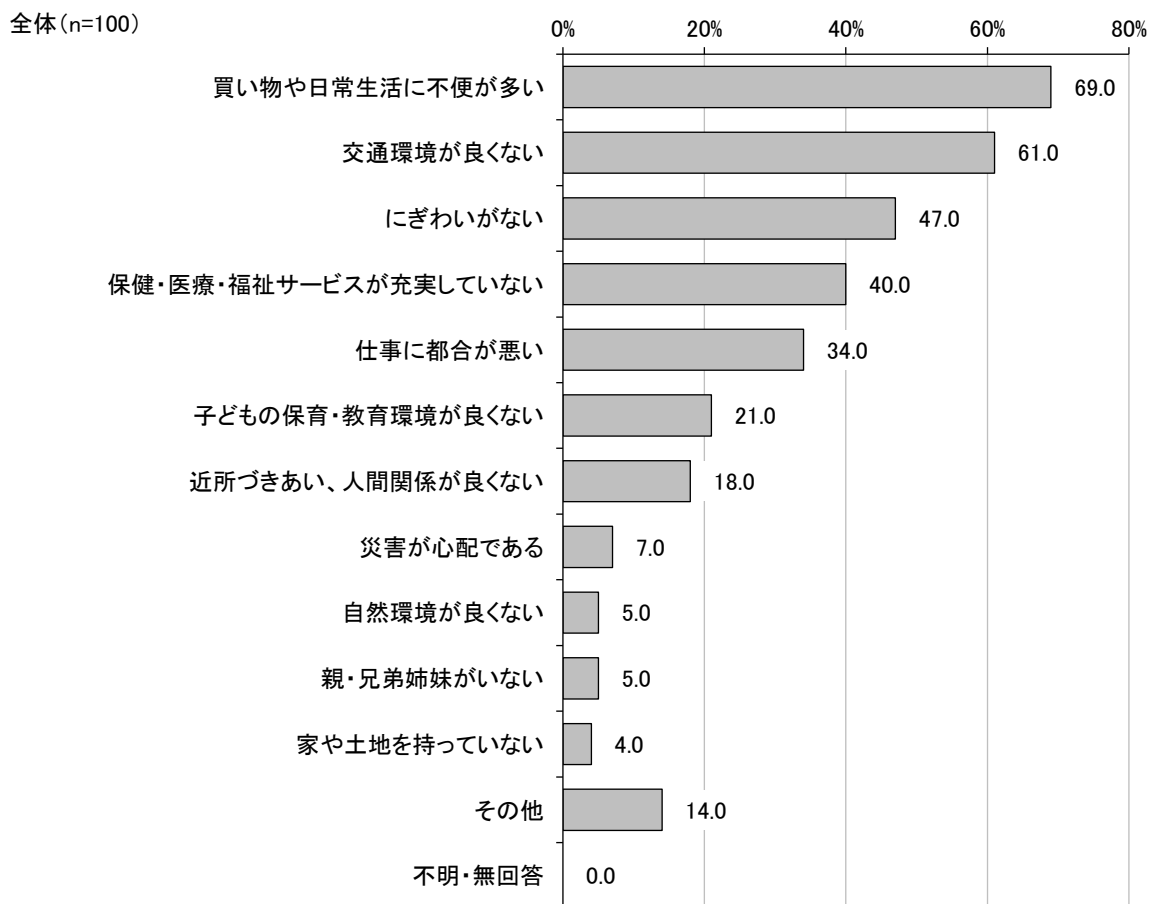
回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	自然環境が良い	近所づきあい、関係が良い	子どもの保育・教育環境が良い	子育てサービスが充実している	保健・医療・福祉サービスが充実している	買い物や日常生活が便利	交通環境が良い	災害が少ない	にぎわいがある	仕事に都合が良い	親・兄弟姉妹がいる（同居・近居）	家や土地を持っている	その他
性別	男性	216	48.1	28.2	3.2	6.5	22.7	7.9	38.4	1.4	17.1	28.2	71.3	3.7	
	女性	256	47.7	32.8	10.2	11.7	28.5	10.2	39.8	1.6	21.1	37.9	70.7	3.9	
年齢	10代	23	65.2	17.4	0.0	0.0	17.4	0.0	13.0	4.3	30.4	60.9	8.7	0.0	
	20代	23	65.2	17.4	17.4	4.3	43.5	17.4	34.8	8.7	17.4	47.8	34.8	4.3	
	30代	34	38.2	14.7	20.6	8.8	35.3	14.7	26.5	0.0	29.4	50.0	52.9	2.9	
	40代	53	45.3	30.2	15.1	7.5	22.6	11.3	30.2	1.9	43.4	43.4	62.3	7.5	
	50代	62	43.5	12.9	6.5	9.7	19.4	4.8	30.6	0.0	24.2	25.8	77.4	3.2	
	60代	92	43.5	30.4	5.4	6.5	31.5	10.9	41.3	0.0	21.7	40.2	88.0	1.1	
	70代以上	185	49.7	43.2	2.7	13.0	23.2	8.1	49.7	1.6	6.5	21.6	78.4	4.9	
地区	船引地区	289	45.3	27.0	8.0	11.4	34.6	11.8	38.8	1.7	19.4	31.1	71.3	4.2	
	滝根地区	57	52.6	33.3	3.5	3.5	10.5	5.3	40.4	0.0	22.8	29.8	70.2	1.8	
	大越地区	44	50.0	40.9	9.1	9.1	9.1	0.0	52.3	2.3	27.3	50.0	65.9	2.3	
	都路地区	25	56.0	40.0	8.0	12.0	12.0	8.0	36.0	0.0	8.0	24.0	68.0	8.0	
	常葉地区	55	50.9	36.4	3.6	3.6	16.4	7.3	30.9	1.8	12.7	41.8	76.4	3.6	
世帯	ひとり暮らし	36	55.6	30.6	2.8	8.3	19.4	2.8	36.1	2.8	11.1	13.9	61.1	5.6	
	夫婦のみ	104	48.1	32.7	3.8	10.6	23.1	12.5	50.0	1.0	14.4	22.1	78.8	7.7	
	2世代同居	210	43.8	29.0	9.0	8.1	27.6	9.0	36.2	1.0	24.3	39.0	70.5	3.3	
	3世代同居	75	48.0	34.7	6.7	9.3	24.0	6.7	34.7	1.3	17.3	42.7	74.7	0.0	
	上記以外	44	61.4	27.3	6.8	13.6	31.8	11.4	40.9	4.5	15.9	31.8	59.1	2.3	
職業	会社員等	140	43.6	17.9	12.1	7.1	24.3	11.4	32.1	1.4	32.9	37.9	65.7	5.0	
	契約・派遣等	52	30.8	23.1	7.7	5.8	30.8	7.7	32.7	0.0	36.5	46.2	65.4	0.0	
	農林漁業	40	47.5	50.0	2.5	10.0	22.5	7.5	40.0	0.0	15.0	27.5	90.0	0.0	
	役員・自営等	37	59.5	32.4	8.1	13.5	29.7	10.8	45.9	0.0	27.0	29.7	83.8	2.7	
	家事専業	38	60.5	39.5	5.3	5.3	34.2	10.5	57.9	2.6	2.6	34.2	81.6	7.9	
	学生	16	75.0	25.0	0.0	0.0	6.3	0.0	18.8	6.3	6.3	62.5	18.8	0.0	
	無職	132	47.7	36.4	4.5	13.6	26.5	8.3	43.2	2.3	3.8	23.5	72.0	4.5	
	上記以外	14	50.0	42.9	0.0	7.1	21.4	7.1	42.9	0.0	21.4	28.6	71.4	0.0	
通勤・学務先	市内	170	42.4	23.5	10.0	7.6	25.3	9.4	34.7	0.0	38.8	33.5	70.0	2.9	
	市外	112	45.5	23.2	6.3	5.4	21.4	8.0	32.1	2.7	14.3	42.0	63.4	2.7	
	非就労・非通学	154	51.3	39.0	5.8	13.0	27.3	9.1	46.1	2.6	3.9	27.9	74.7	5.8	

問8で「暮らしたいとは思わない」と答えた方にお尋ねします。

付問2 あなたが住み続けたくないと思う理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- 市内居住意向が低い人の住みたくない主な理由は、「買い物や日常生活に不便が多い」(69.0%)が最も高く、「交通環境が良くない」(61.0%)、「にぎわいがない」(47.0%)が続きます。



【回答者属性別の傾向】

- 多くの属性で「買い物や日常生活に不便が多い」もしくは「交通環境が良くない」が最も高くなっています。
- 上記以外では、10代は「仕事に都合が悪い」、70代以上、常葉地区、夫婦のみ、世帯の上記以外は「買い物や日常生活に不便が多い」と「にぎわいが無い」、農林漁業は「買い物や日常生活に不便が多い」と「交通環境が良くない」と「にぎわいが無い」が最も高くなっています。

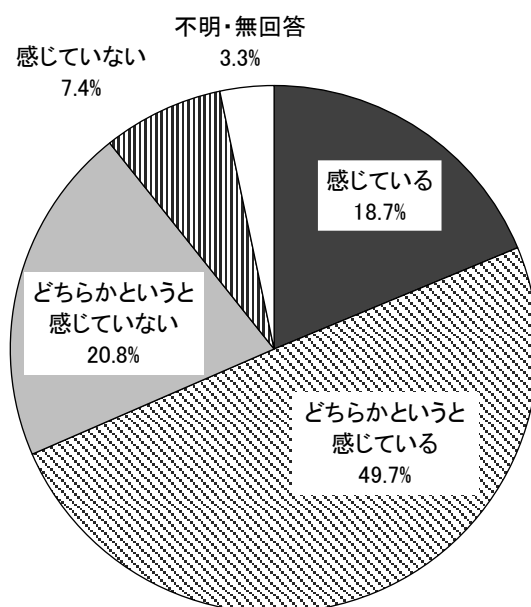
回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	自然環境が良くない	近所づきあい、人間関係が良くない	子どもの保育・教育環境が良くない	いないサービスが充実していない	保健・医療・福祉	買い物や日常生活に不便が多い	交通環境が良くない	災害が心配である	にぎわいが無い	仕事に都合が悪い	親・兄弟姉妹がいない	家や土地を持っていない	その他
			性別	男性	45	2.2	22.2	13.3	31.1	68.9	60.0	2.2	53.3	33.3	0.0
	女性	54	7.4	14.8	25.9	46.3	68.5	61.1	11.1	40.7	35.2	9.3	5.6	9.3	
年齢	10代	18	0.0	16.7	16.7	16.7	66.7	66.7	5.6	27.8	72.2	5.6	0.0	11.1	
	20代	16	0.0	25.0	25.0	37.5	50.0	56.3	6.3	43.8	50.0	0.0	0.0	18.8	
	30代	13	15.4	23.1	38.5	46.2	76.9	38.5	23.1	61.5	38.5	7.7	7.7	15.4	
	40代	14	7.1	0.0	28.6	42.9	78.6	64.3	7.1	35.7	14.3	14.3	7.1	21.4	
	50代	20	0.0	25.0	15.0	60.0	75.0	75.0	0.0	60.0	25.0	0.0	0.0	5.0	
	60代	10	0.0	0.0	10.0	50.0	80.0	70.0	0.0	50.0	10.0	0.0	0.0	20.0	
	70代以上	8	25.0	37.5	0.0	12.5	50.0	37.5	12.5	50.0	0.0	12.5	25.0	12.5	
地区	船引地区	51	2.0	17.6	21.6	37.3	58.8	60.8	5.9	41.2	39.2	3.9	2.0	17.6	
	滝根地区	24	0.0	20.8	16.7	37.5	70.8	54.2	0.0	54.2	29.2	4.2	0.0	8.3	
	大越地区	14	14.3	21.4	21.4	57.1	85.7	71.4	7.1	35.7	14.3	7.1	14.3	14.3	
	都路地区	5	40.0	20.0	40.0	60.0	100.0	60.0	20.0	80.0	60.0	20.0	20.0	0.0	
	常葉地区	5	0.0	0.0	20.0	20.0	80.0	60.0	40.0	80.0	40.0	0.0	0.0	0.0	
世帯	ひとり暮らし	10	10.0	40.0	20.0	30.0	60.0	60.0	10.0	20.0	20.0	20.0	30.0	10.0	
	夫婦のみ	9	11.1	11.1	11.1	44.4	66.7	55.6	0.0	66.7	44.4	11.1	0.0	22.2	
	2世代同居	50	4.0	22.0	20.0	44.0	76.0	60.0	10.0	44.0	28.0	4.0	2.0	14.0	
	3世代同居	22	0.0	9.1	27.3	36.4	59.1	72.7	4.5	50.0	54.5	0.0	0.0	13.6	
	上記以外	9	11.1	0.0	22.2	33.3	66.7	44.4	0.0	66.7	22.2	0.0	0.0	11.1	
職業	会社員等	42	4.8	11.9	21.4	50.0	81.0	59.5	4.8	57.1	33.3	4.8	2.4	14.3	
	契約・派遣等	14	7.1	28.6	21.4	50.0	50.0	57.1	7.1	50.0	21.4	0.0	7.1	21.4	
	農林漁業	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	役員・自営等	8	0.0	12.5	37.5	50.0	75.0	50.0	0.0	62.5	25.0	0.0	0.0	12.5	
	家事専業	5	20.0	40.0	20.0	60.0	100.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	
	学生	20	0.0	20.0	15.0	15.0	60.0	75.0	10.0	25.0	60.0	5.0	0.0	10.0	
	無職	6	16.7	33.3	16.7	16.7	66.7	66.7	16.7	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0	
	上記以外	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
通勤 学務先・	市内	39	7.7	12.8	23.1	51.3	69.2	59.0	5.1	59.0	12.8	2.6	0.0	12.8	
	市外	50	0.0	20.0	20.0	32.0	68.0	64.0	6.0	38.0	54.0	4.0	4.0	16.0	
	非就労・非通学	8	0.0	12.5	12.5	37.5	87.5	50.0	0.0	50.0	12.5	12.5	0.0	12.5	

### 問9 田村市へ愛着や誇りを感じていますか。(1つに○)

- 田村市への愛着や誇りの自覚は、「どちらかというと感じている」(49.7%)が最も高く、「どちらかというと感じていない」(20.8%)、「感じている」(18.7%)が続きます。
- 『愛着を感じる』(感じている+どちらかというと感じているの合計)は68.4%であり、『愛着を感じない』(どちらかというと感じていない+感じていないの合計)の28.2%を大きく上回ります。

全体(n=780)



【回答者属性別の傾向】

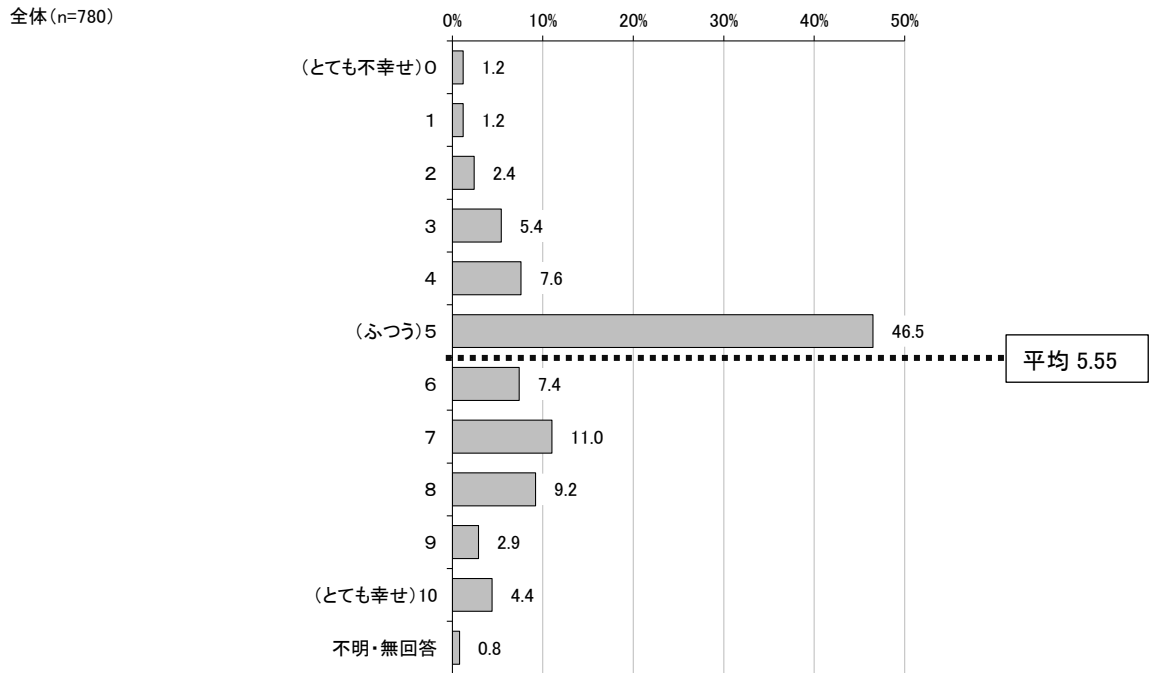
- ほぼ全ての属性で「どちらかというと感じている」が最も高く、全ての属性で『愛着を感じる』（感じている+どちらかというと感じているの合計）が50%を超えています。
- 『愛着を感じる』（感じている+どちらかというと感じているの合計）が特に高い属性をみると、40代、60代、70代以上、船引地区、ひとり暮らし、3世代同居、農林漁業、役員・自営等、家事専業、無職、職業の上記以外、非就労・非通学が70%を超えています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	愛着を感じる		愛着を感じない		感『愛着を じる』	感『愛着を じないを』
			感じて いる	ていど いうち ら感か じと	ていど いうち ら感か じと	い感 じて いな		
性別	男性	347	19.6	49.3	18.2	8.4	68.9	26.6
	女性	426	18.3	50.9	22.8	6.6	69.2	29.4
年齢	10代	73	28.8	38.4	27.4	1.4	67.2	28.8
	20代	66	21.2	39.4	21.2	16.7	60.6	37.9
	30代	73	13.7	47.9	30.1	8.2	61.6	38.3
	40代	87	12.6	59.8	18.4	6.9	72.4	25.3
	50代	109	10.1	50.5	26.6	11.9	60.6	38.5
	60代	133	13.5	57.9	19.5	6.0	71.4	25.5
	70代以上	233	26.2	49.4	14.6	5.2	75.6	19.8
地区	船引地区	440	19.3	51.6	17.3	8.6	70.9	25.9
	滝根地区	105	13.3	50.5	27.6	6.7	63.8	34.3
	大越地区	88	15.9	50.0	25.0	4.5	65.9	29.5
	都路地区	43	32.6	37.2	20.9	7.0	69.8	27.9
	常葉地区	96	19.8	46.9	26.0	6.3	66.7	32.3
世帯	ひとり暮らし	60	23.3	48.3	18.3	10.0	71.6	28.3
	夫婦のみ	152	21.7	44.7	22.4	8.6	66.4	31.0
	2世代同居	332	14.8	53.9	21.4	6.9	68.7	28.3
	3世代同居	130	25.4	49.2	19.2	3.8	74.6	23.0
	上記以外	97	17.5	47.4	20.6	10.3	64.9	30.9
職業	会社員等	249	13.7	51.4	22.9	10.4	65.1	33.3
	契約・派遣等	102	4.9	54.9	27.5	10.8	59.8	38.3
	農林漁業	46	30.4	56.5	6.5	4.3	86.9	10.8
	役員・自営等	57	26.3	50.9	19.3	1.8	77.2	21.1
	家事専業	55	21.8	49.1	18.2	9.1	70.9	27.3
	学生	62	32.3	32.3	30.6	1.6	64.6	32.2
	無職	180	19.4	51.7	17.2	5.6	71.1	22.8
	上記以外	19	47.4	36.8	5.3	10.5	84.2	15.8
通勤 学務 先・	市内	286	13.6	54.5	22.7	7.7	68.1	30.4
	市外	229	20.1	44.5	24.0	8.7	64.6	32.7
	非就労・非通学	209	22.0	53.1	14.8	5.7	75.1	20.5

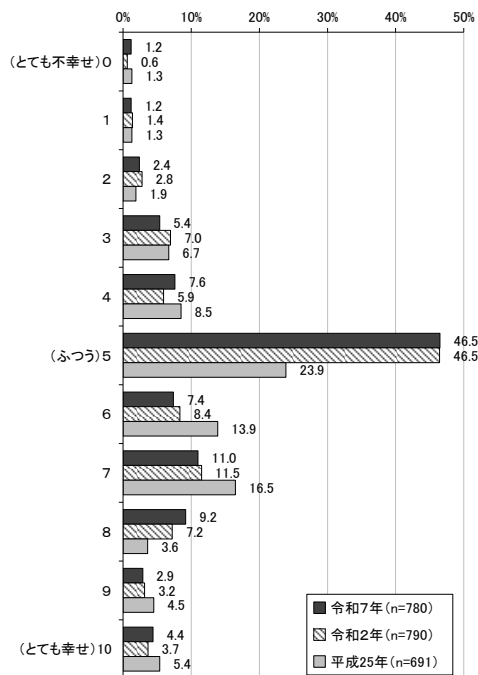
問 10 現在のあなたの幸福度はどのくらいですか。(1つに○) ※地域幸福度算定用設問

- 回答者の市民幸福度（11段階評価。5 = ふつう）は、「5」（46.5%）が最も高く、幸福により近づく「7」（11.0%）、「8」（9.2%）が続きます。
- 市民幸福度は平均 5.55 となっています。（平均は無回答を除いた回答者 774 で算出）。



令和 2 年、平成 25 年調査との比較

- 令和 2 年調査とほぼ同様の傾向となっています。
- 令和 2 年調査の幸福度の平均は 5.48、平成 25 年調査の幸福度の平均は 5.96 となっており、ほぼ同様の傾向となっています。



不明・無回答は非表示

【回答者属性別の傾向】

- 幸福度を「0～4（不幸に近い）」と「5（ふつう）」と「6～10（幸福に近い）」の3段階で見ると、ほとんどの属性で「5（ふつう）」が最も高くなっています。
- 上記以外では、10代、40代、3世代同居、役員・自営等、学生で「6～10（幸福に近い）」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

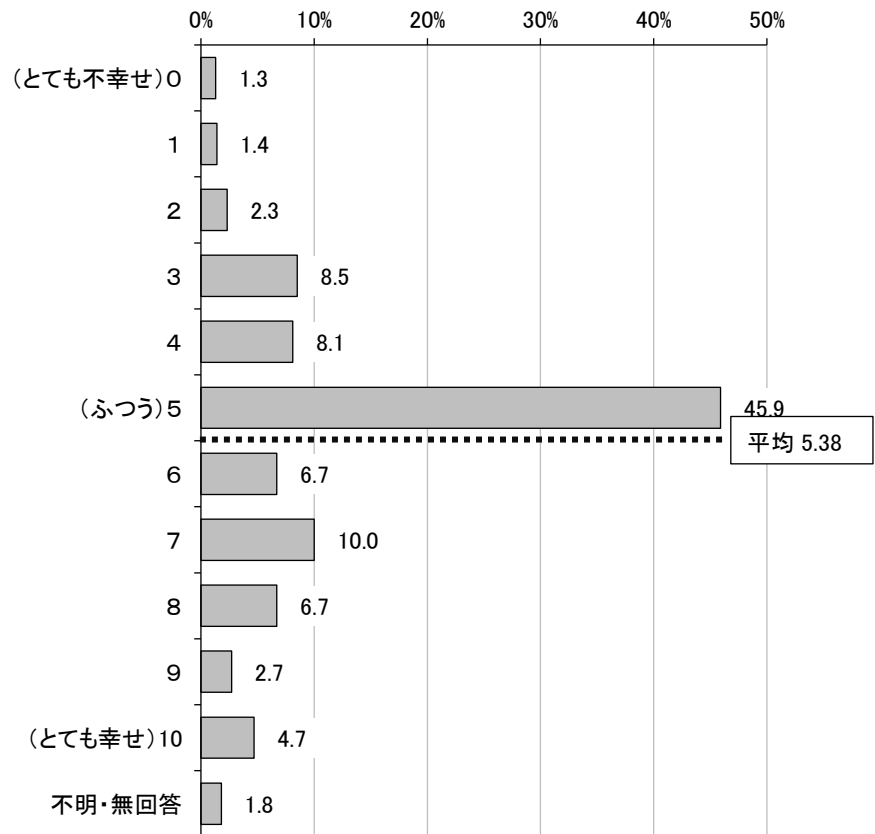
属性	区分	回答者	0 5 4	5	6 5 1 0
全体		780	0.0	0.0	0.0
性別	男性	347	20.8	46.7	32.0
	女性	426	15.0	46.9	38.0
年齢	10代	73	15.1	41.1	42.5
	20代	66	18.2	47.0	34.9
	30代	73	27.4	37.0	35.6
	40代	87	23.0	36.8	40.1
	50代	109	21.1	54.1	24.7
	60代	133	23.4	44.4	32.4
	70代以上	233	8.6	53.2	37.7
地区	船引地区	440	17.7	45.5	36.6
	滝根地区	105	18.1	49.5	32.5
	大越地区	88	21.5	48.9	28.5
	都路地区	43	16.3	48.8	34.9
	常葉地区	96	15.6	44.8	39.6
世帯	ひとり暮らし	60	19.9	53.3	26.7
	夫婦のみ	152	16.4	43.4	40.1
	2世代同居	332	18.9	50.3	30.6
	3世代同居	130	16.1	37.7	46.1
	上記以外	97	16.5	47.4	34.0
職業	会社員等	249	22.8	41.0	36.0
	契約・派遣等	102	22.5	52.0	25.5
	農林漁業	46	4.4	52.2	43.4
	役員・自営等	57	15.8	38.6	45.5
	家事専業	55	14.5	43.6	41.9
	学生	62	14.5	38.7	45.1
	無職	180	15.0	55.6	28.9
	上記以外	19	10.5	57.9	31.7
通勤 学務先・	市内	286	17.7	42.0	40.1
	市外	229	23.2	46.3	30.2
	非就労・非通学	209	14.8	51.7	33.4

問 11 今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。(1つに○)

※地域幸福度算定用設問

- 回答者の5年後の市民幸福度(11段階評価。5 = ふつう)は、「5」(45.9%)が最も高く、「7」(10.0%)、「3」(8.5%)が続きます。
- 5年後の市民幸福度は平均5.38となっています(平均は無回答を除いた回答者766で算出)。

全体(n=780)



【回答者属性別の傾向】

- 5年後の幸福度を「0～4（不幸に近い）」と「5（ふつう）」と「6～10（幸福に近い）」の3段階で見ると、ほとんどの属性で「5（ふつう）」が最も高くなっています。
- 上記以外では、10代、40代、常葉地区、学生で「6～10（幸福に近い）」が最も高くなっています。また、20代で「5（ふつう）」と「6～10（幸福に近い）」が同率となっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

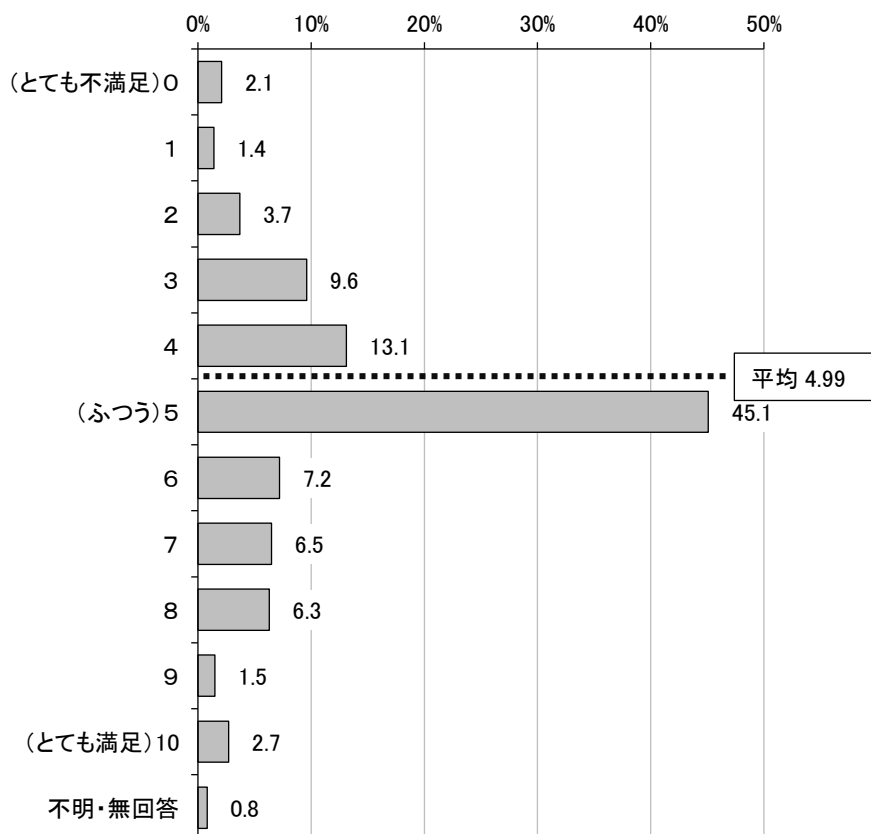
属性	区分	回答者	0 ～ 4	5	6 ～ 10
性別	男性	347	23.8	47.6	26.5
	女性	426	19.7	44.4	34.2
年齢	10代	73	15.0	39.7	45.1
	20代	66	18.2	40.9	40.9
	30代	73	20.5	43.8	34.2
	40代	87	30.9	31.0	36.7
	50代	109	24.8	49.5	24.9
	60代	133	27.1	46.6	24.8
	70代以上	233	16.8	53.2	26.2
地区	船引地区	440	22.1	44.8	31.6
	滝根地区	105	23.9	50.5	25.7
	大越地区	88	21.6	51.1	23.9
	都路地区	43	11.6	53.5	30.4
	常葉地区	96	22.9	36.5	38.5
世帯	ひとり暮らし	60	21.6	48.3	26.7
	夫婦のみ	152	21.8	46.1	29.5
	2世代同居	332	24.0	46.4	28.2
	3世代同居	130	16.2	43.1	39.9
	上記以外	97	20.7	45.4	30.8
職業	会社員等	249	24.4	39.8	34.8
	契約・派遣等	102	31.3	42.2	25.5
	農林漁業	46	10.8	50.0	39.0
	役員・自営等	57	17.7	45.6	31.6
	家事専業	55	20.0	45.5	32.8
	学生	62	12.9	40.3	46.8
	無職	180	22.3	54.4	19.9
	上記以外	19	0.0	68.4	31.6
通勤 学務先・ 非就労・非通学	市内	286	22.0	38.5	37.7
	市外	229	23.7	47.2	28.8
	非就労・非通学	209	22.8	53.1	21.5

## 問 12 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。(1つに○)

※地域幸福度算定用設問

- 回答者の暮らしの満足度（11段階評価。5 = ふつう）は、「5」（45.1%）が最も高く、不満足により近づく「4」（13.1%）、「3」（9.6%）が続きます。
- 暮らしの満足度は平均 4.99 であり、ほぼ真ん中となっています（平均は無回答を除いた回答者 774 で算出）。

全体 (n=780)



【回答者属性別の傾向】

- 暮らしの満足度を「0～4（不満足に近い）」と「5（ふつう）」と「6～10（満足に近い）」の3段階で見ると、ほとんどの属性で「5（ふつう）」が最も高くなっています。
- 上記以外では、30代で「0～4（不満足に近い）」、役員・自営等で「6～10（幸福に近い）」が最も高くなっています。また、10代で「5（ふつう）」と「6～10（幸福に近い）」が同率となっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

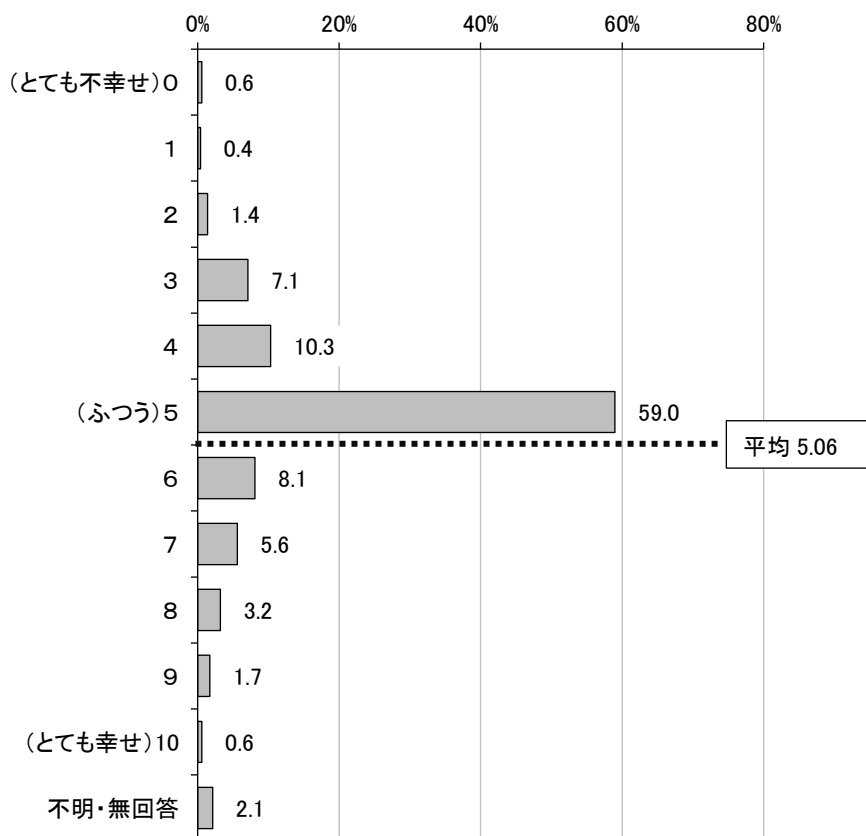
属性	区分	回答者	0 5 4	5	6 5 1 0
性別	男性	347	32.2	44.4	22.7
	女性	426	27.9	45.8	25.4
年齢	10代	73	31.5	34.2	34.2
	20代	66	30.4	40.9	28.8
	30代	73	38.3	37.0	24.6
	40代	87	34.4	42.5	22.9
	50代	109	38.6	45.0	16.5
	60代	133	29.4	45.9	24.1
	70代以上	233	21.1	53.2	23.7
地区	船引地区	440	27.3	46.1	25.3
	滝根地区	105	28.6	48.6	22.9
	大越地区	88	38.6	39.8	21.6
	都路地区	43	32.6	41.9	25.6
	常葉地区	96	34.3	43.8	21.8
世帯	ひとり暮らし	60	18.4	55.0	25.0
	夫婦のみ	152	24.3	51.3	24.4
	2世代同居	332	31.5	44.6	23.1
	3世代同居	130	31.5	40.0	28.4
	上記以外	97	38.1	38.1	20.6
職業	会社員等	249	33.7	41.4	24.8
	契約・派遣等	102	40.2	40.2	18.7
	農林漁業	46	15.2	56.5	28.3
	役員・自営等	57	31.6	31.6	36.8
	家事専業	55	25.4	43.6	30.9
	学生	62	30.7	37.1	32.3
	無職	180	26.7	55.6	15.6
	上記以外	19	5.3	63.2	26.4
通勤 学務先・	市内	286	30.4	42.7	26.5
	市外	229	35.3	40.2	24.5
	非就労・非通学	209	26.7	51.7	19.6

### 問 13 あなたの行政区内の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。(1つに○)

※地域幸福度算定用設問

- 行政区内の人々の市民幸福度（11段階評価。5 = ふつう）は、「5」（59.0%）が最も高く、「4」（10.3%）、「6」（8.1%）が続きます。
- 行政区内の人々の市民幸福度は平均 5.06 であり、ほぼ真ん中となっています（平均は無回答を除いた回答者 764 で算出）。

全体 (n=780)



【回答者属性別の傾向】

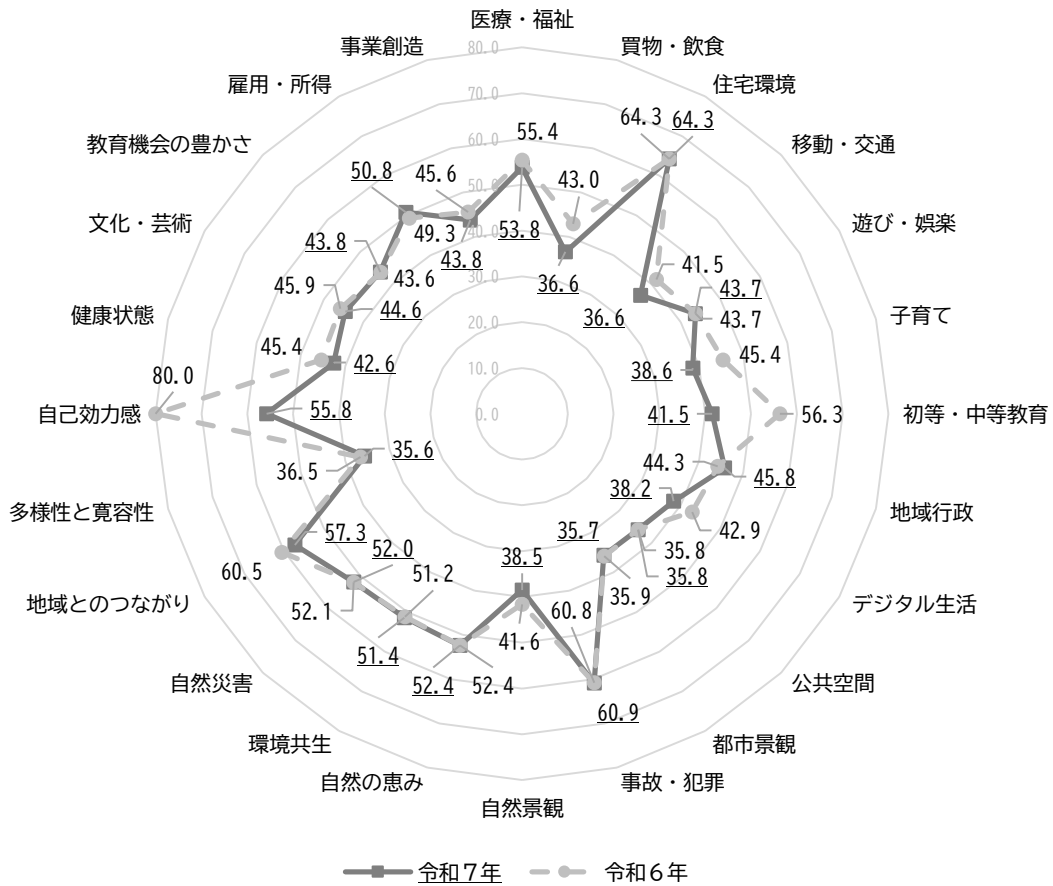
- 行政区内の人々の幸福度を「0～4（不幸に近い）」と「5（ふつう）」と「6～10（幸福に近い）」の3段階で見ると、全ての属性で「5（ふつう）」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	0 ～ 4	5	6 ～ 10
性別	男性	347	25.2	56.2	17.9
	女性	426	15.5	61.3	20.5
年齢	10代	73	13.8	45.2	41.1
	20代	66	15.1	63.6	21.2
	30代	73	19.2	56.2	24.7
	40代	87	25.1	55.2	18.3
	50代	109	32.1	54.1	13.7
	60代	133	20.3	60.2	17.4
	70代以上	233	15.0	66.1	14.3
地区	船引地区	440	17.3	59.8	20.8
	滝根地区	105	20.1	62.9	16.2
	大越地区	88	27.3	55.7	14.7
	都路地区	43	14.0	62.8	23.3
	常葉地区	96	27.0	51.0	18.7
世帯	ひとり暮らし	60	10.1	63.3	21.7
	夫婦のみ	152	23.7	57.9	15.2
	2世代同居	332	19.8	60.8	18.3
	3世代同居	130	16.1	57.7	24.7
	上記以外	97	23.6	52.6	20.6
職業	会社員等	249	21.2	54.6	23.2
	契約・派遣等	102	21.5	64.7	12.8
	農林漁業	46	15.2	69.6	15.2
	役員・自営等	57	24.6	50.9	22.8
	家事専業	55	20.0	60.0	16.3
	学生	62	17.7	46.8	35.4
	無職	180	17.9	66.1	11.2
	上記以外	19	10.5	57.9	26.3
通勤 学務先・	市内	286	19.5	58.4	20.9
	市外	229	22.2	55.0	22.3
	非就労・非通学	209	20.2	62.2	13.8

【参考】地域幸福度 Well-Being 指標（客観データ）

- 令和7年度の指標の上位3位は、「住宅環境」（64.3）、「事故・犯罪」（60.9）、「地域とのつながり」（57.3）、下位3位は「公共空間」（35.8）、「都市景観」（35.7）、「多様性と寛容性」（35.6）となっています。



出典：Well-Being 全国調査

## ■地域幸福度 Well-Being 指標（客観指標）の内容

指標	内容	内容	内容
医療・福祉	人口当たりの医療施設や児童福祉施設数、認知症のサポーター数等から、地域における医療サービスの受けやすさ、医療・福祉体制の充実度を測ります。	自然景観	国立公園や景観重要樹木の有無などから、山、海、川などの豊かな自然が身近にあるかを測ります。
買物・飲食	小売店・飲食店の密度や店舗数から、日常生活における利便性（食料品や日用品の買いやすさ）、外食を楽しめる環境の豊かさを測ります。	自然の恵み	地産地消の農産物の豊富さ、水質の良さ、特産品の供給力などから、地域の自然資源がもたらす恩恵を測ります。
住宅環境	一戸建ての持家の割合や宅地価格などから、住まいの質・ゆとりを測ります。	環境共生	ゴミのリサイクル率、再生可能エネルギーの導入量、CO2 排出量などから、地球環境への配慮や持続可能性を測ります。
移動・交通	駅やバス停へのアクセスの良さ、通勤時間などから、公共交通機関の利便性や移動のしやすさを測ります。	自然災害	自然災害リスクの危険度や防災教育の状況などから、災害に対する強さと安全性を測ります。
遊び・娯楽	人口あたり娯楽施設（映画館やスポーツ施設等）の事業所数などから余暇を楽しむための施設の充実度を測ります。	地域とのつながり	居住年数や地域行事への参加率、NPO の数などから、住民同士の交流や社会参加の活発さを測ります。
子育て	待機児童数や合計特殊出生率、幼稚園数などから、子どもを産み育てやすい環境かを測ります。	多様性と寛容性	女性の社会進出状況や外国人住民の割合などから、多様な人々が共生できているかを測ります。
初等・中等教育	学校数や学校あたりの児童・生徒数などから、義務教育を中心とした学校教育の質と環境を測ります。	自己効力感	選挙での投票率などから、住民が自分の能力を発揮できている環境かを測ります。
地域行政	公共施設の利用者数や地域財政指数などから、自治体が提供するサービスの質や効率性を測ります。	健康状態	健康寿命などから、長く元気に暮らせる土壌があるかを測ります。
デジタル生活	役所でのオンライン手続きの導入状況やマイナンバーカードの普及率などから、IT を活用した生活の利便性を測ります。	文化・芸術	芸術家の割合や日本遺産の数などから、文化的な活動や芸術に触れる機会を測ります。
公共空間	人口あたりの公園面積や歩道の設置率などから、住民が自由に利用できる公園や広場の充実度を測ります。	教育機会の豊かさ	大学数や生涯学習の講座数・利用者数などから、学びの場の充実度を測ります。
都市景観	景観条例の有無や景観重要建造物の有無から、街並みの美しさや歴史的な情緒を測ります。	雇用・所得	ひとり当たり所得や完全失業率、正規雇用者比率などから、経済的な基盤の強さを測ります。
事故・犯罪	人口あたりの刑法犯認知件数や交通事故発生件数、空家率などから、地域の安全性を測ります。	事業創造	新設法人数やコワーキングスペースの数、大学発ベンチャー企業数などから、新しいビジネスが生まれる活力を測ります。

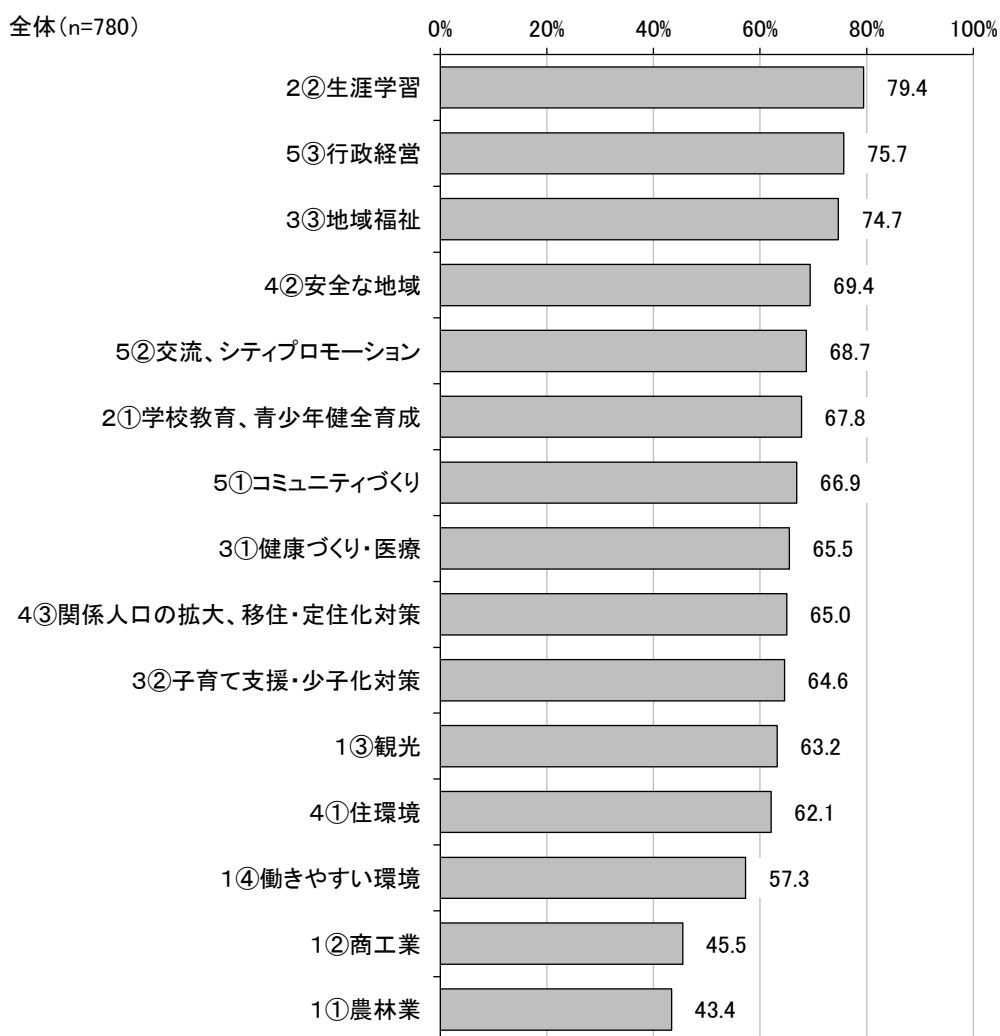
3 田村市の取り組みへの満足度、今後の重要度についてお聴きします。

問 14 あなたは、まちづくりの取り組みについて、どの程度満足していますか。また、今後はどの程度重要だと考えますか。ご自身の生活と関連が少ない項目についても、できるだけお答えください。(各項目の①満足度、②今後の重要度にそれぞれ1つずつ〇)

【全施策の満足度、不満度、重要度】

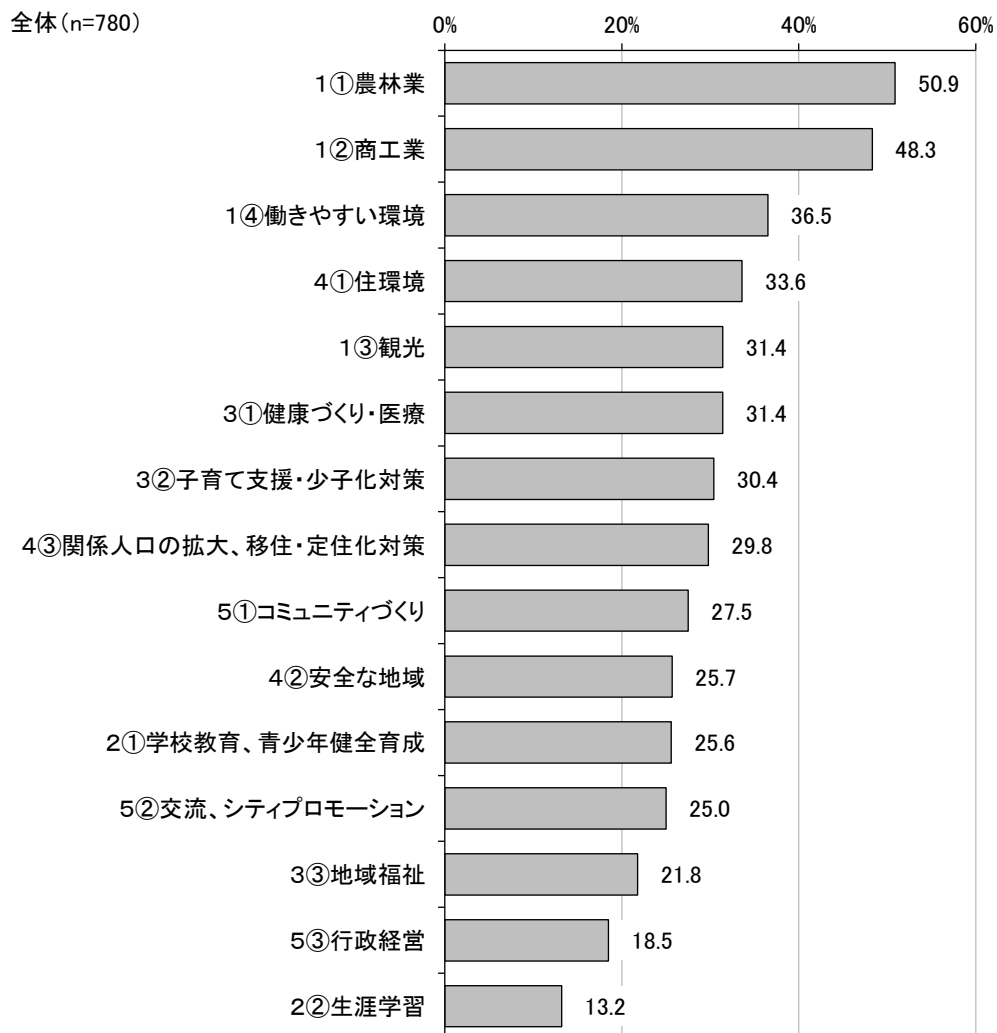
- 全施策でみる『満足度』（満足+やや満足+ふつうの合計）は、「生涯学習」が最も高く、「行政経営」が続きます。

満足度



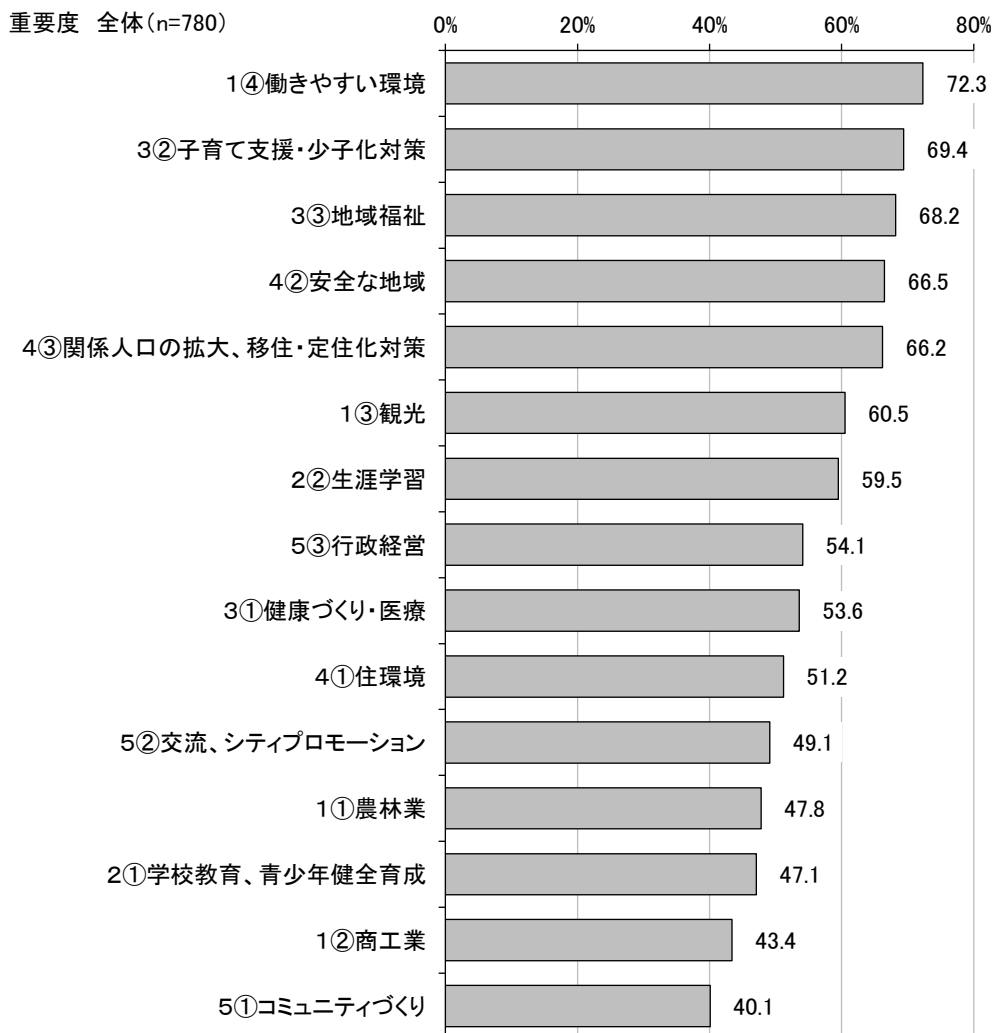
- 全施策でみる『不満度』（やや不満＋不満の合計）は、「農林業」が最も高く、「商工業」が続きます。

## 不満度



- 全施策でみる今後の『重要度』（重要+やや重要の合計）は、「働きやすい環境」が最も高く、「子育て支援・少子化対策」が続きます。

## 重要度

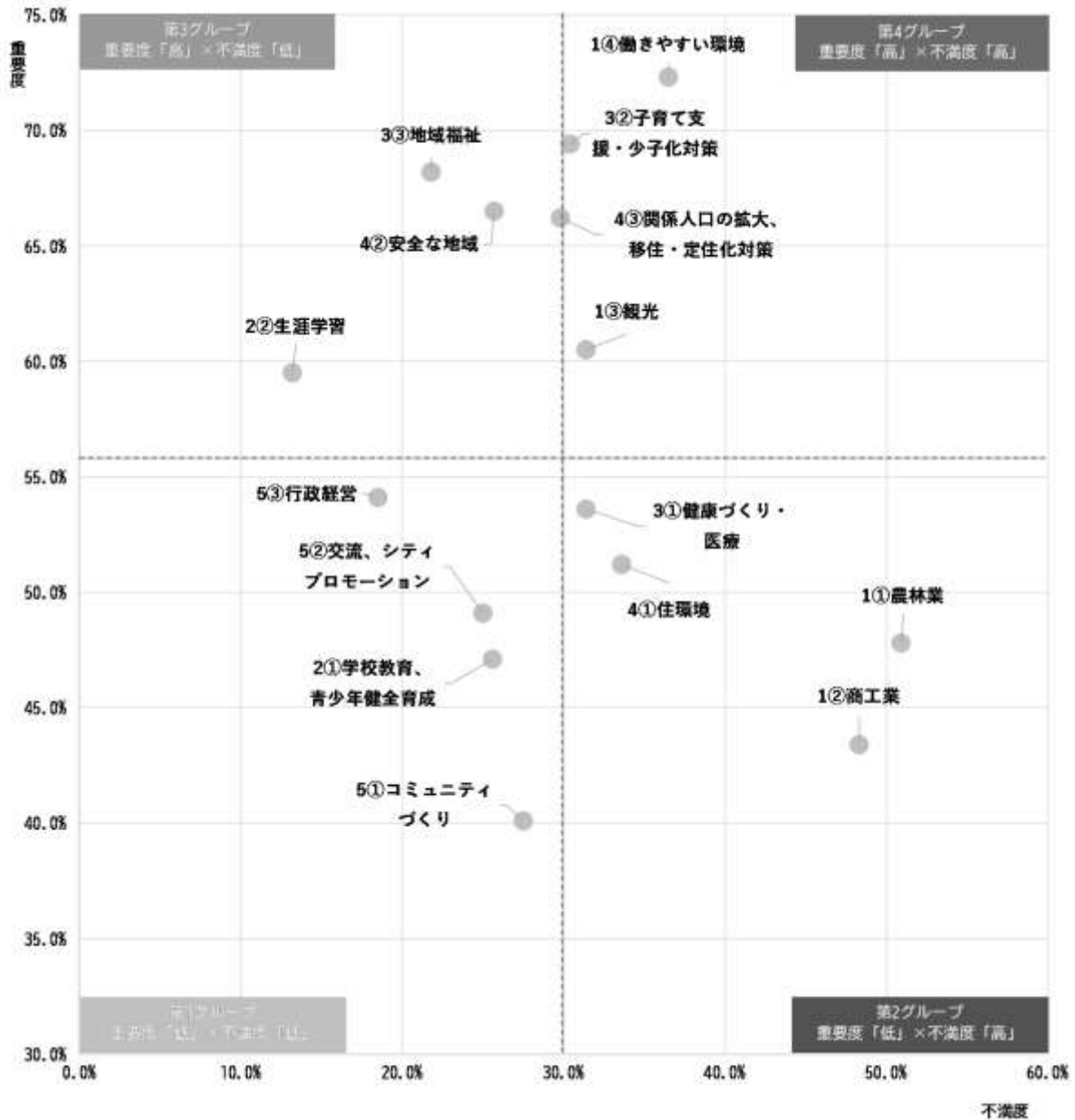


【市民意向に基づく施策の優先度（現状の不満度×今後の重要度）】

- 今後のまちづくりを検討する基礎データとして、アンケート結果の『不満度』と『重要度』を用いて施策の優先度をグループ化した結果は下表の通りです。

グループ	基準	優先度	施策数
第4	重要度 56%以上、不満度 30%以上	優先度 1（最優先）	3
第3	重要度 56%以上、不満度 30%未満	優先度 2	4
第2	重要度 56%未満、不満度 30%以上	優先度 3	4
第1	重要度 56%未満、不満度 30%未満	優先度 4	4
合計			15

〔市民アンケートに基づく施策の優先度グラフ〕



## 〔市民意向に基づく施策の優先度〕

	目標	分野	不満度	重要度
◆	優先度1（最優先）	第4グループ		
	働きたいまち（産業振興）	1③観光	31.4	60.5
	働きたいまち（産業振興）	1④働きやすい環境	36.5	72.3
	安心と絆のまち（健康・医療・福祉）	3②子育て支援・少子化対策	30.4	69.4
◆	優先度2	第3グループ		
	学べるまち（学校教育・生涯学習）	2②生涯学習	13.2	59.5
	安心と絆のまち（健康・医療・福祉）	3③地域福祉	21.8	68.2
	住みたいまち（住環境）	4②安全な地域	25.7	66.5
	住みたいまち（住環境）	4③関係人口の拡大、移住・定住化対策	29.8	66.2
◆	優先度3	第2グループ		
	働きたいまち（産業振興）	1①農林業	50.9	47.8
	働きたいまち（産業振興）	1②商工業	48.3	43.4
	安心と絆のまち（健康・医療・福祉）	3①健康づくり・医療	31.4	53.6
	住みたいまち（住環境）	4①住環境	33.6	51.2
◆	優先度4	第1グループ		
	学べるまち（学校教育・生涯学習）	2①学校教育、青少年健全育成	25.6	47.1
	支えあいのまち（コミュニティ・行政経営）	5①コミュニティづくり	27.5	40.1
	支えあいのまち（コミュニティ・行政経営）	5②交流、シティプロモーション	25.0	49.1
	支えあいのまち（コミュニティ・行政経営）	5③行政経営	18.5	54.1

分野1 働きたいまち（産業振興）

〔施策の満足度〕

- 施策の取り組みに一定の評価を示す『満足度』（満足+やや満足+ふつうの合計）は、「観光」（63.2%）が最も高くなっています【太枠】。
- 一方、施策の『不満度』（やや不満+不満の合計）は、「農林業」（50.9%）が最も高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	満足度			不満度		不明・無回答	『満足度』	『不満度』
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満			
農林業	1.4	3.2	38.8	34.9	16.0	5.6	43.4	50.9
商工業	1.0	6.8	37.7	36.2	12.1	6.3	45.5	48.3
観光	12.2	14.2	36.8	22.7	8.7	5.4	63.2	31.4
働きやすい環境	11.3	12.2	33.8	26.4	10.1	6.2	57.3	36.5

〔今後の重要度〕

- 今後の施策の『重要度』（重要+やや重要の合計）は、「働きやすい環境」（72.3%）が最も高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	重要度		ふつう	あまり重要ではない	重要ではない	不明・無回答	『重要度』
	重要	やや重要					
農林業	27.8	20.0	24.1	13.1	4.1	10.9	47.8
商工業	25.3	18.1	27.2	11.9	6.8	10.8	43.4
観光	29.9	30.6	23.5	4.0	1.3	10.8	60.5
働きやすい環境	51.9	20.4	15.8	0.8	0.4	10.8	72.3

分野2 学べるまち（学校教育・生涯学習）

〔施策の満足度〕

- 施策の取り組みに一定の評価を示す『満足度』（満足+やや満足+ふつうの合計）は、「生涯学習」（79.4%）が高くなっています【太枠】。
- 一方、施策の『不満度』（やや不満+不満の合計）は、「学校教育、青少年健全育成」（25.6%）が高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	満足度			不満度		不明・無回答	『満足度』	『不満度』
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満			
学校教育、青少年健全育成	2.4	10.1	55.3	19.4	6.2	6.7	67.8	25.6
生涯学習	15.3	14.6	49.5	9.7	3.5	7.4	79.4	13.2

〔今後の重要度〕

- 今後の施策の『重要度』（重要+やや重要の合計）は、「生涯学習」（59.5%）が高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	重要度		ふつう	あまり重要ではない	重要ではない	不明・無回答	『重要度』
	重要	やや重要					
学校教育、青少年健全育成	27.9	19.2	33.3	6.3	1.9	11.3	47.1
生涯学習	34.4	25.1	26.8	2.1	0.8	10.9	59.5

分野3 安心と絆のまち（健康・医療・福祉）

〔施策の満足度〕

- 施策の取り組みに一定の評価を示す『満足度』（満足+やや満足+ふつうの合計）は、「地域福祉」（74.7%）が最も高くなっています【太枠】。
- 一方、施策の『不満度』（やや不満+不満の合計）は、「健康づくり・医療」（31.4%）が最も高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	満足度			不満度		不明・無回答	『満足度』	『不満度』
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満			
健康づくり・医療	3.7	15.1	46.7	23.5	7.9	3.1	65.5	31.4
子育て支援・少子化対策	3.3	10.4	50.9	22.1	8.3	5.0	64.6	30.4
地域福祉	20.0	13.2	41.5	14.6	7.2	3.5	74.7	21.8

〔今後の重要度〕

- 今後の施策の『重要度』（重要+やや重要の合計）は、「子育て支援・少子化対策」（69.4%）が最も高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	重要度		ふつう	あまり重要ではない	重要ではない	不明・無回答	『重要度』
	重要	やや重要					
健康づくり・医療	33.3	20.3	24.6	7.7	4.9	9.2	53.6
子育て支援・少子化対策	46.2	23.2	19.2	1.0	0.5	9.9	69.4
地域福祉	46.0	22.2	20.8	1.5	0.6	8.8	68.2

分野4 住みたいまち（住環境）

〔施策の満足度〕

- 施策の取り組みに一定の評価を示す『満足度』（満足+やや満足+ふつうの合計）は、「安全な地域」（69.4%）が最も高くなっています【太枠】。
- 一方、施策の『不満度』（やや不満+不満の合計）は、「住環境」（33.6%）が最も高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	満足度			不満度		不明・無回答	『満足度』	『不満度』
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満			
住環境	2.6	10.5	49.0	24.4	9.2	4.4	62.1	33.6
安全な地域	2.8	7.8	58.8	18.8	6.9	4.7	69.4	25.7
関係人口の拡大、 移住・定住化対策	12.8	11.0	41.2	22.7	7.1	5.3	65.0	29.8

〔今後の重要度〕

- 今後の施策の『重要度』（重要+やや重要の合計）は、「安全な地域」（66.5%）が最も高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	重要度		ふつう	はない	あまり重要ではない	不明・無回答	『重要度』
	重要	やや重要					
住環境	25.4	25.8	31.5	5.4	1.9	10.0	51.2
安全な地域	36.8	29.7	22.2	0.8	0.3	10.3	66.5
関係人口の拡大、 移住・定住化対策	38.6	27.6	20.6	1.9	0.8	10.5	66.2

分野5 支えあいのまち（コミュニティ・行政経営）

〔施策の満足度〕

- 施策の取り組みに一定の評価を示す『満足度』（満足+やや満足+ふつうの合計）は、「行政経営」（75.7%）が最も高くなっています【太枠】。
- 一方、施策の『不満度』（やや不満+不満の合計）は、「コミュニティづくり」（27.5%）が最も高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	満足度			不満度		不明・無回答	『満足度』	『不満度』
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満			
コミュニティづくり	1.5	5.0	60.4	21.2	6.3	5.6	66.9	27.5
交流、シティプロモーション	1.2	5.4	62.1	19.6	5.4	6.4	68.7	25.0
行政経営	7.2	14.7	53.8	14.0	4.5	5.8	75.7	18.5

〔今後の重要度〕

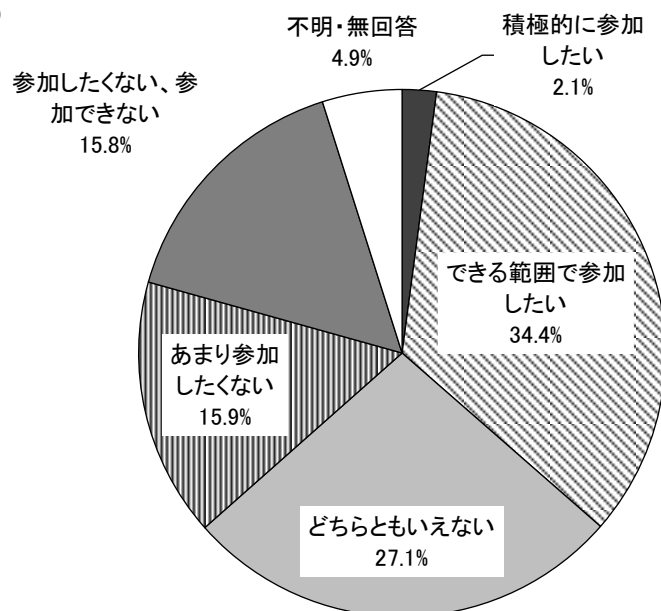
- 今後の施策の『重要度』（重要+やや重要の合計）は、「行政経営」（54.1%）が最も高くなっています【太枠】。

回答者 780 網掛：各項目の第1位	重要度		ふつう	あまり重要ではない	重要ではない	不明・無回答	『重要度』
	重要	やや重要					
コミュニティづくり	17.7	22.4	40.8	5.6	2.4	11.0	40.1
交流、シティプロモーション	20.6	28.5	35.9	2.9	0.8	11.3	49.1
行政経営	25.5	28.6	32.3	2.1	0.8	10.8	54.1

### 問 15 あなたは、地域活動やボランティアなどに参加したいと思いますか。(1つに○)

- 地域活動やボランティアなどの参加意向は、「できる範囲で参加したい」(34.4%)が最も高く、「どちらともいえない」(27.1%)、「あまり参加したくない」(15.9%)が続きます。
- 『参加意向が高い』(積極的に参加したい+できる範囲で参加したいの合計)は36.5%であり、『参加意向が低い』(あまり参加したくない+参加したくない、参加できないの合計)の31.7%をやや上回ります。

全体(n=780)



【回答者属性別の傾向】

- 多くの属性で「できる範囲で参加したい」が最も高くなっています。
- 『参加意向が高い』（積極的に参加したい+できる範囲で参加したいの合計）が特に高い属性をみると、農林業が50%台となっています。
- 『参加意向が低い』（あまり参加したくない+参加したくない、参加できないの合計）は、多くの属性で20%～30%台となっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

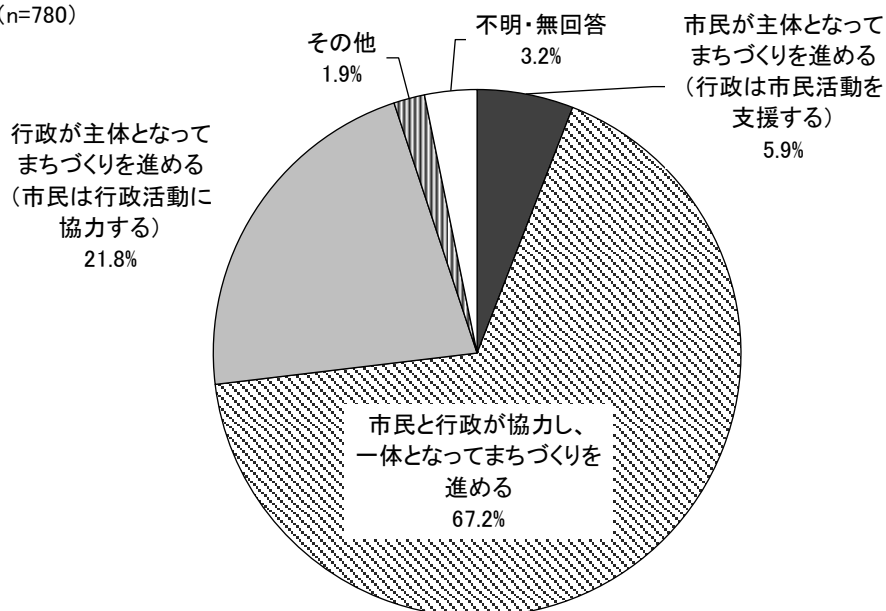
属性	区分	回答者	参加意向が高い		など どちらとも いえ	参加意向が低い		高 い 『 』 参加 意向 が	低 い 『 』 参加 意向 が
			加積 した 的に 参	いで で 参 加 し た 範 囲		し あ た ま り な 参 加	で な 参 加 し た く		
性別	男性	347	1.7	38.6	20.7	16.1	16.7	40.3	32.8
	女性	426	2.3	30.5	32.6	15.7	15.3	32.8	31.0
年齢	10代	73	5.5	31.5	24.7	21.9	12.3	37.0	34.2
	20代	66	1.5	30.3	22.7	27.3	16.7	31.8	44.0
	30代	73	2.7	32.9	27.4	21.9	12.3	35.6	34.2
	40代	87	0.0	28.7	41.4	18.4	11.5	28.7	29.9
	50代	109	0.9	35.8	33.0	10.1	19.3	36.7	29.4
	60代	133	0.8	42.9	29.3	13.5	10.5	43.7	24.0
	70代以上	233	3.0	33.0	20.2	12.0	21.0	36.0	33.0
地区	船引地区	440	1.4	35.0	27.3	15.2	15.7	36.4	30.9
	滝根地区	105	1.9	31.4	22.9	23.8	19.0	33.3	42.8
	大越地区	88	2.3	31.8	33.0	15.9	12.5	34.1	28.4
	都路地区	43	4.7	37.2	25.6	18.6	4.7	41.9	23.3
	常葉地区	96	4.2	35.4	26.0	10.4	20.8	39.6	31.2
世帯	ひとり暮らし	60	1.7	33.3	25.0	16.7	18.3	35.0	35.0
	夫婦のみ	152	2.0	34.9	23.7	12.5	21.7	36.9	34.2
	2世代同居	332	1.2	37.3	28.9	15.4	13.0	38.5	28.4
	3世代同居	130	4.6	37.7	23.1	18.5	11.5	42.3	30.0
	上記以外	97	2.1	18.6	35.1	19.6	20.6	20.7	40.2
職業	会社員等	249	2.0	32.9	28.5	22.1	12.0	34.9	34.1
	契約・派遣等	102	1.0	36.3	29.4	15.7	16.7	37.3	32.4
	農林漁業	46	0.0	52.2	19.6	15.2	10.9	52.2	26.1
	役員・自営等	57	0.0	42.1	29.8	7.0	17.5	42.1	24.5
	家事専業	55	3.6	40.0	30.9	5.5	10.9	43.6	16.4
	学生	62	6.5	30.6	30.6	14.5	14.5	37.1	29.0
	無職	180	1.7	27.8	22.2	14.4	24.4	29.5	38.8
	上記以外	19	5.3	26.3	31.6	21.1	5.3	31.6	26.4
通勤 学務先・	市内	286	0.7	33.6	30.1	19.2	12.9	34.3	32.1
	市外	229	3.9	35.4	28.4	16.6	14.0	39.3	30.6
	非就労・非通学	209	2.4	31.6	23.0	11.5	23.0	34.0	34.5

問 16 あなたは、これからのまちづくりの進め方についてどのように考えますか。

(1つに○)

- これからのまちづくりの進め方は、「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」(67.2%)が最も高く、「行政が主体となってまちづくりを進める(市民は行政活動に協力する)」(21.8%)、「市民が主体となってまちづくりを進める(行政は市民活動を支援する)」(5.9%)が続きます。

全体(n=780)



【回答者属性別の傾向】

- 全ての属性で「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

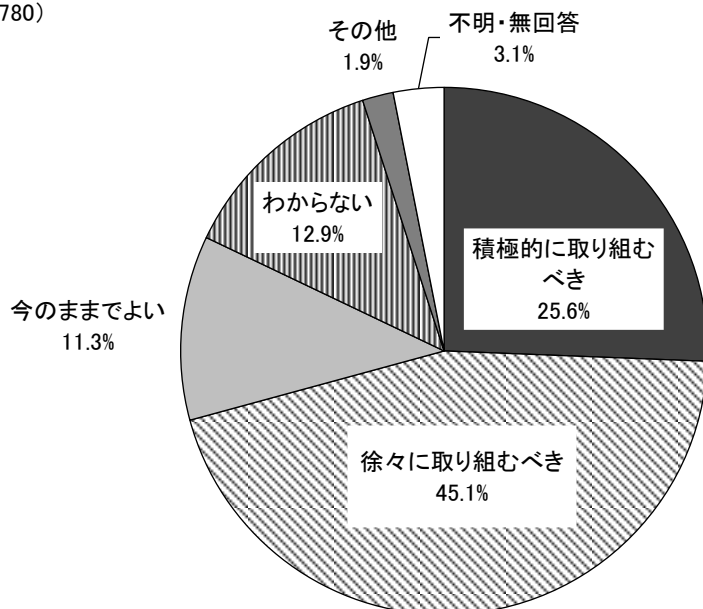
属性	区分	回答者	市民活動を進める(行政は)	市民が主体となる(行政は)	市民と行政が協力し、一体となる(行政は)	行政が主体となる(市民は)	その他
性別	男性	347	6.3	66.0	22.8	2.6	
	女性	426	5.4	68.1	21.4	1.4	
年齢	10代	73	17.8	61.6	17.8	0.0	
	20代	66	10.6	69.7	19.7	0.0	
	30代	73	4.1	57.5	31.5	4.1	
	40代	87	3.4	71.3	24.1	1.1	
	50代	109	3.7	74.3	19.3	1.8	
	60代	133	5.3	68.4	24.8	0.0	
	70代以上	233	3.4	65.2	19.7	3.9	
地区	船引地区	440	5.7	66.4	21.4	2.3	
	滝根地区	105	7.6	64.8	24.8	2.9	
	大越地区	88	4.5	65.9	25.0	1.1	
	都路地区	43	4.7	79.1	14.0	0.0	
	常葉地区	96	6.3	67.7	22.9	1.0	
世帯	ひとり暮らし	60	8.3	61.7	25.0	3.3	
	夫婦のみ	152	2.6	62.5	25.0	3.3	
	2世代同居	332	4.8	69.3	22.0	1.8	
	3世代同居	130	6.2	70.8	20.8	0.8	
	上記以外	97	11.3	64.9	17.5	1.0	
職業	会社員等	249	6.4	65.9	25.7	1.2	
	契約・派遣等	102	7.8	70.6	17.6	1.0	
	農林漁業	46	0.0	76.1	21.7	2.2	
	役員・自営等	57	7.0	64.9	21.1	3.5	
	家事専業	55	5.5	61.8	27.3	1.8	
	学生	62	12.9	72.6	11.3	0.0	
	無職	180	3.3	63.9	21.7	3.9	
	上記以外	19	0.0	73.7	21.1	0.0	
通勤・学務先	市内	286	7.0	67.5	21.3	1.4	
	市外	229	6.6	70.3	21.4	0.9	
	非就労・非通学	209	3.3	63.6	24.9	3.8	

#### 4 田村市の将来像や今後の取り組みについてお聴きします。

##### 問 17 今後、自治体における各種デジタル技術の導入など、行政サービスのデジタル化を推進するための取り組みについて、どのようにお考えですか。(1つに○)

- デジタル化を推進するための取り組みは、「徐々に取り組むべき」(45.1%)が最も高く、「積極的に取り組むべき」(25.6%)、「わからない」(12.9%)が続きます。

全体(n=780)



※説明 《各種デジタル技術の一例》

- ・ AI：人工知能。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピューターに行わせる技術。画像・音声認識などに活用されている。
- ・ RPA：コンピュータープログラム（ロボット）による業務自動化。人間が行う業務の処理手順をコンピューターに登録すると、業務を自動的に進めてくれる。

【回答者属性別の傾向】

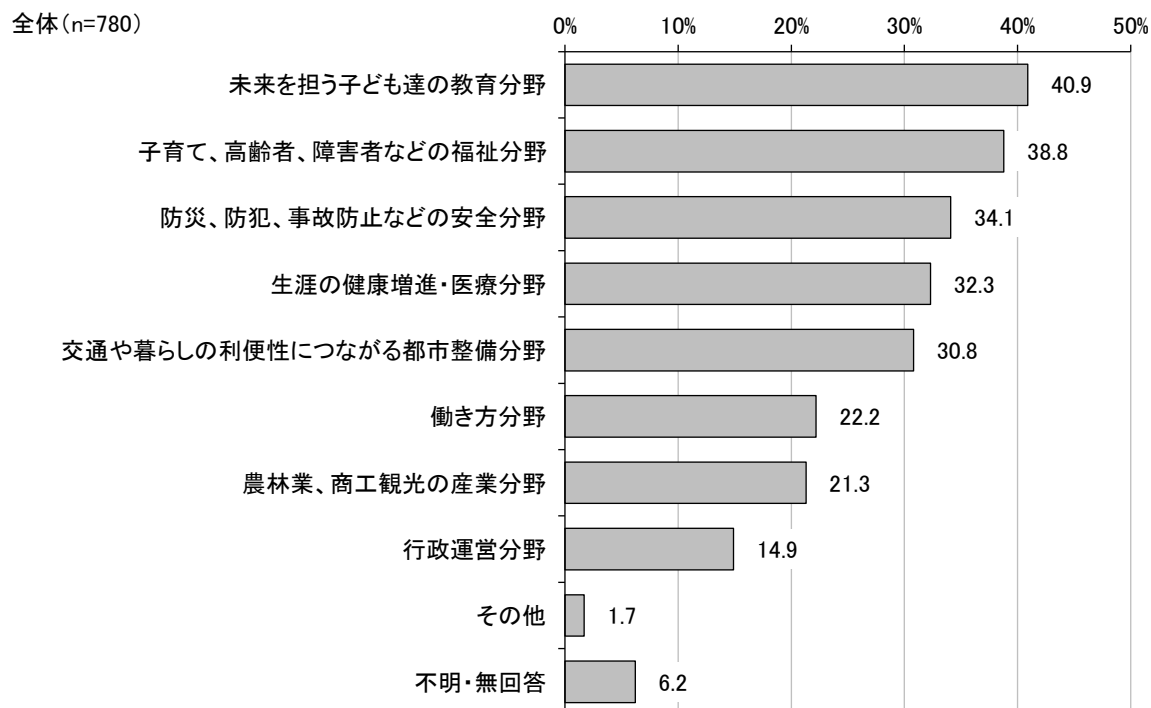
○ 全ての属性で「徐々に取り組むべき」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	積極的 に取り組む	徐々に 取り組む	今の ままでよい	わから ない	その他
性別	男性	347	32.0	42.7	11.8	8.9	1.4
	女性	426	20.7	46.9	10.8	16.2	2.3
年齢	10代	73	34.2	43.8	11.0	6.8	1.4
	20代	66	36.4	45.5	7.6	10.6	0.0
	30代	73	26.0	56.2	2.7	13.7	0.0
	40代	87	29.9	44.8	13.8	6.9	3.4
	50代	109	27.5	44.0	11.0	12.8	3.7
	60代	133	29.3	46.6	9.8	11.3	2.3
	70代以上	233	15.5	41.2	15.0	18.9	1.7
地区	船引地区	440	27.0	43.4	12.7	11.1	1.8
	滝根地区	105	24.8	46.7	12.4	12.4	3.8
	大越地区	88	21.6	48.9	8.0	18.2	0.0
	都路地区	43	23.3	51.2	9.3	11.6	2.3
	常葉地区	96	26.0	42.7	8.3	17.7	2.1
世帯	ひとり暮らし	60	26.7	36.7	18.3	15.0	1.7
	夫婦のみ	152	19.7	40.8	12.5	16.4	3.3
	2世代同居	332	27.1	48.2	10.8	10.5	1.8
	3世代同居	130	30.0	46.2	10.8	10.0	0.8
	上記以外	97	22.7	45.4	7.2	18.6	2.1
職業	会社員等	249	34.5	43.0	9.6	8.8	3.2
	契約・派遣等	102	24.5	47.1	9.8	14.7	2.0
	農林漁業	46	15.2	54.3	13.0	15.2	0.0
	役員・自営等	57	26.3	47.4	10.5	12.3	0.0
	家事専業	55	18.2	54.5	5.5	18.2	0.0
	学生	62	37.1	45.2	8.1	4.8	1.6
	無職	180	16.1	39.4	16.1	18.9	2.2
	上記以外	19	15.8	57.9	15.8	10.5	0.0
通勤 学務先・	市内	286	26.2	45.8	11.2	11.2	3.1
	市外	229	36.7	44.5	8.7	8.7	0.9
	非就労・非通学	209	14.8	45.5	15.8	17.7	1.9

問 18 デジタル技術の導入・活用について、どのような分野で進むことを期待しますか。  
(あてはまるもの3つまで○)

- デジタル技術の導入・活用が進むことを期待する分野は、「未来を担う子ども達の教育分野」(40.9%)が最も高く、「子育て、高齢者、障害者などの福祉分野」(38.8%)、「防災、防犯、事故防止などの安全分野」(34.1%)が続きます。



【回答者属性別の傾向】

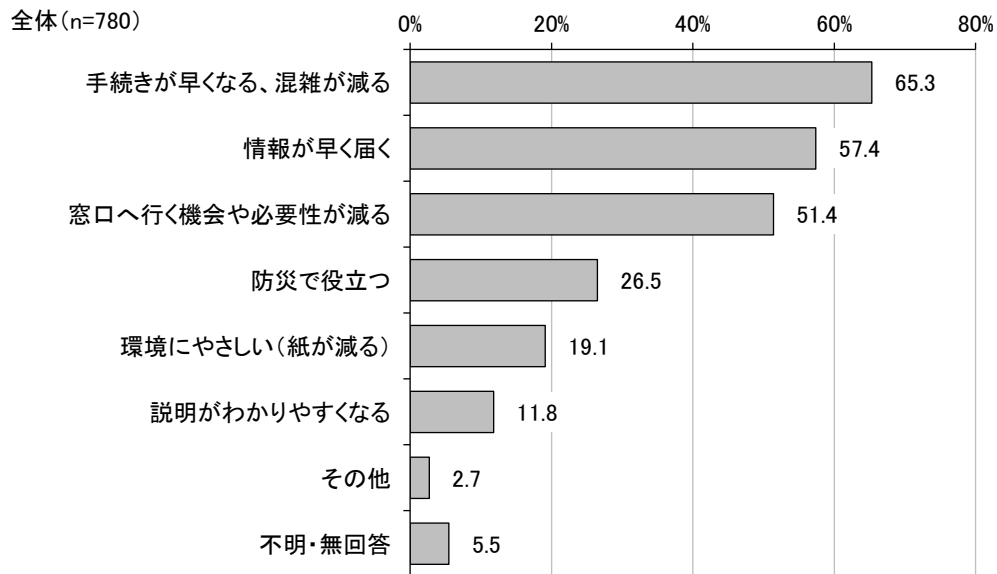
- 多くの属性で「子育て、高齢者、障害者などの福祉分野」もしくは「未来を担う子ども達の教育分野」が最も高くなっています。
- 上記以外では、20代は「働き方分野」、ひとり暮らしは「生涯の健康増進・医療分野」と「子育て、高齢者、障害者などの福祉分野」と「未来を担う子ども達の教育分野」、農林漁業は「生涯の健康増進・医療分野」、役員・自営等は「交通や暮らしの利便性につながる都市整備分野」、学生は「未来を担う子ども達の教育分野」と「防災、防犯、事故防止などの安全分野」、職業の上記以外は「防災、防犯、事故防止などの安全分野」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	光農 の林 産業 、商 工 観	働 き 方 分 野	進 生 涯 の 健 康 増 進	の 者 子 育 て 、 障 害 者 な ど	も 未 来 を 担 う 分 子 野 ど	る 利 交 通 都 市 性 に 暮 ら し の 利 便 性 に つ な が る 都 市 整 備 分 野 が の	全 防 災 、 防 犯 、 事 故 防 止 な ど の 安 全 分 野	行 政 運 営 分 野	そ の 他
性別	男性	347	28.8	22.5	33.4	33.4	35.7	28.2	34.0	18.4	2.0
	女性	426	15.0	22.3	31.2	43.0	45.1	32.4	34.0	12.2	1.4
年齢	10代	73	26.0	32.9	30.1	28.8	45.2	21.9	38.4	15.1	0.0
	20代	66	24.2	47.0	25.8	40.9	39.4	25.8	34.8	13.6	1.5
	30代	73	17.8	38.4	27.4	47.9	49.3	31.5	37.0	8.2	0.0
	40代	87	21.8	32.2	24.1	33.3	48.3	35.6	36.8	24.1	2.3
	50代	109	23.9	24.8	38.5	30.3	39.4	32.1	30.3	18.3	4.6
	60代	133	22.6	13.5	36.1	41.4	42.1	33.8	37.6	15.8	1.5
	70代以上	233	17.6	7.3	34.3	42.5	34.8	30.0	30.0	12.0	1.3
地区	船引地区	440	21.4	22.7	30.0	41.6	40.5	32.3	33.9	13.9	1.8
	滝根地区	105	25.7	23.8	35.2	26.7	45.7	21.9	37.1	21.0	2.9
	大越地区	88	17.0	19.3	35.2	34.1	45.5	34.1	30.7	11.4	1.1
	都路地区	43	18.6	16.3	37.2	51.2	37.2	27.9	46.5	11.6	0.0
	常葉地区	96	20.8	25.0	33.3	38.5	35.4	31.3	29.2	18.8	1.0
世帯	ひとり暮らし	60	21.7	25.0	40.0	40.0	40.0	36.7	31.7	11.7	5.0
	夫婦のみ	152	18.4	11.8	34.9	40.8	36.2	26.3	32.2	16.4	2.0
	2世代同居	332	24.1	28.3	31.3	39.8	42.5	31.3	35.2	16.3	1.8
	3世代同居	130	23.1	11.5	34.6	35.4	46.9	29.2	34.6	13.8	0.0
	上記以外	97	12.4	32.0	22.7	34.0	37.1	35.1	33.0	12.4	1.0
職業	会社員等	249	21.7	29.3	30.1	39.4	46.2	28.5	36.1	17.7	1.2
	契約・派遣等	102	16.7	30.4	36.3	43.1	51.0	31.4	25.5	15.7	3.9
	農林漁業	46	32.6	10.9	37.0	30.4	32.6	23.9	34.8	26.1	2.2
	役員・自営等	57	22.8	17.5	38.6	29.8	33.3	40.4	31.6	10.5	3.5
	家事専業	55	12.7	14.5	34.5	50.9	40.0	40.0	41.8	7.3	0.0
	学生	62	27.4	35.5	25.8	27.4	38.7	24.2	38.7	16.1	0.0
	無職	180	21.1	9.4	31.7	38.9	35.6	32.8	30.0	12.8	1.1
	上記以外	19	10.5	36.8	26.3	47.4	26.3	21.1	52.6	5.3	0.0
通勤 学務 先・	市内	286	20.6	26.2	30.8	36.0	46.9	29.7	30.1	13.6	2.8
	市外	229	23.1	31.9	34.1	38.0	39.7	29.3	38.4	19.2	1.3
	非就労・非通学	209	18.2	10.0	34.4	40.2	38.8	34.0	35.9	12.4	0.5

### 問 19 デジタル化で期待することはどんなことですか。(あてはまるもの3つまで○)

- デジタル化で期待することは、「手続きが早くなる、混雑が減る」(65.3%)が最も高く、「情報が早く届く」(57.4%)、「窓口へ行く機会や必要性が減る」(51.4%)が続きます。



【回答者属性別の傾向】

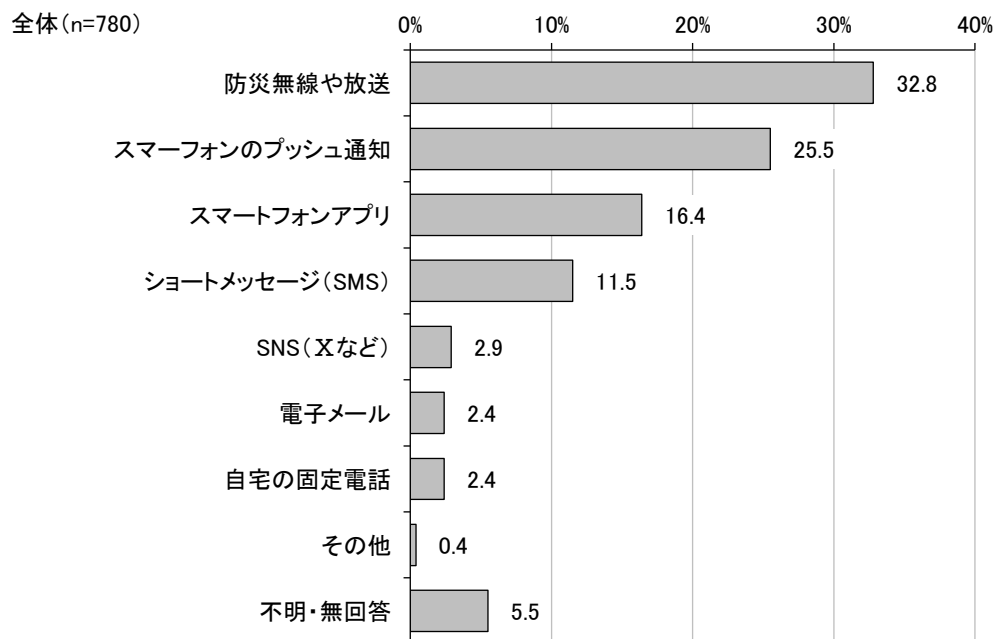
- 多くの属性で「手続きが早くなる、混雑が減る」が最も高くなっています。
- 上記以外では、都路地区、家事専業、職業の上記以外は「情報が早く届く」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	る手続 混雑が 減る	や窓口 必要 性が 減る	情報 が 早く 届く	防災 で 役立つ	(環境 に やさしい 紙が 減る)	す説明 が わかり やすい	その他
性別	男性	347	65.7	56.5	56.2	23.3	16.4	10.7	2.9
	女性	426	65.0	47.7	58.2	29.3	21.6	12.2	2.6
年齢	10代	73	74.0	49.3	65.8	24.7	17.8	11.0	0.0
	20代	66	78.8	59.1	68.2	27.3	12.1	13.6	1.5
	30代	73	79.5	74.0	64.4	24.7	11.0	16.4	0.0
	40代	87	67.8	51.7	64.4	25.3	20.7	13.8	4.6
	50代	109	68.8	56.0	54.1	22.9	24.8	9.2	3.7
	60代	133	67.7	60.2	60.9	21.8	21.1	11.3	2.3
	70代以上	233	50.6	36.1	46.4	32.6	20.2	10.3	3.9
地区	船引地区	440	65.2	53.0	55.9	27.7	20.5	10.7	3.2
	滝根地区	105	65.7	47.6	61.0	25.7	18.1	13.3	1.9
	大越地区	88	70.5	50.0	62.5	21.6	15.9	12.5	2.3
	都路地区	43	58.1	51.2	62.8	39.5	25.6	2.3	0.0
	常葉地区	96	62.5	50.0	53.1	21.9	14.6	17.7	3.1
世帯	ひとり暮らし	60	60.0	40.0	55.0	28.3	23.3	13.3	5.0
	夫婦のみ	152	57.2	49.3	56.6	27.0	13.8	9.9	3.3
	2世代同居	332	70.8	53.0	59.6	26.2	20.5	12.0	2.7
	3世代同居	130	64.6	56.2	57.7	26.9	16.9	10.8	1.5
	上記以外	97	63.9	51.5	51.5	25.8	23.7	12.4	2.1
職業	会社員等	249	71.9	62.2	67.1	19.7	17.3	12.4	2.8
	契約・派遣等	102	66.7	52.9	56.9	30.4	20.6	11.8	2.0
	農林漁業	46	65.2	52.2	52.2	28.3	17.4	10.9	0.0
	役員・自営等	57	63.2	43.9	40.4	33.3	31.6	8.8	1.8
	家事専業	55	61.8	43.6	63.6	27.3	25.5	12.7	1.8
	学生	62	69.4	53.2	62.9	24.2	14.5	6.5	1.6
	無職	180	57.8	42.2	46.7	28.9	15.6	12.2	3.9
	上記以外	19	52.6	42.1	63.2	47.4	31.6	10.5	5.3
通勤 学務 先・	市内	286	67.8	49.3	58.4	25.2	21.3	12.9	2.4
	市外	229	69.9	64.2	61.6	24.0	17.0	9.6	2.6
	非就労・非通学	209	58.4	42.6	52.6	32.5	19.1	12.0	3.3

問 20 田村市からの緊急情報（災害や避難指示など）をどの手段で受け取りたいですか。  
（1つに○）

- 緊急情報を受け取りたい手段は、「防災無線や放送」（32.8%）が最も高く、「スマートフォンのプッシュ通知」（25.5%）、「スマートフォンアプリ」（16.4%）が続きます。



【回答者属性別の傾向】

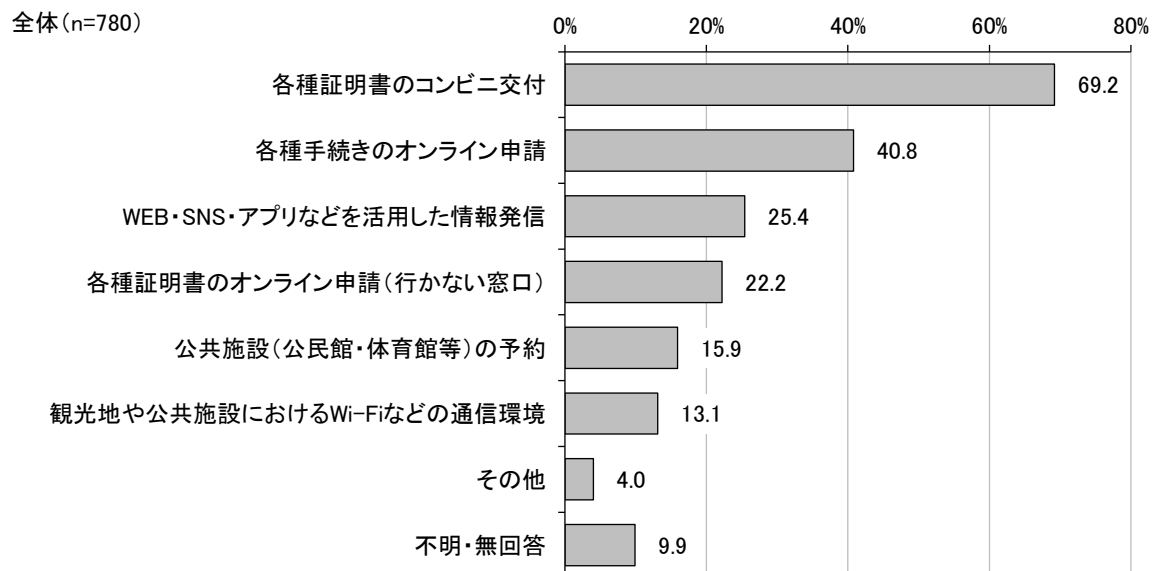
- 全ての属性で「スマートフォンのプッシュ通知」もしくは「防災無線や放送」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	スマートフォン のプッシュ 通知	電子 メール	シ ョ ー ト メ ッ セ ー ジ ( S M S )	S N S ( X な ど )	リ ス マ ー ト フ ォ ン ア プ	防 災 無 線 や 放 送	自 宅 の 固 定 電 話	そ の 他
性別	男性	347	25.6	3.2	10.7	2.9	17.6	30.8	3.7	0.6
	女性	426	25.6	1.6	12.2	3.1	15.7	34.0	1.4	0.2
年齢	10代	73	50.7	0.0	12.3	4.1	12.3	15.1	0.0	0.0
	20代	66	51.5	3.0	13.6	10.6	10.6	10.6	0.0	0.0
	30代	73	37.0	2.7	13.7	6.8	26.0	9.6	0.0	1.4
	40代	87	33.3	2.3	17.2	4.6	23.0	14.9	0.0	0.0
	50代	109	31.2	4.6	13.8	2.8	22.9	20.2	0.0	0.0
	60代	133	18.0	2.3	15.0	0.8	24.1	35.3	0.0	1.5
	70代以上	233	5.6	1.7	4.7	0.0	6.9	62.7	8.2	0.0
地区	船引地区	440	25.2	1.6	13.2	3.2	17.5	31.4	3.0	0.2
	滝根地区	105	34.3	3.8	6.7	1.0	11.4	38.1	1.0	1.0
	大越地区	88	20.5	2.3	10.2	8.0	17.0	30.7	3.4	0.0
	都路地区	43	20.9	7.0	14.0	0.0	16.3	32.6	2.3	2.3
	常葉地区	96	24.0	2.1	8.3	1.0	17.7	36.5	1.0	0.0
世帯	ひとり暮らし	60	25.0	5.0	6.7	1.7	8.3	41.7	3.3	1.7
	夫婦のみ	152	13.8	2.6	7.9	2.0	15.8	45.4	3.9	0.0
	2世代同居	332	31.6	2.4	16.0	3.9	17.5	23.8	1.2	0.0
	3世代同居	130	29.2	1.5	8.5	2.3	16.2	35.4	1.5	0.0
	上記以外	97	19.6	1.0	8.2	3.1	19.6	36.1	3.1	2.1
職業	会社員等	249	35.3	2.0	14.9	4.8	24.1	15.3	0.0	0.4
	契約・派遣等	102	29.4	4.9	18.6	3.9	18.6	19.6	0.0	1.0
	農林漁業	46	15.2	2.2	6.5	2.2	4.3	60.9	2.2	0.0
	役員・自営等	57	22.8	3.5	15.8	0.0	19.3	31.6	3.5	0.0
	家事専業	55	20.0	0.0	10.9	0.0	21.8	40.0	1.8	0.0
	学生	62	51.6	1.6	11.3	3.2	9.7	16.1	0.0	0.0
	無職	180	7.8	1.7	3.9	1.7	7.8	58.9	7.8	0.6
	上記以外	19	15.8	5.3	5.3	5.3	21.1	47.4	0.0	0.0
通勤 学務先・	市内	286	28.7	2.8	13.6	3.1	21.3	24.5	1.0	0.3
	市外	229	38.4	3.5	15.7	5.2	17.5	16.2	0.0	0.4
	非就労・非通学	209	12.9	0.5	5.7	1.0	12.0	53.6	6.2	0.5

問 21 田村市で取り組んでいる以下のデジタル関連事業のうち、知っているものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- デジタル関連事業で知っているものは、「各種証明書のコンビニ交付」(69.2%)が最も高く、「各種手続きのオンライン申請」(40.8%)、「WEB・SNS・アプリなどを活用した情報発信」(25.4%)が続きます。



【回答者属性別の傾向】

○ 全ての属性で「各種証明書のコンビニ交付」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

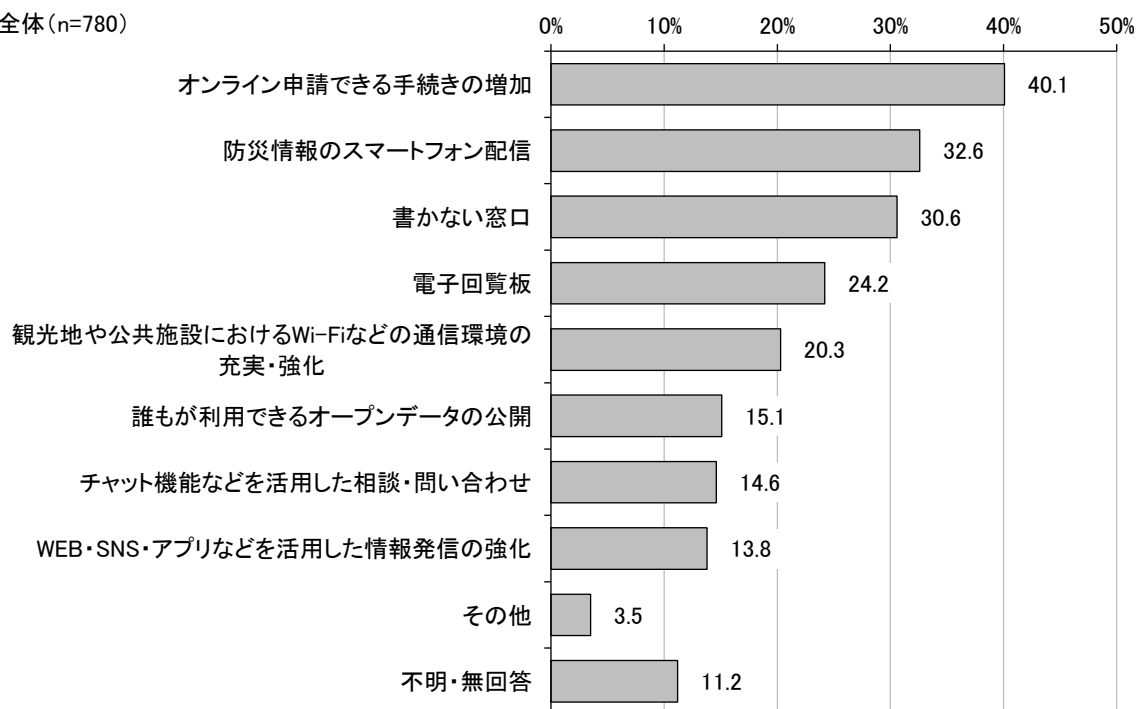
属性	区分	回答者	各種申請手続きのオンライン	公共施設（公民館・体育館等）の予約	各種証明書のコンビニ交付	窓口（各種申請）のオンライン	おけるWi-Fi環境	観光地や公共施設に情報発信	WEB・SNS・た	その他
性別	男性	347	43.2	14.1	69.5	24.2	11.0	21.6	4.3	
	女性	426	38.7	17.4	69.2	20.4	15.0	28.6	3.8	
年齢	10代	73	41.1	26.0	54.8	11.0	21.9	41.1	0.0	
	20代	66	40.9	18.2	72.7	24.2	24.2	25.8	1.5	
	30代	73	43.8	17.8	78.1	34.2	23.3	31.5	4.1	
	40代	87	44.8	17.2	83.9	20.7	10.3	34.5	3.4	
	50代	109	49.5	13.8	78.0	25.7	11.0	31.2	2.8	
	60代	133	46.6	7.5	82.7	28.6	9.0	32.3	1.5	
	70代以上	233	30.5	16.7	52.8	16.3	8.6	8.6	8.2	
地区	船引地区	440	38.6	18.0	70.9	24.8	11.1	25.5	3.6	
	滝根地区	105	45.7	10.5	73.3	19.0	17.1	25.7	1.9	
	大越地区	88	37.5	18.2	63.6	18.2	13.6	25.0	4.5	
	都路地区	43	60.5	14.0	72.1	23.3	20.9	23.3	2.3	
	常葉地区	96	37.5	11.5	61.5	16.7	13.5	26.0	8.3	
世帯	ひとり暮らし	60	33.3	13.3	53.3	23.3	13.3	23.3	3.3	
	夫婦のみ	152	40.8	14.5	60.5	27.0	14.5	19.7	6.6	
	2世代同居	332	43.1	14.8	75.6	22.9	14.5	27.4	3.0	
	3世代同居	130	39.2	23.1	74.6	14.6	13.8	34.6	2.3	
	上記以外	97	37.1	13.4	63.9	20.6	5.2	16.5	6.2	
職業	会社員等	249	46.2	14.5	78.3	26.5	17.3	30.5	2.0	
	契約・派遣等	102	49.0	11.8	83.3	25.5	11.8	32.4	2.0	
	農林漁業	46	26.1	17.4	65.2	21.7	6.5	17.4	4.3	
	役員・自営等	57	38.6	12.3	71.9	17.5	12.3	21.1	1.8	
	家事専業	55	30.9	18.2	52.7	20.0	12.7	25.5	3.6	
	学生	62	46.8	27.4	56.5	12.9	17.7	35.5	0.0	
	無職	180	35.6	14.4	58.9	20.6	10.0	15.0	9.4	
	上記以外	19	26.3	26.3	63.2	15.8	5.3	26.3	10.5	
通勤 学務先・	市内	286	43.0	17.5	76.9	22.7	14.3	28.3	2.1	
	市外	229	46.7	13.1	72.9	22.7	14.8	31.0	2.2	
	非就労・非通学	209	34.4	16.3	59.8	20.6	10.0	19.1	8.1	

## 問 22 特に田村市で取り組むべきデジタル化は何だと思いますか。

(あてはまるもの3つまで○)

取り組むべきデジタル化は、「オンライン申請できる手続きの増加」(40.1%)が最も高く、「防災情報のスマートフォン配信」(32.6%)、「書かない窓口」(30.6%)が続きます。

全体(n=780)



※説明 《オープンデータ》

誰でも許可されたルールの範囲内で、営利・非営利に関わらず、二次利用できる公開データ。

【回答者属性別の傾向】

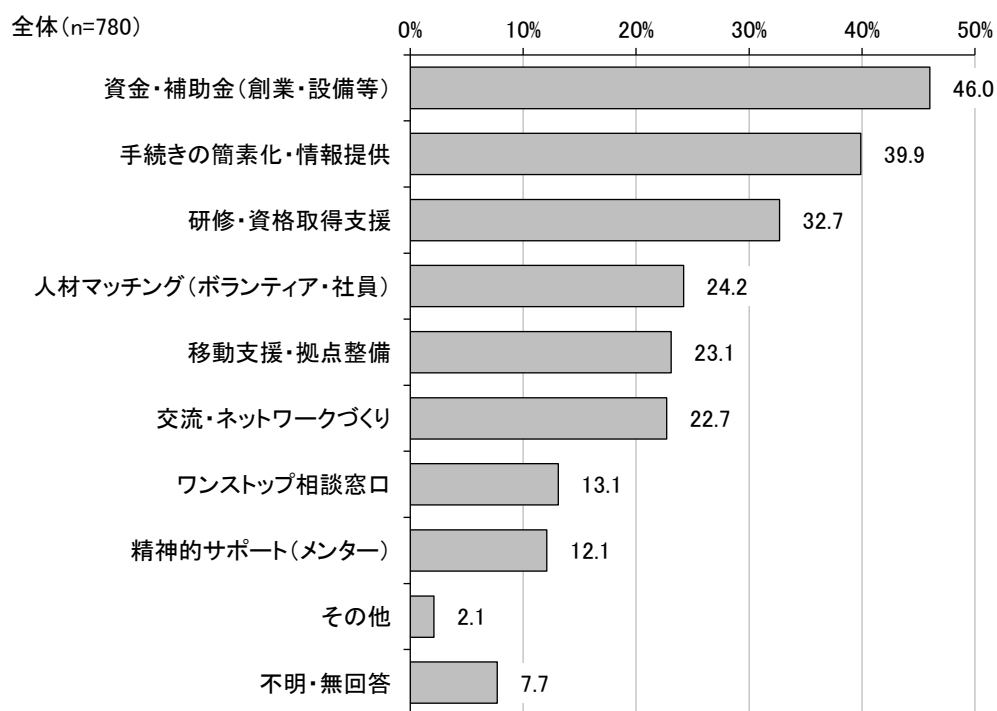
- 多くの属性で「オンライン申請できる手続きの増加」が最も高くなっています。
- 上記以外では、60代、ひとり暮らし、契約・派遣等、農林漁業、職業の上記以外、非就労・非通学は「防災情報のスマートフォン配信」、70代以上、都路地区、家事専業、無職は「書かない窓口」、役員・自営等は「オンライン申請できる手続きの増加」と「防災情報のスマートフォン配信」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	オンライン申請できる手続きの増加	書かない窓口	チャット機能の活用	環境の充実・強化	観光地や公共施設におけるWi-Fiなどの通信	誰もが利用できるオープンデータ	WEB・SNS・アプリなどの活用した情報発信の強化	電子回覧板	防災情報のスマートフォン配信	その他
性別	男性	347	44.7	31.7	13.0	19.0	16.4	12.7	23.1	29.7	4.3	
	女性	426	36.6	30.3	16.0	21.6	13.8	14.6	25.1	34.7	2.8	
年齢	10代	73	46.6	24.7	32.9	30.1	12.3	15.1	24.7	26.0	0.0	
	20代	66	43.9	33.3	25.8	19.7	15.2	16.7	22.7	18.2	1.5	
	30代	73	60.3	39.7	11.0	28.8	15.1	19.2	28.8	27.4	0.0	
	40代	87	44.8	26.4	19.5	27.6	6.9	19.5	32.2	36.8	2.3	
	50代	109	43.1	22.9	14.7	23.9	13.8	14.7	27.5	38.5	5.5	
	60代	133	42.9	40.6	9.0	21.1	13.5	18.8	36.8	46.6	2.3	
	70代以上	233	26.2	29.2	8.2	10.3	20.6	5.2	11.2	27.5	6.4	
地区	船引地区	440	39.1	30.2	14.8	20.2	16.1	14.1	26.1	31.8	2.7	
	滝根地区	105	45.7	26.7	17.1	24.8	10.5	12.4	20.0	26.7	1.9	
	大越地区	88	42.0	33.0	11.4	20.5	13.6	14.8	18.2	29.5	8.0	
	都路地区	43	34.9	44.2	18.6	20.9	25.6	9.3	18.6	41.9	0.0	
	常葉地区	96	39.6	30.2	11.5	16.7	12.5	14.6	26.0	38.5	6.3	
世帯	ひとり暮らし	60	30.0	21.7	13.3	13.3	20.0	11.7	18.3	31.7	3.3	
	夫婦のみ	152	33.6	30.9	11.2	19.7	18.4	11.2	22.4	32.2	3.9	
	2世代同居	332	46.4	31.9	14.5	19.3	15.4	17.2	27.7	35.2	3.3	
	3世代同居	130	41.5	32.3	18.5	23.1	13.8	10.8	21.5	31.5	0.8	
	上記以外	97	34.0	32.0	16.5	26.8	7.2	10.3	21.6	24.7	7.2	
職業	会社員等	249	51.4	30.9	18.5	23.3	11.6	17.3	30.9	30.5	1.6	
	契約・派遣等	102	35.3	32.4	13.7	31.4	13.7	14.7	26.5	44.1	2.9	
	農林漁業	46	37.0	23.9	4.3	15.2	10.9	17.4	19.6	39.1	2.2	
	役員・自営等	57	35.1	26.3	15.8	17.5	17.5	22.8	28.1	35.1	3.5	
	家事専業	55	29.1	40.0	7.3	9.1	29.1	10.9	18.2	34.5	1.8	
	学生	62	48.4	21.0	29.0	29.0	11.3	17.7	30.6	25.8	0.0	
	無職	180	32.2	32.8	10.0	13.3	17.8	3.9	13.3	25.6	7.2	
	上記以外	19	26.3	42.1	10.5	21.1	21.1	15.8	26.3	47.4	10.5	
通勤・通学先	市内	286	45.5	27.6	13.3	25.2	10.5	16.4	26.6	31.1	3.5	
	市外	229	44.1	32.3	21.8	24.5	14.4	17.5	31.9	36.7	1.3	
	非就労・非通学	209	31.1	32.1	11.0	12.4	20.6	7.2	15.8	32.5	6.7	

問 23 田村市では、第2次田村市総合計画において、「ワクワクがとまらない 自然とチャレンジがいきるまち 田村市」をまちの将来像に掲げ、各施策を推進しています。今後、どのような支援があれば、市民一人ひとりの「チャレンジ」がより進むと思いますか。  
 (あてはまるもの3つまで○)

市民一人ひとりの「チャレンジ」がより進むと思う支援は、「資金・補助金（創業・設備等）」（46.0%）が最も高く、「手続きの簡素化・情報提供」（39.9%）、「研修・資格取得支援」（32.7%）が続きます。



【回答者属性別の傾向】

- 多くの属性で「資金・補助金（創業・設備等）」もしくは「手続きの簡素化・情報提供」が最も高くなっています。
- 上記以外では、滝根地区は「研修・資格取得支援」、ひとり暮らしは「人材マッチング（ボランティア・社員）」が最も高くなっています。

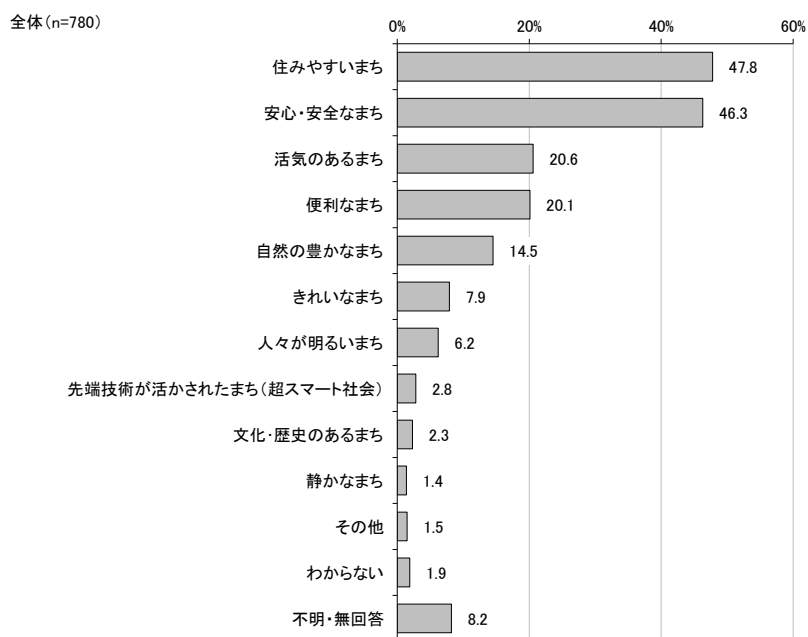
回答者は人数、数値は%、回答及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	談 窓 口	ワ ン ス ト ッ プ 相 等 （ 資 金 ・ 補 助 金 ・ 設 備 等 ）	支 研 援 修 ・ 資 格 取 得	ア （ ボ ラ ン テ ィ ア ・ 社 員 ）	人 材 マ ッ チ ン グ	ワ 交 流 ク ・ ネ ツ ク リ ト	整 移 備 動 支 援 ・ 拠 点	化 手 ・ 続 き の 情 報 の 簡 素 提 供	（ メ ン タ ル サ ポ ー ト ）	そ の 他
性別	男性	347	13.5	49.3	32.0	23.9	23.3	22.8	36.0	9.5	2.9	
	女性	426	12.9	43.0	33.6	24.2	22.1	23.2	43.7	13.8	1.4	
年齢	10代	73	8.2	58.9	41.1	30.1	30.1	17.8	28.8	11.0	0.0	
	20代	66	12.1	57.6	36.4	33.3	22.7	22.7	30.3	7.6	0.0	
	30代	73	8.2	67.1	41.1	24.7	19.2	23.3	46.6	12.3	2.7	
	40代	87	12.6	49.4	42.5	23.0	24.1	21.8	48.3	12.6	3.4	
	50代	109	13.8	48.6	35.8	24.8	24.8	22.0	39.4	19.3	1.8	
	60代	133	19.5	49.6	33.8	26.3	23.3	29.3	42.9	10.5	1.5	
	70代以上	233	12.9	26.6	21.0	18.0	19.3	22.3	40.3	10.7	3.0	
地区	船引地区	440	15.0	46.1	30.5	25.7	21.8	21.1	40.7	10.9	2.5	
	滝根地区	105	9.5	39.0	41.0	25.7	26.7	25.7	38.1	17.1	0.0	
	大越地区	88	10.2	45.5	23.9	15.9	23.9	23.9	42.0	12.5	3.4	
	都路地区	43	14.0	55.8	39.5	30.2	23.3	32.6	39.5	9.3	0.0	
	常葉地区	96	11.5	46.9	38.5	19.8	20.8	24.0	38.5	12.5	2.1	
世帯	ひとり暮らし	60	15.0	30.0	21.7	31.7	25.0	28.3	26.7	18.3	5.0	
	夫婦のみ	152	15.1	32.9	25.0	20.4	22.4	20.4	46.1	9.2	2.0	
	2世代同居	332	14.2	52.1	35.2	26.5	22.3	21.4	40.7	12.7	2.1	
	3世代同居	130	8.5	47.7	38.5	23.8	23.1	26.2	38.5	8.5	1.5	
	上記以外	97	11.3	53.6	35.1	18.6	21.6	26.8	38.1	15.5	1.0	
職業	会社員等	249	12.0	58.2	39.8	26.1	21.7	22.9	39.8	8.0	2.4	
	契約・派遣等	102	8.8	48.0	39.2	26.5	28.4	21.6	39.2	18.6	2.0	
	農林漁業	46	19.6	39.1	26.1	21.7	17.4	34.8	39.1	2.2	0.0	
	役員・自営等	57	15.8	49.1	22.8	26.3	22.8	24.6	31.6	21.1	1.8	
	家事専業	55	18.2	47.3	23.6	25.5	27.3	18.2	49.1	14.5	0.0	
	学生	62	8.1	56.5	38.7	29.0	30.6	24.2	30.6	9.7	0.0	
	無職	180	14.4	25.0	25.0	17.2	19.4	22.8	42.8	13.9	3.9	
	上記以外	19	15.8	36.8	31.6	31.6	10.5	21.1	52.6	10.5	0.0	
通勤 学務 先・	市内	286	12.2	51.0	34.6	25.9	20.6	21.0	38.5	11.2	1.7	
	市外	229	11.4	58.1	38.4	26.2	27.5	25.8	38.0	11.8	1.7	
	非就労・非通学	209	16.3	31.1	26.3	20.6	20.1	23.4	43.1	15.3	3.3	

## 問 24 あなたは、これからの田村市にどのようなまちづくりを期待しますか。

(主なものを2つまで○)

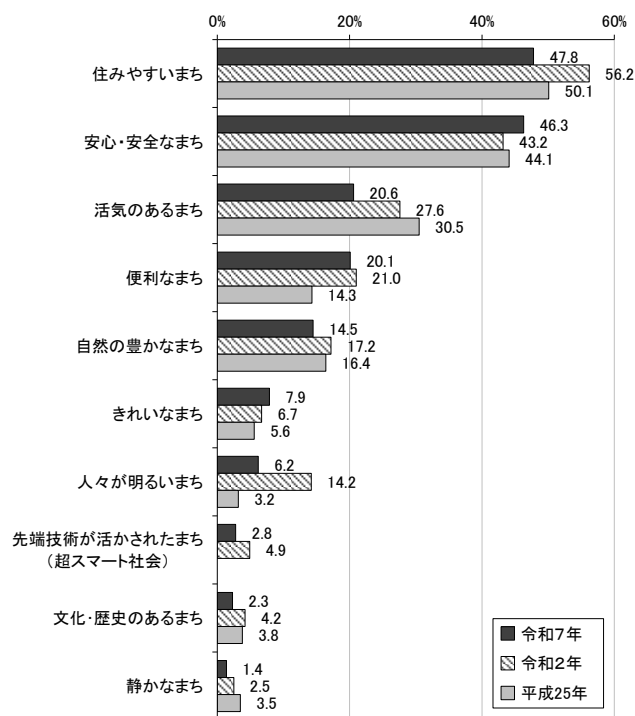
- これからのまちづくりへの期待は、「住みやすいまち」(47.8%)が最も高く、「安心・安全なまち」(46.3%)、「活気のあるまち」(20.6%)が続きます。



### 令和2年、平成25年調査との比較

- 令和2年調査から「住みやすいまち」が8.4ポイント、「人々が明るいまち」が8.0ポイント、「活気のあるまち」が7.0ポイント低くなっています。

(平成25年調査の設問は「これからの田村市に期待するイメージはどのようなまちですか」)



選択肢のない場合は空欄。その他、わからない、不明・無回答は非表示

【回答者属性別の傾向】

○ 全ての属性で「安心・安全なまち」もしくは「住みやすいまち」が最も高くなっています。

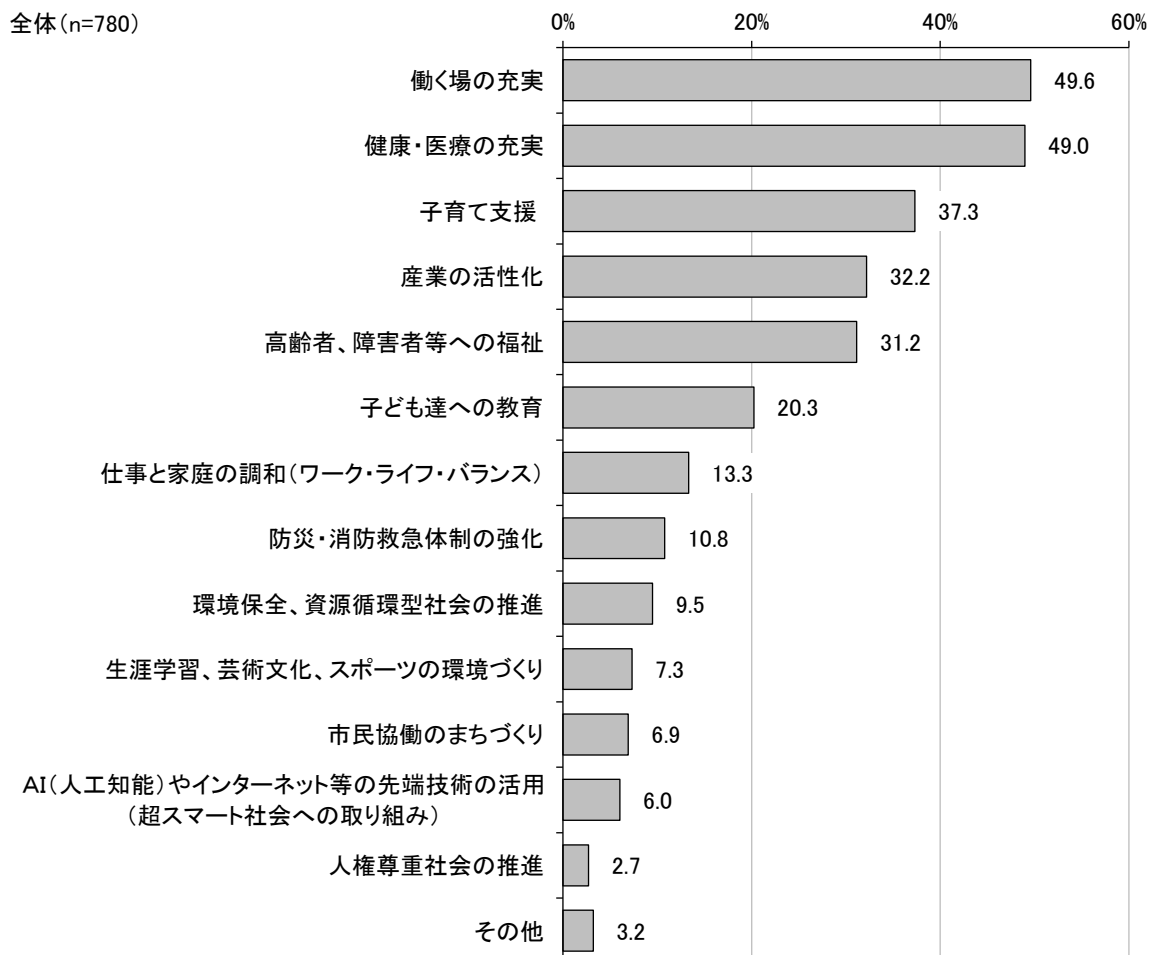
回答者は人数、数値は%、回答の「その他」「わからない」及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	自然の豊かなまち	文化・歴史のあるまち	安心・安全なまち	きれいなまち	静かなまち	人々が明るいまち	活気のあるまち	住みやすいまち	便利なまち	先端技術が活かされたまち(超スマート社会)
性別	男性	347	14.7	2.6	47.8	8.1	1.7	7.8	23.1	45.8	17.0	3.5
	女性	426	14.3	1.9	45.5	7.7	1.2	4.9	18.8	49.3	22.3	2.1
年齢	10代	73	34.2	5.5	35.6	11.0	1.4	4.1	13.7	47.9	27.4	4.1
	20代	66	18.2	3.0	40.9	12.1	0.0	7.6	21.2	50.0	25.8	1.5
	30代	73	12.3	2.7	39.7	13.7	1.4	6.8	24.7	46.6	27.4	0.0
	40代	87	11.5	1.1	49.4	8.0	1.1	6.9	16.1	52.9	23.0	1.1
	50代	109	11.0	0.9	51.4	11.0	0.9	3.7	23.9	54.1	20.2	5.5
	60代	133	12.0	2.3	53.4	4.5	2.3	5.3	21.1	51.1	23.3	0.8
	70代以上	233	12.0	1.7	46.4	4.7	1.7	7.7	21.5	40.3	10.7	3.9
地区	船引地区	440	12.0	1.8	44.5	8.2	2.0	7.0	22.7	46.6	20.0	2.7
	滝根地区	105	21.0	3.8	55.2	11.4	0.0	3.8	18.1	43.8	16.2	1.9
	大越地区	88	6.8	2.3	43.2	4.5	1.1	3.4	19.3	54.5	27.3	3.4
	都路地区	43	25.6	2.3	55.8	2.3	0.0	14.0	9.3	55.8	18.6	2.3
	常葉地区	96	20.8	2.1	43.8	9.4	1.0	4.2	21.9	47.9	18.8	3.1
世帯	ひとり暮らし	60	15.0	6.7	50.0	10.0	1.7	3.3	11.7	43.3	15.0	5.0
	夫婦のみ	152	11.2	0.0	48.7	5.3	1.3	6.6	23.7	46.1	17.1	2.6
	2世代同居	332	16.0	1.5	44.6	9.6	1.5	6.3	24.4	48.5	21.1	1.8
	3世代同居	130	17.7	2.3	43.1	7.7	2.3	5.4	16.9	51.5	19.2	5.4
	上記以外	97	9.3	5.2	50.5	6.2	0.0	8.2	15.5	45.4	24.7	1.0
職業	会社員等	249	14.5	2.0	46.6	8.8	1.6	4.4	22.9	54.6	21.7	2.8
	契約・派遣等	102	8.8	1.0	50.0	13.7	0.0	7.8	17.6	50.0	24.5	2.0
	農林漁業	46	13.0	6.5	52.2	6.5	0.0	6.5	34.8	43.5	17.4	4.3
	役員・自営等	57	10.5	0.0	45.6	10.5	0.0	8.8	31.6	42.1	17.5	3.5
	家事専業	55	18.2	3.6	47.3	5.5	1.8	7.3	14.5	38.2	25.5	1.8
	学生	62	33.9	6.5	35.5	9.7	1.6	4.8	11.3	48.4	24.2	3.2
	無職	180	11.1	1.1	46.1	4.4	2.8	6.7	18.3	42.2	13.9	2.8
	上記以外	19	21.1	0.0	47.4	0.0	0.0	10.5	15.8	52.6	21.1	0.0
通勤学務先	市内	286	14.7	1.7	43.4	9.4	1.0	7.0	21.7	47.9	21.7	2.4
	市外	229	16.2	3.1	48.5	10.0	0.9	3.1	21.8	55.0	22.3	3.1
	非就労・非通学	209	12.9	1.9	47.8	4.8	2.9	8.1	20.1	40.7	17.2	3.3

問 25 田村市の発展にとってどのような取り組みが特に重要と考えますか。1位から3位まで、3つまで選んでください。

〔田村市の発展に特に重要な取り組み 第1～3位の合算〕

- 田村市の発展に特に重要な取り組み（第1～3位の合算）は、「働く場の充実」（49.6%）が最も高く、「健康・医療の充実」（49.0%）、「子育て支援」（37.3%）が続きます。



無回答は非表示

【回答者属性別の傾向】

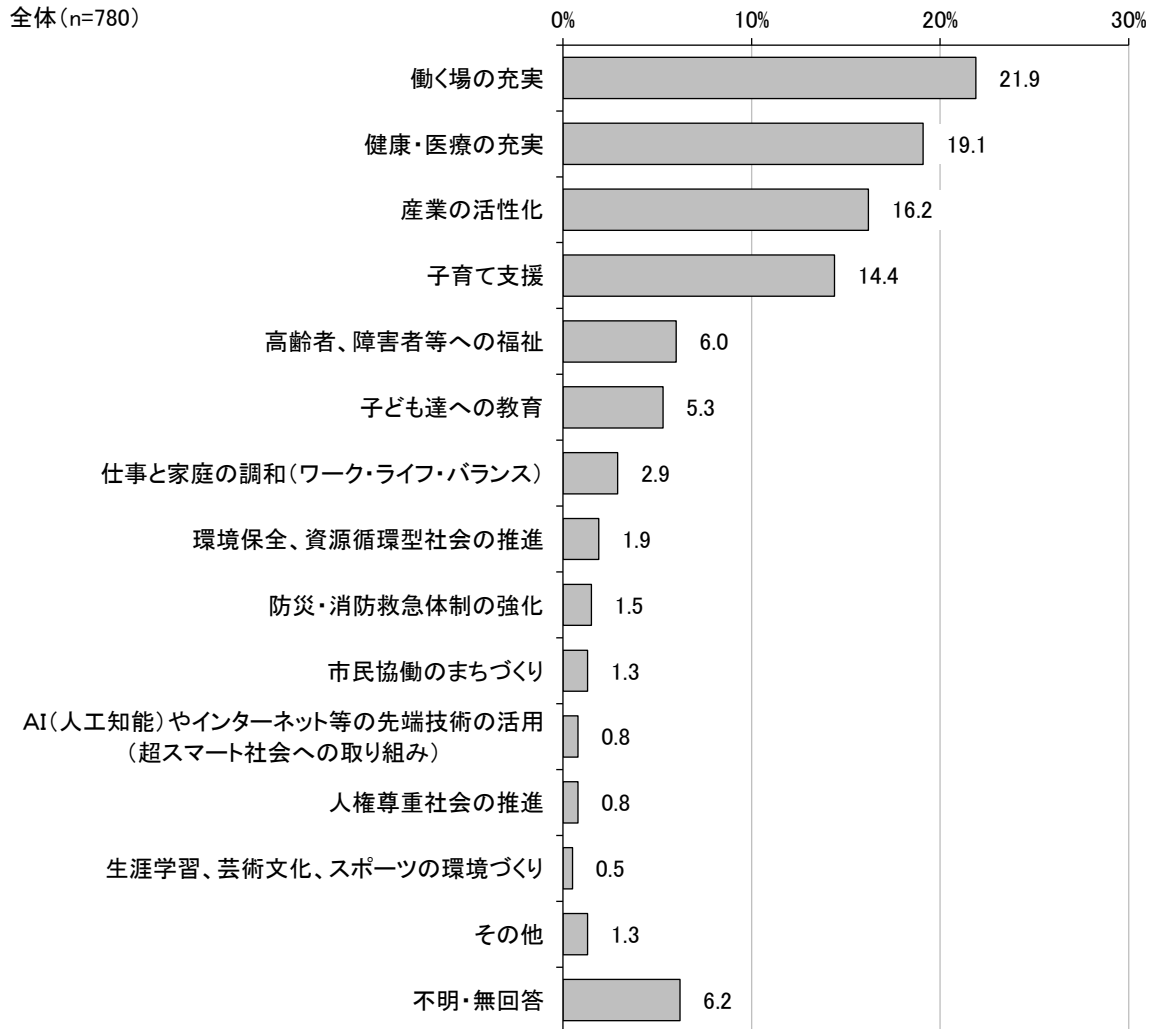
- 多くの属性で「働く場の充実」もしくは「健康・医療の充実」が最も高くなっています。
- 上記以外では、30代、3世代同居は「子育て支援」、農林漁業、役員・自営等は「産業の活性化」が最も高くなっています。

回答者は人数、数値は%、回答の「その他」「不明・無回答」及び属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	産業の活性化	働く場の充実	健康・医療の充実	高齢者、障害者等への福祉	子育て支援	仕事と家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス）	子ども達への教育	生涯学習、芸術文化、スポーツの環境づくり	環境保全、資源循環型社会の推進	AI（人工知能）やインターネット等の先端技術の活用（超スマート社会への取り組み）	防災・消防救急体制の強化	市民協働のまちづくり	人権尊重社会の推進
性別	男性	347	19.0	25.9	16.4	5.8	13.3	1.2	5.2	0.6	1.2	1.2	0.9	1.2	0.9
	女性	426	13.4	19.0	21.6	6.1	15.5	4.2	5.4	0.5	2.6	0.2	2.1	1.4	0.7
年齢	10代	73	16.4	20.5	12.3	4.1	19.2	4.1	2.7	2.7	5.5	2.7	0.0	2.7	0.0
	20代	66	12.1	30.3	9.1	6.1	22.7	4.5	3.0	0.0	0.0	0.0	6.1	0.0	3.0
	30代	73	16.4	21.9	8.2	0.0	37.0	0.0	5.5	1.4	2.7	0.0	4.1	0.0	0.0
	40代	87	10.3	21.8	16.1	4.6	20.7	10.3	10.3	0.0	2.3	0.0	0.0	1.1	0.0
	50代	109	17.4	35.8	20.2	1.8	7.3	3.7	4.6	0.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
	60代	133	20.3	19.5	24.1	6.8	7.5	1.5	6.8	0.8	0.8	0.8	1.5	3.0	1.5
	70代以上	233	15.9	15.5	25.8	10.3	8.6	0.4	4.3	0.0	2.1	0.4	0.9	0.9	0.4
地区	船引地区	440	16.4	18.4	18.4	7.3	14.3	3.0	6.6	0.5	2.0	0.9	1.8	1.1	0.7
	滝根地区	105	18.1	28.6	20.0	2.9	12.4	2.9	4.8	1.0	1.9	0.0	1.9	2.9	1.0
	大越地区	88	21.6	23.9	20.5	5.7	13.6	2.3	1.1	0.0	1.1	1.1	0.0	2.3	0.0
	都路地区	43	4.7	25.6	30.2	0.0	25.6	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	常葉地区	96	11.5	28.1	16.7	7.3	13.5	3.1	6.3	1.0	3.1	0.0	2.1	0.0	2.1
世帯	ひとり暮らし	60	16.7	18.3	15.0	13.3	10.0	0.0	5.0	0.0	1.7	0.0	5.0	1.7	1.7
	夫婦のみ	152	17.8	21.7	24.3	7.2	8.6	0.7	3.9	1.3	0.7	0.0	0.0	0.7	2.0
	2世代同居	332	13.9	25.9	17.2	4.2	15.7	4.2	6.9	0.0	2.4	1.2	1.5	1.8	0.3
	3世代同居	130	16.9	13.8	18.5	3.8	20.8	3.8	4.6	1.5	2.3	0.8	1.5	0.8	0.8
	上記以外	97	18.6	23.7	21.6	9.3	13.4	2.1	3.1	0.0	1.0	0.0	2.1	1.0	0.0
職業	会社員等	249	16.1	24.9	13.7	3.2	20.1	4.4	6.4	0.8	2.0	0.4	2.0	1.6	0.8
	契約・派遣等	102	9.8	21.6	19.6	3.9	17.6	5.9	6.9	0.0	2.0	1.0	2.9	2.9	1.0
	農林漁業	46	32.6	19.6	19.6	2.2	6.5	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2	4.3	2.2	0.0
	役員・自営等	57	31.6	22.8	19.3	8.8	8.8	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家事専業	55	5.5	14.5	29.1	12.7	9.1	1.8	5.5	1.8	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	学生	62	19.4	24.2	11.3	6.5	19.4	3.2	3.2	1.6	3.2	1.6	1.6	1.6	0.0
	無職	180	14.4	20.0	25.0	10.0	8.9	0.6	5.6	0.0	2.2	0.6	0.0	0.6	1.1
	上記以外	19	0.0	26.3	31.6	0.0	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0
通勤・学務先	市内	286	17.1	23.8	15.7	3.8	15.7	4.9	5.9	0.7	2.1	0.7	1.7	1.4	0.7
	市外	229	17.9	23.6	14.8	4.8	19.7	2.6	4.8	0.4	1.3	0.9	2.2	1.7	0.9
	非就労・非通学	209	12.9	18.7	27.8	9.6	9.6	1.0	4.8	0.0	2.9	0.5	0.0	0.5	1.0

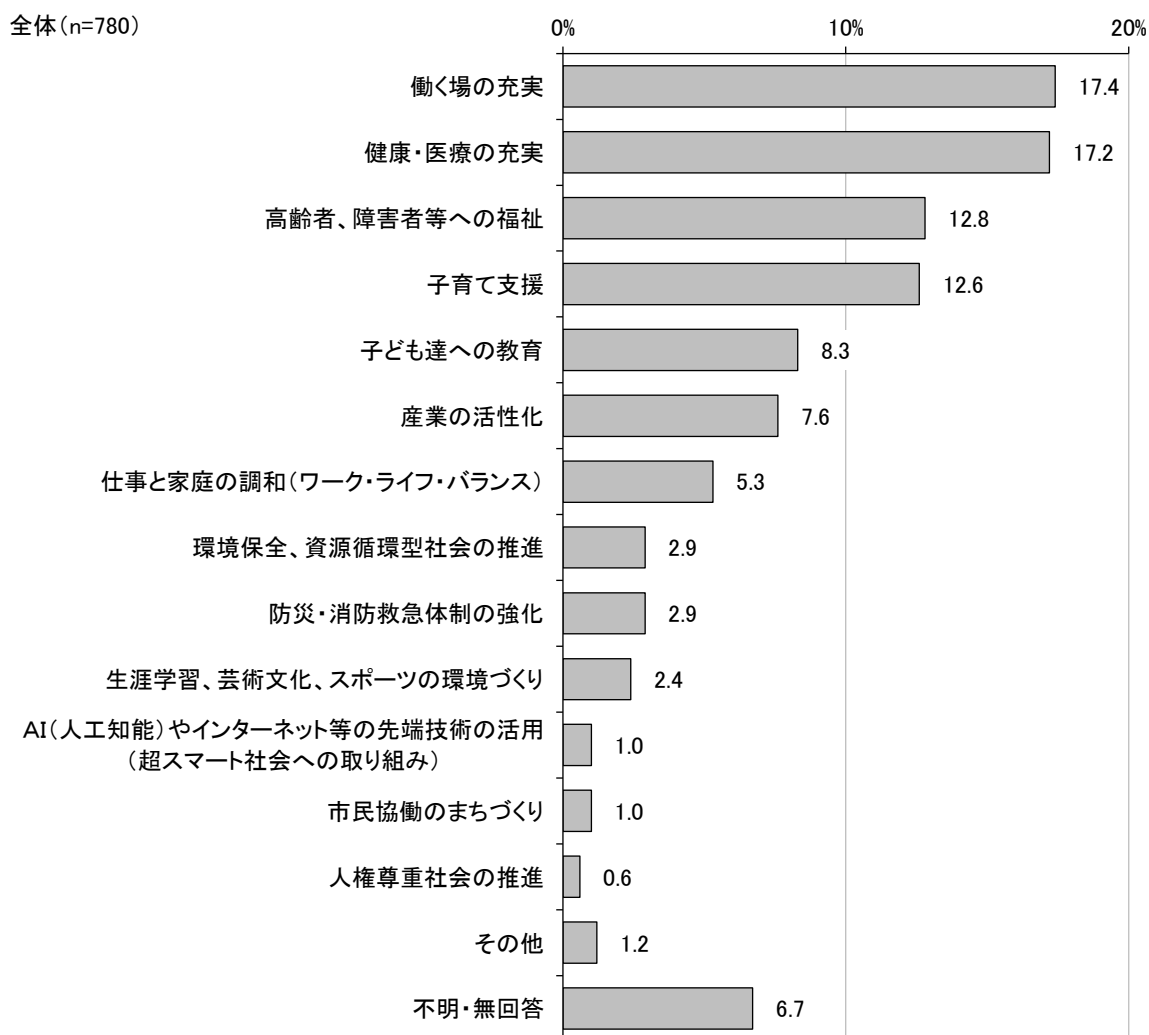
〔田村市の発展に特に重要な取り組み 第1位〕

- 田村市の発展に特に重要な取り組みの第1位は、「働く場の充実」(21.9%)が最も高く、「健康・医療の充実」(19.1%)、「産業の活性化」(16.2%)が続きます。



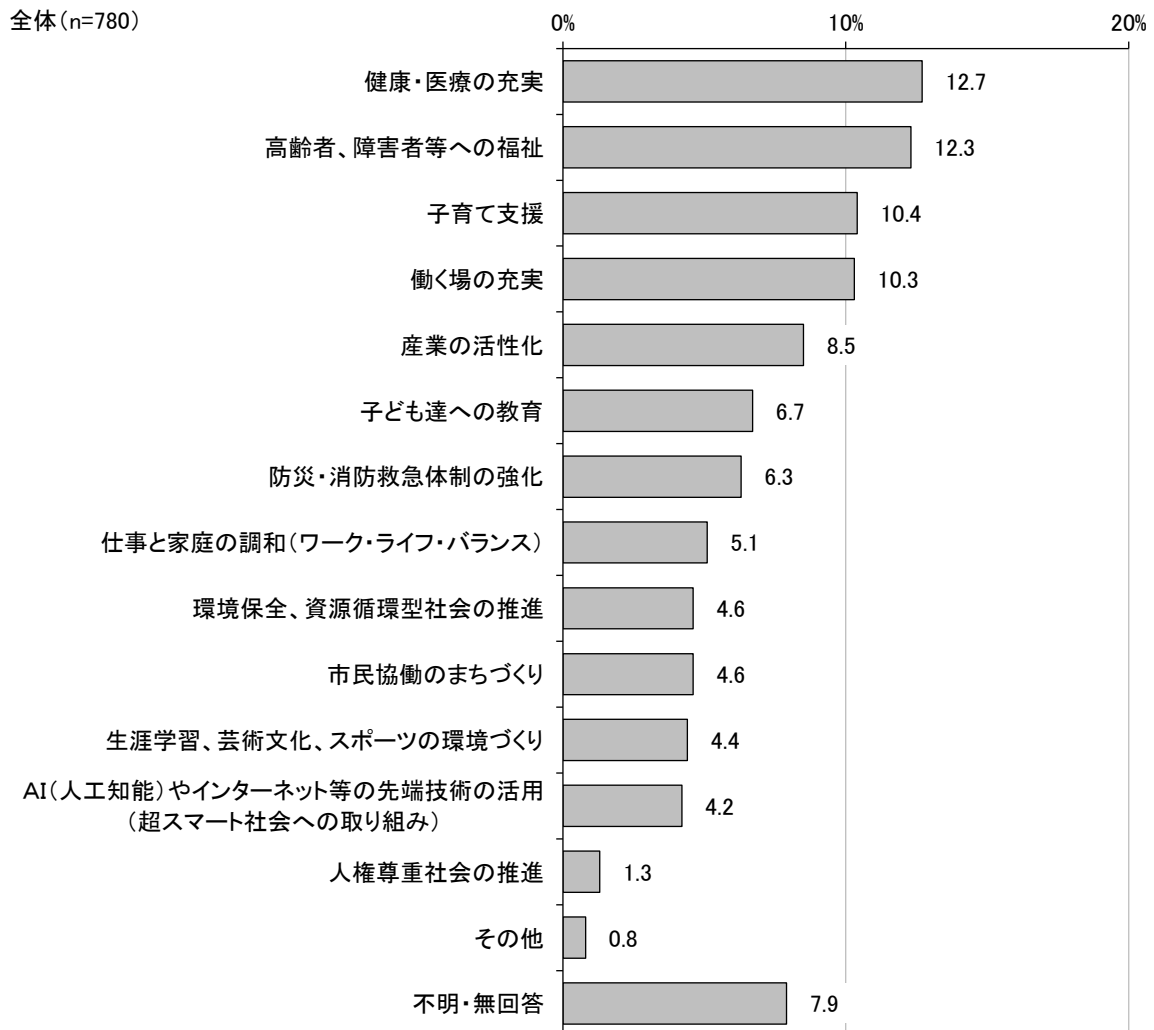
〔田村市の発展に特に重要な取り組み 第2位〕

- 田村市の発展に特に重要な取り組みの第2位は、「働く場の充実」（17.4%）が最も高く、「健康・医療の充実」（17.2%）、「高齢者、障害者等への福祉」（12.8%）が続きます。



〔田村市の発展に特に重要な取り組み 第3位〕

- 田村市の発展に特に重要な取り組みの第3位は、「健康・医療の充実」(12.7%)が最も高く、「高齢者、障害者等への福祉」(12.3%)、「子育て支援」(10.4%)が続きます。



問 26 市政施行 20 周年を迎え、田村市のまちづくりで特に重要だと思うこと、20 年後の未来に残していきたいもの、市政に関して日頃考えている提案やアイデアなどを自由にご記入ください。

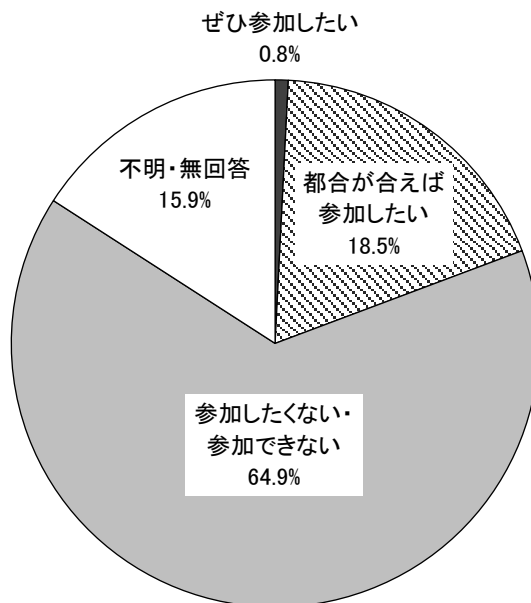
分野	キーワード	意見数	主な意見
産業・雇用	商業 農業 観光 雇用・ 就業支援	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 商業の活性化（大手チェーン店や商業施設の誘致、商店街の再生）</li> <li>○ 農地や観光地の環境改善</li> <li>○ 雇用創出（企業誘致、工業団地の造成、起業支援）</li> <li>○ 就業支援の充実（職業訓練場の設置、シングルマザーや高齢者などの就業機会の確保）</li> </ul>
保健・医療・福祉	子育て 医療 高齢・障害 結婚	55	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子育て環境の充実（保育サービスの拡充、経済的支援、教育環境の整備）</li> <li>○ 医療体制の充実（市民病院の体制強化、産婦人科の設置、医師の確保）</li> <li>○ 多様な市民が利用できる憩いの場の創出</li> </ul>
教育・生涯学習	学校 運動 学習	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育の選択肢の拡大（学習塾・フリースクールの設置）</li> <li>○ 経済的支援の充実（授業料、通学、部活動遠征）</li> <li>○ 公共施設の整備（体育館・運動場、図書館）</li> <li>○ 文化・スポーツイベントの実施</li> </ul>
都市整備・生活環境	自然 都市開発 道路 公共交通 空き家 ごみ	107	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然との共生</li> <li>○ 駅前の再開発</li> <li>○ きめ細かな道路整備（除草、倒木対策、冬季の安全確保、歩行者の安全確保）</li> <li>○ 公共交通機関の整備（利用時間・範囲の拡大、地域格差の解消）</li> <li>○ 空き家の対策・有効活用</li> <li>○ ごみのないまちを目指す仕組みづくり</li> </ul>
住民自治 (地区活動)	地区 特色 交流	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多世代・多文化交流できる施設・イベントの設置</li> <li>○ 市民ボランティアの推進（クリーンアップ作戦）</li> <li>○ 伝統行事の継承</li> </ul>
行財政運営 まちづくり全般	情報発信 職員 まちづくり	59	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安心安全のまちづくり</li> <li>○ 少子化・過疎化対策</li> <li>○ 市税の有効活用</li> <li>○ 職員やその業務に対する要望・応援</li> <li>○ 情報発信の強化・透明化</li> </ul>
その他	—	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本アンケートに対する意見</li> <li>○ 特になし等</li> </ul>
合計		352	* 複数の分野に関わる意見を分野それぞれに計上した数

## 5 市民ワークショップの参加意向

### 問 27 あなたは、「市民ワークショップ」に参加したいですか。(1つに○)

- 市民ワークショップの参加意向は、「参加したくない・参加できない」(64.9%)が最も高く、「都合が合えば参加したい」(18.5%)、「ぜひ参加したい」(0.8%)が続きます。

全体(n=780)



【回答者属性別の傾向】

- 全ての属性で「参加したくない・参加できない」が最も高くなっています。
- 一方、「都合が合えば参加したい」が特に高い属性をみると、50代、60代、滝根地区、常葉地区、ひとり暮らし、夫婦のみ、契約・派遣等、農林漁業、役員・自営等が20%を超えています。

回答者は人数、数値は%、属性の「不明・無回答」は非表示

属性	区分	回答者	ぜひ参加したい	都合が合えば参加したい	参加したくない・参加できない
性別	男性	347	0.6	18.4	62.5
	女性	426	0.9	18.5	67.1
年齢	10代	73	0.0	13.7	79.5
	20代	66	1.5	13.6	80.3
	30代	73	0.0	11.0	82.2
	40代	87	1.1	14.9	77.0
	50代	109	0.0	20.2	70.6
	60代	133	0.0	26.3	58.6
	70代以上	233	1.7	19.7	47.6
地区	船引地区	440	0.9	18.0	64.8
	滝根地区	105	0.0	20.0	72.4
	大越地区	88	1.1	14.8	67.0
	都路地区	43	2.3	18.6	60.5
	常葉地区	96	0.0	21.9	59.4
世帯	ひとり暮らし	60	6.7	21.7	51.7
	夫婦のみ	152	0.7	21.7	56.6
	2世代同居	332	0.0	16.9	71.1
	3世代同居	130	0.0	16.9	67.7
	上記以外	97	1.0	18.6	63.9
職業	会社員等	249	0.4	15.3	74.7
	契約・派遣等	102	0.0	30.4	61.8
	農林漁業	46	0.0	21.7	69.6
	役員・自営等	57	1.8	24.6	56.1
	家事専業	55	1.8	16.4	58.2
	学生	62	0.0	14.5	82.3
	無職	180	1.1	17.2	52.8
	上記以外	19	5.3	5.3	68.4
通勤学務先・	市内	286	0.0	19.9	67.5
	市外	229	0.9	17.9	75.1
	非就労・非通学	209	1.9	16.7	56.5

## 第3章 関係団体アンケート調査の概要

### 1 調査の目的

本調査は、市内で活動する主な団体を対象にヒアリングを実施し、幅広い分野における専門的・実践的な意見・アイデア等を計画に反映することを目的に実施しました

### 2 調査の実施概要

項目	内容	
調査対象	25 団体	
	1 福島さくら農業協同組合たむら統括センター	14 アグリクリエイターズたむら
	2 田村市観光協会広域連携協議会	15 ふくしま中央森林組合都路事業所
	3 滝根町商工会	16 田村森林組合代表理事
	4 大越町商工会	17 田村市社会教育委員会議
	5 都路町商工会	18 田村市国際交流協会
	6 常葉町商工会	19 田村市グリーン・ツーリズム連絡議会
	7 船引町商工会	20 田村市文化協会
	8 田村市社会福祉協議会	21 田村市食生活改善推進協議会
	9 滝根地域行政区長連合会	22 田村市子ども食堂等ネットワーク
	10 大越地域行政区長連合会	23 田村市老人クラブ連合会
	11 都路地域行政区長連合会	24 特定非営利活動法人たむらちいき活動部
	12 常葉地域行政区長連合会	25 これからの田村市の観光を考える会
	13 船引地域行政区長連合会	
調査方法	郵送、電子メール、手渡し等による調査票の配付 団体の任意の方法（郵送、電子メール、FAX、持参等）による回収	
調査時期	令和7年10月15日（水）～11月14日（金）	
回答数	25 団体（回答率 100.0%）	
主な調査項目	1 団体の状況や将来展望（活動方針、重点事業、課題等） 2 団体の活動を通して感じる、田村市の良いところや活動の成果 3 団体の活動を通して感じる、田村市や団体の課題 4 課題の解決・克服に向けて田村市で取り組むべきこと（提案）、団体と田村市で協力・連携して取り組めること 5 専門分野に限らず、田村市の発展に向けてご意見やアイデア（提案）	

※回答内容については、基本にご回答いただいた原文のまま記載しています。

### 3 調査結果のまとめ

#### 1 団体の活動を通して感じる、田村市の良いところや活動の成果

---

田村市の最大の魅力は、あぶくま洞や星の村天文台、四季折々の草花などの豊かな自然環境と観光資源、住民同士の助け合いなどがあげられています。また、農業分野では農産物の質の高さがあげられているほか、行政と連携したスマート農業の導入やピーマンの生産量拡大などの取り組みが着実に成果を上げられています。また、プレミアム商品券などの施策が事業者から高く評価されており、地域経済の活性化につながっています。

一方、コミュニティの面では、軽度な生活援助を行う「隣隣サポーター」は、住民の自発的な福祉活動として定着してきています。さらに、子ども食堂においても、地域の農家や商店から食材提供を受けるなど、行政・団体・住民が一体となった多世代交流の場が創出されています。

#### 2 団体の活動を通して感じる、田村市や団体の課題

---

深刻な課題として、人口減少と高齢化に伴う担い手不足が挙げられています。商工業では後継者不在による廃業が増加し、農業でも資材高騰による経営への影響が挙げられています。観光分野では、魅力的な資源があるものの、戦略的な情報発信や回遊ルートの提供が課題として挙げられています。また、コミュニティでは行政区長や民生委員などの負担が増え、担い手を見つけることが困難になっています。

これに対し田村市で取り組むべきこととして、小規模事業者へのデジタル化や経営支援、新規就農者が利用しやすい補助金の整備などが求められています。観光面では、将来的な観光協会の一歩化を機に、DMOなどの専門組織を設立し、体制強化を図っていくことが求められています。さらに、高齢者の移動手段の確保や在宅介護サービスの維持に向けた事業者への支援も重要な課題となっています。

#### 3 課題の解決・克服に向けて田村市で取り組むべきこと（提案）、団体と田村市で協力・連携して取り組めること

---

市内には自然や昆虫、農林業など多くの観光の素材があるものの、点での展開となっているため、関係機関同士の情報交換や交流により、コンテンツ同士をつなぎ、面的な展開を図っていくことが重要です。

また、市内外のイベント出店やメディアでの紹介を通じて、田村市産品の魅力発信と地域ブランドの向上をはかりながら、市内において地域資源の価値を再認識するとともに、住民の誇りや地域への愛着を高めていくことも重要です。

福祉分野では、子ども食堂を核としたネットワークを構築し、行政・農業・企業が連携して「地域の居場所」を支える仕組みづくりが挙げられています。さらに、NPOやボランティア団体同士の交流を促進するシステムの構築も有効です。団体同士が連携できる仕組みを整えることで、多世代交流や高齢者施設への訪問など、民間の柔軟なアイデアを活かした「ワクワクするまちづくり」を進めていくことが重要です。

## 第4章 関係団体アンケート調査の結果

※問1は回答者名をお聞きしている設問のため、割愛

### 問2 貴団体の状況や将来展望（これからの活動方針、重点事業）をお聞かせください。

#### ①働きたいまち（産業振興）

団体名	内容
<b>分野1 農林業</b>	
福島さくら農業協同組合	当JAは、地域農業と組合員のくらしを守るため「農業の振興と地域の社会への貢献」を経営理念として事業活動をしています。このため、以下の5つの基本戦略を掲げ重点事項として取り組んでいます。1.被災地復興戦略、2.地域農業振興戦略、3.組織基盤強化戦略、4.経営基盤強化戦略、5.人づくり戦略
アグリクリエイターズ たむら	現在の状況：【たむらマルシェ】を開催。年3回、9月・10月・11月に若手農業者が作る新鮮野菜を持ち寄り、直売をしています。場所：田村市役所 西側広場にて、時間：10時から13時まで。【勉強会や視察】の実施。会員のスキルアップを目的とした生産・加工・流通分野などの研修や経営能力アップに向けて、先進農家や種苗会社などの視察。肥料や農機具などの勉強会。将来の展望として、対面販売（たむらマルシェ）を通して消費者目線での品質やニーズ等の情報を生かし一人一人の生産技術や経営スキルを高め儲かる農業をめざす。田村市でしか買えない野菜、田村市のブランド野菜を作り、広めていきたい。たむらマルシェを多くの人に利用してもらい、マルシェを通じて田村市を盛り立てたい。東日本大震災からの森林再生に向けた事業に取り組んでいます。そのなかで、林業従事者の育成をしながら、森林所有者が再び山への興味を示すよう木材を利活用させている。木材資源を有効利用しながら循環するよう整備をする。
田村森林組合	森林は地域最大の資源です。本組合は「人も森も活かして地域力を」掲げて足元の資源をしっかり活かすために、人づくり、森づくりに取組みます。更に、資源の活用に向けて、新たな加工場の整備を進め、森林認証林の拡充と資源の有効利用に取り組めます。
<b>分野2 商工業</b>	
滝根町商工会	当滝根地区は合併して20年、人口がかなり減少している。人口が少ないと商売事業がなかなか大変である。商工会員数も少なくなっている。事業者の年齢、後継者等で廃業等になり、その辺を考えていかなければならない。
大越町商工会	現在、大越町商工会は会員事業所の高齢化とそれに伴う廃業の増加により、会員数は減少傾向にあります。また、若年世代の創業者も田村市内であれば船引町を選択し創業する傾向が強く、新規の加入者も伸び悩んでいるのが現状となっています。また、地域内に大手のドラッグストア2社が進出したことにより、地域に根付いて昔から事業を行ってきた地元の小売業はほぼ壊滅状態となっています。更には、東日本大震災以降比較的堅調であった建設、土木業においても、ウクライナ戦争に端を発した物価高等による資材の高騰の影響を受け業況は厳しいものとなっています。そんな中、大越町商工会では田村市内の5商工会、三春町、小野町の2商工会の7つの商工会で広域連携を組み、事業所向けの各種セミナーや、専門家による個別経営相談等に力を入れ事業者支援に取り組んでいます。

団体名	内容
<b>分野2 商工業</b>	
都路町商工会	当商工会は、原発事故による避難指示解除から10年を迎え、地域経済の再生に向けて商工業者の経営改善と地域活性化に総力を挙げて取り組んでおります。人口減少や物価高騰、人手不足など厳しい環境が続く中で、地域のにぎわいを創出し、交流人口の拡大を図るために実施している「みやこじ商工祭」は、住民と事業者をつなぐ重要な地域イベントとして定着しており、今後も継続・発展させてまいります。また、6次化事業「みやこスイーツゆい」では、地元農産物を活用した商品開発や販路拡大を進め、地域ブランドの確立と農商工連携の強化に寄与しております。今後は、都路複合商業施設「コ・ラッシュ都路」への参画、観光振興との連動、SNS広報の活用、地域外イベントへの出店による認知拡大など、地域産業の魅力発信をさらに強化していきます。本来の商工業支援業務、創業支援、事業承継、人材確保対策、DX推進など、中小企業の持続可能な経営を支える伴走支援を一層充実させ、地域の活力向上に貢献していきます。
常葉町商工会	会員減少に対する現状維持
船引町商工会	現在、事業を行っている商工業者にとって、後継者問題が最大の問題と考えております。人口減少により、事業規模が年々縮小する現在、赤字経営の事業者のみならず黒字経営でも今後の事業の発展に対し希望が持てず経営者が自分の代で終わってしまうといった考えをする方が多いと考えております。商工会としても、少しでも長く事業を継続していただけるようお願いしているところです。また、最低賃金の上昇は今までデフレであり、価格転嫁等をしてこなかった事業者にとって、賃金の上昇分をいかに価格に反映させるかが今後の問題になると思います。
<b>分野3 観光</b>	
田村市観光協会広域連携協議会	田村市観光協会広域連携協議会は市内五つの観光協会の協議体ですが、令和8年4月1日に五つを一つの団体、田村市観光協会(仮称)とする目標で協議を重ねております。このことにより、田村市の多様な観光資源を最大に活用し、周辺関係団体との連携のもと観光事業の総合的な振興を図り、もって田村市への観光誘客を促進し、関係人口の拡大を図ることで、地域経済の発展と地域振興に寄与することを目的としております。重点事業といたしましては、当面(1)観光宣伝及び観光客の誘致、(2)観光イベント等の実施及び後援、(3)観光関係諸団体等との連絡調整、(4)観光資源の開発及び保護、これらを進めることとしています。
これからの田村市の観光を考える会	田村市の地域活性化、関係人口、経過交流の活発化、田村市への観光客、訪問客の増大、経済効果の有効化

## ②学べるまち（学校教育・生涯学習）

団体名	内容
<b>分野2 生涯学習</b>	
田村市社会教育委員会	市社会教育委員会は年3回の委員会を行っており、年に一度の県研究大会があり全員とは行かず予定が取れた方々で参加しております、又、社会教育委員の方々は市の公民館運営審議会にもなっており活動方針等特にどうのこうのとはありません。

団体名	内容
<b>分野2 生涯学習</b>	
田村市文化協会	平成 17 年に設立した市文化協会は、支部制をとり、各支部に様々なジャンルの団体が加盟して日々の文化芸術活動に励んでいます。平成 25 年には 110 を超える団体が加盟していましたが、令和 7 年度当初には 81 団体と、減少に歯止めがきかない状況となっています。定例事業である春の田村市文化祭では、全加盟団体による作品展示会・芸能発表会を開催し、会報の発行も今年で 22 号になります。各支部においても、支部長を中心に実行委員会をおき、秋の文化祭に向けて、日頃から交流と準備を重ねています。令和 5 年度から今年度までは、市の委託を受けて、各団体から講師を招いたワークショップの開催、情報発信のための SNS セミナーなどを実施し、団体自ら PR する力・発信する力を身につけようと活動しています。今後は市内外の方、特に市民の方に文化協会の取り組みを知っていただき、講師としての協力やイベントの協働など、組織や地域に関わらず交流できることを願っています。

### ③安心と絆のまち（健康・医療・福祉）

団体名	内容
<b>分野1 健康づくり・医療</b>	
田村市食生活改善推進協議会	「私達の健康は私達の手で」をスローガンの元、活動しております。おやこ料理教室、高齢者の料理教室などです。各種イベントなどにも参加していきたいと思っております。
<b>分野2 子育て支援・少子化支援</b>	
田村市子ども食堂等ネットワーク	現在、市内では7つの団体が活動しています。団体の多くは子どもを真ん中に、世代を問わず地域住民の誰もが参加できる場を目的にして活動していますが、まだまだ子ども食堂について認知されておらず、「貧困の子どもが行く場所」というイメージを持たれています。各団体がチラシの配布や SNS を利用した周知をしていますが、まだまだ市内に子ども食堂があることを知らない方も多く感じています。市内での「子ども食堂」の認知度をあげ、参加しやすい場所をめざすとともに、本当に必要としている人に届いてほしいと思っています。
<b>分野3 地域福祉</b>	
社会福祉法人田村市社会福祉協議会	田村市社会福祉協議会は、『人にやさしく ともに支え合い 安心して暮らせるまちづくり』を基本理念とし、住民が相互に支え合いながら、住み慣れた田村市において安心かつ安全に生活できる、福祉のまちづくりの実現を目指します。地域における住民主体の福祉活動を一層推進するため、各支所ともに協力して、民生・児童委員、行政区長、ボランティア・NPO 団体、福祉施設、福祉団体等の地域関係団体との連携を強化し、「ともに支え合う地域社会づくり」の推進に努めます。また、少子高齢化、過疎化及び核家族化の進行により、住民一人ひとりが抱える課題は複雑かつ多様化しており、従来の制度やサービスのみでは十分な対応が困難な事例も増加しています。このような状況を踏まえ、本会では専門職員を配置し、行政及び関係機関との緊密な連携のもと、課題解決に向けた支援体制の充実及び相談事業の強化を図ります。介護保険事業については、近年の利用者数の伸び悩みや物価高騰等により、厳しい経営環境が続いております。このため、効果的かつ効率的な事業運営に努めるとともに、信頼される質の高いサービスの提供を図ります。併せて、潜在的なニーズの把握と新たな利用者の開拓に向けて積極的な広報活動を展開し、事業の安定的な経営基盤の確立に取り組みます。

団体名	内容
<b>分野3 地域福祉</b>	
田村市老人クラブ連合会	老人クラブの会員数が減少している、原因は 75 才位まで働く人がいること。又、老人という名称に違和感があることなど、名称を変更し、魅力あるクラブにしていくこと、そして、それぞれの地域に貢献し、老人クラブが必要だと思われるようにしていきたい。

#### ④住みたいまち（住環境）

※意見無し

#### ⑤支えあいのまち（コミュニティ・行政経営）

団体名	内容
<b>分野1 コミュニティづくり</b>	
大越地域行政区長連合会	団体の状況。行政区の推薦により田村市長より委嘱を受けた者。田村市大越地域区長 11 名任期は 2 年。社会情勢の変化により役職を引き受けてくれる人がいない。人選に苦慮している。行政区の自治組織が一元化されていない。(例:牧野地域として牧野大字会と行政区長の組織体系が違うことから会員の高齢化、人口の減少を鑑み機構改革検討委員会を組織し、スリム化の検討を行っている。) 目的：田村市行政の円滑な運営に積極的に協力するとともに、自主的な活動を行うことにより、住民の福祉の向上に寄与する。事業：1 大越地域区長相互の情報交換に関すること、2 大越地域における行政区事業実施のための連絡調整、3 その他目的達成のため必要と認める事項
都路町行政区長連合会	都路灯まつり & 盆踊り大会は継続して下さい。基盤整備していない集落の計画を重点事業でお願いします（強梨・持藤田・所久保・新田・道ノ内・石黒・大久保等）
船引地域行政区長連合会	①船引地域行政区長会としての会合は総会と研修会以外はないようなので、全体または地区ごとに市長の話聞き、質疑応答をする機会を年一回はぜひ設けてほしい。②代表区長から声をかけて開いた船引地区区長会は一度だけだが、火災発生時や公民館各種事業、敬老祝品贈呈のときなどによく情報交換を行っている。
<b>分野2 交流、シティプロモーション</b>	
特定非営利活動法人 たむらちいき活動部	私たちは「やってみたいをかなえたい」をコンセプトに活動している非営利活動法人であるため、これからも変わらず今のニーズに合わせた「やってみたいこと」を捉えながら、活動を継続させていくことが目標です。現状は、ダンス部を創設して 3 年目となります。部員は滝根町・大越町を中心に船引町からも集まり、現在は 53 名が所属しております。その中には支援学級に在籍するかたや、不登校や家庭の事情で通学していない生徒もおりますが、学年・地域・性別関係なくダンスを通じた交流が出来ており、それぞれにとっての居場所づくりに役立っていると感じています。また、ダンスのジャンルも増え、それぞれがユニットを組んで曲決めから振付までを創造していける機会もあり、子どもたちの無限の可能性を引き出すことと、主体的に取り組むことで自己肯定感を高めることにつながっていくと信じています。
田村市グリーンツーリズム 連絡協議会	高齢化と後継者不足により、会員数・活動規模が徐々に縮小している。今後は現状維持を目標としつつ、活動の継続を図りたい。また、協議会の活動に限らない個人の活動を伸ばしていきたい。

問3 活動を通じて感じる、田村市の良いところ、活動の成果があればご記入ください。

①働きたいまち（産業振興）

団体名	内容
<b>分野1 農林業</b>	
福島さくら農業協同組合	JA では、ピーマンの販売高 10 億円を目指し、園芸ギガ団地構想の実現に向けた取り組みを行っております。また、スマート農業にも取り組み農家の労働力の軽減を図っております。さらには新規就農者の拡大や六次化による農家所得の向上に取り組み農業振興を推進していますが、これらの事業については行政からのご支援と一体になった取り組みにより成果を上げ実現していくと考えております。
アグリクリエイターズ たむら	たむらマルシェを盛り上げるためキッチンカーや協賛出店者の協力にてメンバーの野菜を使ったコラボメニューを考え販売。自分たちの生産した野菜がキッチンカーや協賛出店者のプロの人達に「美味しい」と伝えてもらい自信につながった。田村市の良いところとして、農産物の美味しさも挙げられるのではないかと思う。
ふくしま中央森林組合 都路事業所	森林所有者に還元することによって喜ばれるなど、山に対する意識が変わった。
<b>分野2 商工業</b>	
大越町商工会	エコノミックガーデニング事業をはじめ、プレミアム商品券の発行、市内事業者向けの補助金など、事業者へ向けた施策も積極的に取り組んでおり、引き続き事業者向けの各種施策の拡充に期待をいたします。また、田村市から市内の5商工会へ補助していただいている、運営費補助金、イベント補助金は商工会運営の要となっており引き続きの補助をお願いすると共に出来れば増額も視野にご検討をいただきたいと考えています。
都路町商工会	田村市は地域のつながりが強く、行政・住民・事業者が協力して地域課題に向き合う意識が強いと感じています。特に、地域イベントや新たな挑戦に対して、行政の迅速な支援や住民の積極的な参加が得られる点は大きな強みです。「みやこじ商工祭」においては、地域団体・学校・住民・事業者が一体となって運営に協力し合い、来場者数が増加するなど、地域の絆やにぎわいの回復につながる成果が生まれています。また、6次化事業「みやこじスイーツゆい」では、観光課、農林課の協力のもと、地元農産物を活かした商品開発が進み、市内外のイベント出店やメディアでの紹介を通じて、田村市産品の魅力発信と地域ブランドの向上に様々な協力をいただいております。これらの取組を通じて、地域資源の価値を再認識するとともに、住民の誇りや地域への愛着が高まっていると実感しております。こうした良さをさらに伸ばし、今後のまちづくりに活かしていけばと考えております。
常葉町商工会	新規企業の市内進出。1社新会員が商工会に入った。
船引町商工会	田村市が発行したプレミアム商品券は当会員事業者から大変好評でありました。また、子育て応援券は使用する方が、地元資本以外の特定のお店に集中するなど、出来ればプレミアム商品券の発行を今後もよろしく願いいたします。

団体名	内容
<b>分野3 観光</b>	
田村市観光協会広域連携協議会	田村市には各地に観光資源が点在しており、それぞれの観光資源が特徴あるもので、来る人々を飽きさせない地域であります。また、地域の人々が丁寧に作り上げた文化が観光の資源となっております。そして、四季に移ろう草花、さくら、つつじ、ラベンダー、ひまわり、ざる菊等々来る人の目を楽しませてくれます。また、大自然が創り上げたあぶくま洞や入水鍾乳洞、昆虫と触れ合えるムシムシランド、雄大な星空を観察できる星の村天文台等、楽しめる観光地が数多くあります。
滝根町商工会	滝根町にはあぶくま洞という財源、観光資源があり、それを大いに利用して、活気づけて、大いに盛り上げたいと思っています。公社だけではなく、地元の小規模事業者が参画して、アピールしなければ、ならないと思います。
これからの田村市の観光を考える会	田村市の四季カレンダー作成、地元小中学校への増員、企業の協賛寄付、地域イベント開催、盆踊会・音楽イベント・講演会など主催

## ②学べるまち（学校教育・生涯学習）

団体名	内容
<b>分野2 生涯学習</b>	
都路町行政区長連合会	田村市はスポーツ（ソフトボール・野球・駅伝等）を伝統的に強いので今後も援助して後世に継続をお願いします。
田村市文化協会	事業の準備や本番において、各団体や会員が主体的に考え、行動しています。支部の事務局を担っている公民館職員と、日頃から情報共有ができていたため、協力体制がとりやすいと感じます（今後も関係が希薄にならないようにしたい）。市民大学ができたことで、会員が教員として手を挙げ、新たな人たちと学び合える機会が増えました。反対に、市民大学で学び合った人たちがサークルを立ち上げ、文化協会に加盟するという相乗効果が出始めています。

## ③安心と絆のまち（健康・医療・福祉）

団体名	内容
<b>分野1 健康づくり・医療</b>	
田村市食生活改善推進協議会	田村市で開催している運動サロンの会員様にご協力いただき、委託事業、日食協のシニアカフェや、県の委託事業食の基本などを実施することが出来ました。
<b>分野2 子育て支援・少子化対策</b>	
田村市子ども食堂等ネットワーク	活動分野において感じる田村市の良いところ、良いところが活かされた成果等。行政、社会福祉協議会、地域の商店からの協力を得やすいと感じています。昨年度は市の広報誌にも「子ども食堂」を取り上げていただきありがとうございました。各団体のチラシも掲示していただき感謝いたします。活動の成果：地域の商店や農家さんから賞味期限近の商品や旬の野菜を提供いただき、参加者に喜んでもらえた。いつも参加している子ども、高齢者の変化に気づき関係者へ相談できた。学校へ行けない子ども、子ども食堂に来ることを毎月楽しみにしてくれている。

団体名	内容
<b>分野3 地域福祉</b>	
社会福祉法人田村市 社会福祉協議会	当法人は地域福祉活動事業を推進するために、田村市からの委託を受けて生活支援体制整備事業を実施しています。事業の内容は、以下の3つです。①第1層生活支援コーディネーターの配置・業務、及び第2層生活支援コーディネーターの活動に関する補助業務、②「田村市支え合う地域づくり協議体」要綱に定める、第1層協議体の運営に関する業務、第2層協議体の活動支援に関する業務、③支え合いの地域づくりのための、各種団体のネットワーク構築、インフォーマルな資源の開拓・創出、地域支援ニーズとサービス提供団体等の活動のマッチング、地域課題の分析に関する業務。この事業は県内でも先陣を切って田村市が取り組みをはじめました。当初は何もかも手探りでしたが、志のある地域の方々の協力を得て、住民主体の生活支援サービス「隣隣サポーター」を立ち上げました。現在では隣隣サポーターは5団体が運営しております。それに伴って利用者が増えており、田村市になくはならない地域資源となっております。このように、田村市のよいところは地域住民が「わがまち」を良くするために積極的に福祉活動に参加しているところです。隣隣サポーターとは、市の「暮らしの助け合いはじめて講座（住民主体型サービスの趣旨や活動に役立つ知識を学ぶ講習）」を修了した地域住民の方々です。住民主体型サービス（住民相互の助け合いによる支援）の担い手として、介護保険の総合事業対象者および要支援1・2の判定を受けた方へ居宅での軽度な生活援助やガソリン代実費相当での移動支援を提供します。「隣隣サポーター」の名称は、“ご近所さん（近隣）が支え合って暮らしていくこと”、“支援を求める電話が鳴ること（リンリン♪）”をイメージして名付けられました。いつまでも住み慣れた地域で元気に暮らしていくために、できることは自分で言い、自分ではできない“ちょっとした困りごと”を隣隣サポーターが応援し、一緒に解決することで、自立支援の助けとなるような支え合いの活動を行います。（田村市 HP より抜粋）
田村市老人クラブ連合会	それぞれの活動（G・G・G・B、P:G、ニュースポーツ）大会に出る方は元気でまとまりが良く、人の暖かさがある。

#### ④住みたいまち（住環境）

団体名	内容
<b>分野3 関係人口の拡大、移住・定住化対策</b>	
田村森林組合	自然が豊かなこと、田舎暮らしに憧れ、移住者が増えていること

#### ⑤支えあいのまち（コミュニティ・行政経営）

団体名	内容
<b>分野1 コミュニティづくり</b>	
大越地域行政区長連合会	区長の活動においては、住民の理解が得られている。市民と行政のパイプ役として住民から市への連絡及び要請等の伝達がスムーズに行えている。人口や世帯数が減少することで、いろいろな役割(仕事)が増えている。

団体名	内容
<b>分野1 コミュニティづくり</b>	
船引地域行政区長連合会	①白石市長の発信力が素晴らしい。②小沢の桜など、いい桜がたくさんある。③陸上競技場と体育館などがある立派な運動公園には、県内外からたくさんの方々が訪れている。※ただクロスカントリーコースの法面やコース外が草ぼうぼうなので、できれば草刈りをしてほしい。④大滝根山、鎌倉岳、日山、移ヶ岳、高柴山などの多くの魅力的な山岳がある。「新うつくしま百名山」のうち、市内に登山口があるのは、大滝根山、鎌倉岳、日山、移ヶ岳、高柴山、片曾根山、羽山、竜子山、五十人山の9座。「ふくしまの低い山50」のうち、市内に登山口があるのは、移ヶ岳、古此山五十人山、竜子山、羽山の5座。鎌倉岳は、「日本花の百名山」と「日本百低山」「東北百名山」に選定されている。大滝根山は、「日本三百名山」と「日本花の百名山」に選ばれている。移ヶ岳には、県内の4つの山にしか咲かないという「夏の森の妖精」といわれるレンゲショウマが咲く。⑤あぶくま洞、入水鍾乳洞、ムシムシランド、お人形様、小沢の桜は、全国的にみても魅力がある。
<b>分野2 交流、シティプロモーション</b>	
田村市国際交流協会	日本語教室においては、参加者が増加傾向であり、外国人と地域住民の交流の場となっている。
田村市グリーンツーリズム連絡協議会	グリーンツーリズムに適した豊かな里山と住民の温かい受け入れがあり、体験事業やツアーの満足度向上につながっている。
特定非営利活動法人たむらちいき活動部	昨年度は「田村市民の歌」をダンスバージョンにした「おどろん♪タムラ」を製作し、田村市内の幼稚園・小学校・中学校へ進呈させていただきました。そこから田村市主催のイベントや記念式典へのご招待を賜り、多くの経験をさせていただきました。また、大越町では幼小中連携事業では「おどろん♪タムラ」を通じての交流会を催していただき、ダンスのすばらしさと地域交流の一助になれたことは、とても大きな成果となりました。今後も波及効果を望んでいきます。

#### 問4 活動を通じて感じる、田村市の課題、団体の課題をご記入ください。

##### ①働きたいまち（産業振興）

団体名	内容
<b>分野1 農林業</b>	
福島さくら農業協同組合	物価高による、農業所得への影響は少なくはなく、農業資材や燃料の高騰は農業経営への継続意欲が減退する一因となっております。農業振興においても、やはり人口減少や高齢化の進行が大きな課題です。
アグリクリエイターズ たむら	【田村市の課題】長期的な視点からの課題として若者（若手農業者も含む）が少ない。【団体の課題】女性の参加者がほとんどいない。平日の日中ということもあるが若い世代、子育て世代に買いに来てもらえていない。マルシェの告知や集客があまりうまくいっていない
ふくしま中央森林組合 都路事業所	相続放棄などによる森林の荒廃

団体名	内容
<b>分野2 商工業</b>	
滝根町商工会	田村市全体でも、人口減少が止まらないので、インバウンドではないが、都会・他地方から大いに来て頂いたらいいと思う。空き家をさらに利用して頂ければ、いいと思います。さらに格安で。人口増計画しなければ田村市は消滅してしまいます。
大越町商工会	田村市内の産業における商工業の割合を考えるとあまり手厚い予算は掛けられないのが現状とは思いますが、田村市を町村時代から支えてきた地元密着型の事業所は、新型コロナを経て、現在、様々な意味で転換期を迎えています。田村市として様々な施策を考える上で、どうしても効果が数字に現れやすい「中小規模の事業者」向けの施策が多いと思いますが、昔から地元を支えてきた「小規模事業者」にも目を向けていただき、「小規模事業者」が生き残っていける、また、育っていける施策を考えて頂けると大変ありがたいです。
都路町商工会	田村市が抱える課題として、人口減少と高齢化の進行が挙げられます。若年層の流出により、商工業の担い手不足や後継者不在の事業者が増加し、地域産業の存続に影響が生じています。また、物価・エネルギー高騰、人手不足、デジタル対応の遅れなど、外的環境の変化に対応しきれない事業者も多く、経営の安定が難しい状況にあります。都路地区では、児童生徒数の減少により、地域行事や産業を支える若い力が不足しており、学校と地域・企業の連携を強化し、地元で学び働く循環づくりが必要です。特に都路地区は、空き家の増加や交通手段の不足が生活の不便さにつながり、移住・定住促進の妨げとなっています。コミュニティ面では、地域行事の担い手減少が顕著で、「みやこじ商工祭」のようにぎわい創出事業も持続性に課題があります。また、原発事故の影響や風評の残存も課題であり、地域ブランド化や魅力発信を継続的に進めていく必要があります。
常葉町商工会	人口減少における他地域からの訪問人数の拡大
船引町商工会	人口減少により、今までの売り上げを維持するのが、年々困難になっていくなか、各事業者の魅力づくりが課題となってくると思っております。
<b>分野3 観光</b>	
田村市観光協会広域連携協議会	観光推進体制の構築について、私たちの組織はようやく一本化することになりましたが、DM や地域商社等の観光推進組織の設立といった極めて核心的な点について何ら市当局の動きがないことは、はなはだ遺憾です。その間に世の中を大きく変わってきており、再度真剣に意欲のある民間や地域の人々を巻き込んだ動きをすべきと考えます。観光情報発信については、ほとんど発信していないと同じ状態であり、情報の一本化、戦略の練り直しが必要と考えます。あぶくま洞を頂点とした観光ルート作りが出来ていないので、多様化した観光客に興味と選択肢を与え、田村市にはどのような観光地があるかをわかってもらうことが大事です。せっかくここに来たら、あそこにも行ってみようというようなルートの提供も必要です。
田村市グリーンツーリズム連絡協議会	人口減少や高齢化による担い手不足。(農業・観光業・宿泊業など)団体の収益が少なく、補助金に依存している。
これからの田村市の観光を考える会	観光の素材(自然・昆虫・農業・林業)は多くある、しかし連携してPR活動などない。ワンパワーが結束する協議会や協会などがないので、皆バラバラに活動している。

## ②学べるまち（学校教育・生涯学習）

団体名	内容
<b>分野2 生涯学習</b>	
田村市社会教育委員会	それぞれの会議の中で各委員から様々な意見が出て事務局の教育委員会生涯学習課で把握しておるのでよろしいかと思います。
田村市文化協会	団体数、会員数の減少により、地域文化の担い手確保が困難になっています。活動する団体の多様性がなくなると、市民の生きがい作り、社会とつながる場の保証がされづらくなります。また、部活動の地域連携や、地域学校協働活動体制などにも影響が出てくるのではないのでしょうか。文化協会に加盟するメリット、そもそも団体を組織して活動を共にすることに意義を見出しづらい状況になっていると思います。

## ③安心と絆のまち（健康・医療・福祉）

団体名	内容
<b>分野2 子育て支援・少子化対策</b>	
田村市子ども食堂等ネットワーク	少子化が進む中でも、地域には元気な高齢者が多くいらっしゃいます。高齢者の方々が得意なことを生かして地域活動に参加できる機会を増やし、子育て世代との自然な交流が生まれる場づくりを進めてほしいと感じています。現在、子ども食堂では寄付物資を一時的に保管する場所の不足や、ボランティアの継続確保が課題です。
<b>分野3 地域福祉</b>	
社会福祉法人田村市社会福祉協議会	①生活困窮や就労、子育て、障がい、高齢など、複数の課題を抱える世帯が増加しており、既存の制度では十分に対応できないケースも見られます。経済的な問題に加え、社会的孤立や心の不安を抱える方も多く、包括的で切れ目のない支援体制の構築が急務です。②在宅介護事業の課題：当法人は訪問介護事業（高齢・障がい者）と通所介護事業、居宅介護支援事業を運営していますが、大幅な収支の悪化で事業継続が危ぶまれる状況です。そのため、田村市の在宅福祉サービスそのものが大幅に縮小される可能性があります。
田村市老人クラブ連合会	活動に出ない人をどのように誘うか、各町の会長と意見交換をしている。自動車免許証の自主返納が増えていることから足の確保をどのようにするか検討中である。

## ④住みたいまち（住環境）

団体名	内容
<b>分野3 関係人口の拡大、移住・定住化対策</b>	
田村森林組合	人口減少はどの自治体も課題。それゆえにどこでも同じような取組みになってしまっている。移住者の仕事づくり（産業づくり）が課題。移住者の住まいの事情がよくない。家賃が高いなど。空き家対策の戦略的なりノーションがない。
田村市国際交流協会	外国人労働者の増加により、様々な問題が想定される。住環境トラブル。・意思疎通の困難（医療・災害・行政手続き）。多文化教育の専門性不足。地域コミュニティとの摩擦や孤立

## ⑤支えあいのまち（コミュニティ・行政経営）

団体名	内容
<b>分野1 コミュニティづくり</b>	
大越地域行政区長連合会	活動を通じて感じること:役職に伴う他組織への充て職が多い。まちづくりの中で必要と維持を考えた時、その負担が住民の不安につながらないよう住民の意見や考えを酌んでいかなければならないと思う。
常葉行政区長連合会	人口が減少して、10年後・20年後・それ以降、行政区組の戸数が減り継続するか心配である
船引地域行政区長連合会	<p>各区長からさまざまな話を聞くが、そのうちとくに多いものを記載する。①令和7年度から行政区から消防団への助成金等の交付が廃止された。そのことによって、次のとおり、さまざまな弊害が出ている。地域と消防との一体感や緊密な関係が失われ、火災等が発生した場合の連絡や対応などに大きな不安がある。今泉区の場合は、区の行政組織一覧を作成し、全世帯に配布している。消防部の場合も正副部長等の氏名も記載していたが、助成金を交付しなくなったため、今年度は行政組織一覧から消防部を削除した。そのためだれが消防正副部長なのか、わからなくなってしまった。これまで消防の皆様には、盆踊りの警備やどんと祭などの地域の行事や事業への協力をお願いしてきたが、それが容易にできなくなってしまった。予算区会や盆踊り等の区の会議・打合せにも出席を求めることができなくなったので、消防の方々とも顔を合わせることがなくなってしまった。消防の方々からは、次のような声が聞こえる。各種消防活動を行ったあとの慰労の飲食代は区からの助成金で支出していたが、予算がなくその慰労ができなくなった。このままでは、ますます消防に入る人がいなくなってしまふ。②今年度は民生委員の改選があり、各区長にその人選が依頼された。自分のことが大事なので、かつてのように人のため、地域のために尽くそうという人はほとんどいない。そのため各区長はかなり苦労している。何人もの方に断られた区長もいる。しかたがなく、区長を退任した人になんとかお願いする、責任をとって現職の区長が民生委員になる、というケースも少なくない。③今年度は国勢調査の調査員の人選も区長に依頼された。民生委員と同様に人選にかなり苦労し、やむなく区長が調査員になるというケースも多かった。④自主防災組織について。必要性はわかるが、実効性などがよく理解できない。紙だけの組織を作っても意味がない。実際に災害が発生した場合どのように対応したらいいか、わからない。⑤老朽化している中央公民館の改築について。文化センターもあるし、中心部で、広い駐車場もある。児童数の多い船引小学校の駐車場にもなっている。今の場所がいちばんいいと思うが、県のハザードマップでは浸水区域になっている。現在の場所での改築はできないのか。どこかに移転するのか。今後、河川改修を進めればハザードマップは変更されるのか。生涯学習センターは今後、建設するのか。</p>
<b>分野2 交流、シティプロモーション</b>	
特定非営利活動法人たむらちいき活動部	前述のように取り入れてくださる地域と、関心を示していただけない地域があることが課題だと思います。特に私たちの活動が良く知られていない地域では、「おどろん♪タムラ」を流してもわからないのではないかと考えています。団体の課題としては、携わるスタッフには限りがあることや、活動が寄付やイベント時の謝金、地域の助成金に限られているため、先が不安であることは否めません。

問5 上記課題の解決・克服に向けて、田村市で取り組むべきこと（提案）、あるいは、貴団体と田村市や他の団体で協力・連携して取り組めることをご記入ください。

①働きたいまち（産業振興）

団体名	内容
<b>分野1 農林業</b>	
福島さくら農業協同組合	①付加価値の高い新たな農産物の研究と開発、②農地の団地化の推進、③新規就農者への支援拡充
アグリクリエイターズ たむら	【田村市で取り組んでもらいたいこと】若手農業者が就農するときに利用しやすい就農支援・補助金体制がほしい、実際利用しようと思うと無理な条件ばかりで山間地の田村市では利用しづらい。【他団体と協力・連携してやってみたいこと】観光施設にて各月（年間12回）ごとに有名シェフやパティシエが地元野菜や果物を使った季節限定コラボメニュー（人数制限有り）→田村市の野菜や観光地のアピールにつなげる、田村市の農産物を使った料理教室（お菓子作り体験）、マルシェの開催
ふくしま中央森林組合 都路事業所	環境譲与税を利用し、放棄された森林の整備をする。道路法面、道路へ被っている木を伐採し、凍結防止や倒木を未然に防ぐ。
<b>分野2 商工業</b>	
大越町商工会	大越町内に限らず、昔から市内で事業を行ってきた「小規模事業者」の多くは存続の危機に直面しています。現在、田村市で行っているエコノミックガーデニング事業のように今後は行政と商工会、金融機関、事業者等が同じテーブルに付き様々な意見交換を行える場が必要かと思いますが、現在のエコノミックガーデニング事業はどちらかというと行政、商工会、金融機関の意向が強く感じられるため、事業者が生で直面している困りごと、経営課題等を直接吸い上げる仕組みが必要なのかなと感じています。まずは、エコノミックガーデニング事業が市内の事業者の為の事業であり、多くの事業者が興味を抱くよう幅広く周知を行い、より様々なジャンルの事業者が参加したいと思える事業へと昇華させていくことが必要では無いかと考えています。
都路町商工会	田村市が抱える人口減少や商工業の弱体化を克服するためには、行政・商工会・地域団体が一体となり、地域産業の振興と住民生活の向上を両輪で支える仕組みづくりが必要です。■商工業の活力再生に向けて取り組むべきこと：デジタル化・省力化への投資支援（DX補助、ITセミナー）、創業、第二創業支援の強化（エコノミックガーデン事業の充実・強化）、後継者不足への対応（事業承継マッチング、経営者塾の創設）、地域ブランドの確立支援（みやこじスイーツゆい等、地元農家、加工業者との連携）、市外イベント出店支援・EC強化（田村市公式オンラインショップ、アグリクリエイターズ）■交流人口の拡大に向けた連携：「5町の特性を活かしたイベント」の拡充（田村市観光協会の早期設立）、若者が関わる仕組みづくり（あぶくま白鷗高校との協働事業、キャリア教育）、観光と商業を組み合わせた回遊性向上策（コ・ラッシュェ都路、地元店舗、直売所との連携企画）■住環境・生活支援に関する行政との協働：空き家の利活用と移住定住策の強化（Switch、地域おこし協力隊の活発な活動）、子育て・高齢者支援と地域をつなぐ仕組み（子育て支援センター、老人クラブ）、安心して暮らせる生活インフラの維持強化（田村市民病院、デマンド交通タクシー）、■コミュニティ（心のつながり）：地域イベントを世代間交流、地域行事の担い手不足解消（住民参加、世代間のつながりを強化）、日常的に集える交流拠点の整備（コ・ラッシュェ都路等を活用した居場所づくり）、子ども、高齢者、移住者が自然に交わる空間づくり（地域おこし協力隊の協力）、若い力を地域へ呼び込む仕組みづくり（あぶくま白鷗高校との連携による地域参加機会の創出）・震災復興で培った「絆」の継承（地域活動団体、田村市復興応援隊の継承）

団体名	内容
<b>分野2 商工業</b>	
常葉町商工会	物価上昇渦での市から町への助成の減額による、イベント等の実施に多大の影響有り
船引町商工会	現在、船引町船引以外の地域で商店の閉店する割合が多く、地域のお店はそこで暮らす人々のインフラであると考えられます。地域のインフラとして、行政が支援し、必要なお店をできるだけ長く継続させることを望みます。必要なお店が無い地域は過疎化が一層進むと思うからです。当団体としても、経営者に適切なアドバイスをするとともに、継続し経営できるよう働きかけたいと思います。
<b>分野3 観光</b>	
田村市観光協会広域連携協議会	せっかくここに来たら、あそこにも行ってみようというようなルートの提供も必要です。観光推進体制の強化につきましては、来年4月発足予定の田村市観光協会(仮称)と、田村市、意欲的な地域団体とでDMOや地域商社等の観光推進組織についてテーブルに乗せるべきです。市の観光事業への取り組みの中で実務面の見直しと、役割分担を再検討し実務がスムーズに進む組織体制を作り上げてもらいたい。
田村市グリーンツーリズム連絡協議会	市からグリーンツーリズムの担い手となる人材の紹介。協議会で収益を得ていくための情報提供。(イベントや教育関連での需要など)インバウンド事業との連携。
これからの田村市の観光を考える会	観光協会、グリーンツーリズム、国際交流協議会などを情報交換と交流会を活性化させて、人材の共有と経験、知見の共有をやっていく。田村市の強みを言語化(田村は何もないと皆思っている)

## ②学べるまち(学校教育・生涯学習)

団体名	内容
<b>分野2 生涯学習</b>	
田村市文化協会	市内外の方に文化協会の取り組みや加盟団体の取り組みを知っていただき、講師やボランティアとして協力したり、イベントの協働や地域との交流ができればと思います。それが各団体への新規加入などにつながれば良いです。

## ③安心と絆のまち(健康・医療・福祉)

団体名	内容
<b>分野1 健康づくり・医療</b>	
田村市食生活改善推進協議会	運動サロン、小学生、高齢
<b>分野2 子育て支援・少子化対策</b>	
田村市子ども食堂等ネットワーク	子ども食堂は「一時的な支援」ではなく、地域全体で子どもを育てること、高齢者を見守ることを目指しています。行政：福祉、教育、農業、企業を繋ぐネットワーク。子ども見守り(学校、児相、地域団体との情報共有)。これから子ども食堂を始めたい人への活動の場の提供(空き家、公民館)。広報、認知拡大(どこに行けば支援が得られるのか、公式Line、子育て情報誌への掲載)。地域：物資や食材寄付(フードドライブ)。地元農家やスーパーの協力で「地域の食を循環」、食品ロス対策、地産地消。ボランティアや得意なことを生かし、無理なく続けられる関係づくり。企業や団体の協賛。地域住民の見守り 子どもの変化に気づきを行政や団体へ貧困対策、福祉にとどまらず、地域住民主体で共に支えあえる「地域の居場所」「世代を繋ぐハブに」

団体名	内容
<b>分野3 地域福祉</b>	
社会福祉法人田村市 社会福祉協議会	①市で重層的支援体制整備事業の整備を進めているところですので、社協としてもできる限り市に協力していきたいと考えます。そのために法人としては市や県、国の各種研修会に積極的に参加し人材育成を進めるとともに、法人内部での体制構築等の準備を進めていきます。②現状で当法人の在宅介護事業は利用者数の伸び悩み、平均介護度の低下、人件費や物価高騰が原因で大幅な赤字を出しており、事業継続が大変厳しい状況です。そのため事業の効率化や経費の削減等自助努力を最大限進めているところですが、それでも厳しい状況にあるため、市の援助が不可欠です。他の自治体では訪問介護事業者に移動費の補助等を行っております。当法人は他の事業所がやっていない障がい者の訪問介護事業も行っていますので、田村市の高齢者、障がい者の在宅介護の社会資源を存続させるために、ぜひとも様々な補助を検討していただきたいです。
田村市老人クラブ連合会	足の確保、社会福祉協議会・タクシー会社・公共交通活性化協議会

#### ④住みたいまち（住環境）

団体名	内容
<b>分野3 関係人口の拡大、移住・定住化対策</b>	
滝根町商工会	田村市内に移住してもいいと考えてる方々に費用の一部負担してあげる事が田村市に移住が進行するものと思います。
田村森林組合	どんな人に移住してほしいか、地域のイメージづくりから。空き家の活用（リノベーションの方向性）、地域コミュニティーとの関係と連携（祭りや自治活動）、地域資源活用による仕事づくり（イノベーション）
田村市国際交流協会	少子化時代、田村市児童教育・育成は市民全体で行うプログラムです。是非「青少年国際化教育推進プログラム」を企画・実践していただきたい。外国人労働者の支援、外国人雇用関係制度の理解と責任の徹底、外国人の日本語やマナーの教育

#### ⑤支えあいのまち（コミュニティ・行政経営）

団体名	内容
<b>分野1 コミュニティづくり</b>	
大越地域行政区長連合会	団体として取り組むべきことは、すみ分けされているが他の役職も多い。大越まちづくり協議会、個性豊かな地域づくり及び魅力あるまちづくりを目指している団体。
常葉行政区長連合会	行政の人口減少対策を重要課題とする。
船引地域行政区長連合会	①消防団への助成金の廃止。その明確な納得できる理由の説明とそれに伴う対応策、消防団への運営費等の増額。区長会で改めて説明してほしい。②民生委員の人選などについて担当課長に改善要望書を送付したが、返答はない。人選方法を区長会とともに検討してほしい。③国勢調査員の人選。これも②と同様、人選方法を検討してほしい。④実際に災害が発生した場合、どのようにすればいいのか、自主防災組織の実効性も含めて、説明してほしい。⑤中央公民館の現在の場所での改築または移転、生涯学習センターの建設について説明してほしい。

団体名	内容
<b>分野2 交流、シティプロモーション</b>	
特定非営利活動法人たむらちいき活動部	認識されていない地域での「おどろん♪タムラ」の普及をお願いしたいです。「田村市民の歌」をダンスで覚えることでこの地域で育った誇りに変わると感じているからです。そのためには資金と部員たちへの配慮等も必要になってくるかと思っておりますので、田村市として取り組んでいただけるならばありがたいです。また、田村市主催のイベント等でイベントのお礼を頂戴しながら披露させていただく場をもっと増やしていただければ嬉しいです。子どもたちから田村市を元気にさせていく私たちの活動が、多くの市民へ認識されていけるようにたくさんの団体と交流できる場を設けて頂けることを望みます。

問6 専門分野に限らず、田村市の発展に向けてご意見やアイデア（提案）をご記入ください。

①働きたいまち（産業振興）

団体名	内容
<b>分野1 農林業</b>	
田村森林組合	田村市にあるものは、ほかの自治体にも必ずあります。さて、田村市にあって、よそにないものは必ずあります。それを再認識することから始めましょう。
<b>分野2 商工業</b>	
滝根町商工会	田村市と言ったらこれ！という特調が必要だと思います。何か特別な品物なのか、田村市ならではの商品なのか、田村市に行かないと入手できない“もの”なのか、そんな商品化モノを考案できればいいのかなと思います。この地域ならではの、食品、伝統的な食べ物とか…昔ながらの食品とか…そんなことを考えてます。
大越町商工会	現在、田村市は船引町も含めて過疎地域に指定されており人口の流出が止まらずリーサスの将来予測でも人口の減少が懸念されているようです。事業所の顧客となる市民が減少すれば、商工業についてもおのずと衰退の道をたどって行くことは明かですので、田村市の周辺の自治体では実施していない、田村市に住みたいと思わせる施策の立案が急務だと考えます。
都路町商工会	■地域6次化産業プラットフォーム：農家・飲食店・加工所・観光が一体化したプラットフォーム：Hop Japan、地元農家、みやこじスイーツゆい等が回遊動線となり、農業体験・加工体験・販売・商品開発を統合。6次化の先進地を目指す。■地域ブランド・産業振興：“まちづくり会社”のような民間主導の開発組織を設立。エコノミックガーデン事業を軸に加工品、農畜産物、製造業のものづくりなどを核にしたブランド統一「ローカルブランド戦略」を目指す。
常葉町商工会	各町のイベント等への積極的な予算の確保
<b>分野3 観光</b>	
田村市観光協会広域連携協議会	エコノミックガーデニング、人材育成塾、観光資源開発等は常に密接な関係にあり、それらが商工業及び農業の発展にもつながっています。難しいとは思いますが、全体を横断的につなげてお互いの意見を述べ合う会議体を設け継続的に話し合うことが必要と思います。また、情報発信の一元化と目的をハッキリさせた発信も必要と思います。

団体名	内容
<b>分野3 観光</b>	
田村市グリーンツーリズム 連絡協議会	移住のプログラムの1つとして、民泊と農業体験を組み合わせた企画を開催する。→農業に興味のあるかたに実際の暮らしを体験してもらうことができ、つながりもできるのではないかな。
これからの田村市の観光を 考える会	観光客は、観光地での見学・食事だけでは魅力を感じなくなっている。これからは、消費するだけでなく、共に感動する共感のコト消費を大切にする。農業体験、田村の自然を活かして付加価値をつける。持続的な仕組化、組織化が必要

## ②学べるまち（学校教育・生涯学習）

団体名	内容
<b>分野2 生涯学習</b>	
田村市文化協会	文化協会に限らず、田村市の特産品や各分野のキーパーソンなど、市内にあるモノやヒトを生かした事業や企画を立ち上げて欲しいです。特に市外の方へ向けたPRの際には、田村市ならではの体験を提供することが必要かと思えます。

## ③安心と絆のまち（健康・医療・福祉）

団体名	内容
<b>分野1 健康づくり・医療</b>	
田村市食生活改善推進 協議会	市民病院が一日もはやく完成して欲しいです。
<b>分野2 子育て支援・少子化対策</b>	
田村市子ども食堂等 ネットワーク	子育て、孫育て世代の情報プラットフォームがあるとうれしい。不登校の子が日中でも安心して過ごせる居場所、フリースクールのような場所。子育て支援、遊び場、図書館、生涯学習の場がばらばらに存在せず、まとまっていると利用しやすいと感じる
<b>分野3 地域福祉</b>	
社会福祉法人田村市 社会福祉協議会	田村市は、入所型の高齢者施設が多いため、介護が必要になると以前に比べて待機期間が短く入所できます。それは家族にとって安心材料かもしれませんが、高齢者本人にとって自宅で最期を迎えたいという誰もが持つ希望がかなえにくいことも意味しています。高齢者が最期まで自宅で自分らしく生活することができるように、在宅介護・医療の力を維持することが必要です。（ちなみに高齢者施設への入居者が増えると、介護給付費の支出は増えて市民の介護保険料は今後さらに高くなる可能性があります。）来年度は田村市民病院が移転開院する予定です。それをきっかけに、今後はより医療と地域福祉が連携を強化して、高齢者が安心して自宅で生活できるまちづくりを推進してもらいたいです。

#### ④住みたいまち（住環境）

団体名	内容
<b>分野3 関係人口の拡大、移住・定住化対策</b>	
福島さくら農業協同組合	人口減少はこの地域だけの問題ではなく、国を挙げて強化すべき取り組みだと思えます。地域においては、人口減少のスピードを如何にして鈍化させるかでしょうか。人口の流出を防ぐため、地域のコミュニティの活性化により、ずっと住みたいと思える魅力ある街づくりを進めることを望みます。
船引町商工会	人口問題に関し、ここで育った若者たちが、都会に出てももう一度地元に戻ってきてもらうには、子供・学生時代に田村市をよく知ってもらうことが大切だと思っております。この地域のことをよく知らないために将来、田村市を居住の場から外してしまわないように。
アグリクリエイターズ たむら	地元に残りたい(残っている)若者が住みやすい環境作りを！遊びに行ったり、買い物に行くのは郡山だったり、逆に家の中に引きこもりがちなので田村市で他の市に行かなくても楽しめる場所やイベント(集まりみたいな小規模なものも含め)あったら良いなと思う。

#### ⑤支えあいのまち（コミュニティ・行政経営）

団体名	内容
<b>分野1 コミュニティづくり</b>	
大越地域行政区長連合会	まちづくりの中で必要性和維持を考えた時、その負担が住民の不安に繋がらないよう住民の意見や考えを酌んでいかなければならない。世帯の少子高齢化により人口の減少に伴い住宅等の空き家が増加している災害や防犯、環境問題の観点からの対策が必要。活動ボランティア団体等への支援対策が必要。少子高齢化に伴い人足役出(集落活動)等環境整備の対策が必要。スマートインターを活かした道の駅整備による地域活性化対策が必要。地区自治意識が実践活動(イベントや運動会、球技大会等)となると希薄になりつつある。若者たちが集まれる施設や働く場所の確保(田村市以外に居住又は通勤し、働いている。)移住・定住促進に伴う水の確保、良質で安定した水の供給が必要。上水道施設や設備の整備及び普及を図ることが必要。
船引地域行政区長連合会	①問3に記載したが、市内には多くの魅力的な山があり、県内外からたくさんの方々が訪れているが、そのことを知っている人、関心がある人は市職員も含め本当に少ないと感じる。そのためか案内看板や登山道、山頂からの眺望などの整備が進んでいない山も多い。日山と移ヶ岳の登山道の草刈りは、地元の皆様とボランティアの方々がやっている。少なくとも担当課の職員には市内の山々についての知識を持ち、実際に登って確認してほしい。山ごとに現況写真を撮り、整備計画を作成してほしい。田村市には多くの魅力的な山があることを紹介するパンフレットを作成し、PRしてほしい。②たむら市政だよりを毎月、全世帯に配布しているが、全然、反響がない。読まれていないのだと思う。たむらほっとニュースの写真をもっと大きくするとか、市民の方々にもっと登場してもらうとか、担当者をもっと取材に行くとか、各種団体を紹介するとか、10月号の表紙のような魅力的な写真を撮って大きく掲載するとか、手に取って見てもらう工夫、編集をしてほしい。③磐越東線の活性化、乗客を増やす方法を具体的に考えてほしい。イベント列車は1日で終わってしまうので、日々の乗客や観光客を増やす方法を沿線自治体で「このままでは磐越東線はなくなってしまう」という危機感を持って、市民からのアイデアを募りながら考え、実行してほしい。④田村市民病院について、次のような声をよく聞くので、毎月の市政だよりで市民病院のことをもっと知らせてほしい。いつ開院するのか。どんな科があるのか。入院病床はどのぐらいあるのか。手術はできるのか。町立三春病院のようになるのではないか。

団体名	内容
<b>分野2 交流、シティプロモーション</b>	
特定非営利活動法人たむら ちいき活動部	<p>文化団体だけでなく、例えばほかの NPO 団体様とつながって何かイベントをしたり、老人施設訪問等の機会を頂いてその事業に補助金を交付していただいたりなど、地域でがんばっている団体同士をつなげ、それが簡単な申請で出来るシステムをつくって欲しいです。そうすれば、自分の知らない分野でも実際に交流して良いところを真似したり、実現できそうなアイデアが生まれたりなども期待できると思います。それが相乗効果で様々なことに円滑なコミュニケーションが出来、魅力あるまちづくりに繋がっていくと考えます。そのためのハード面を整えていただくことで、ソフト面が作られていくのではないかと感じています。</p>



---

第2次田村市総合計画（後期基本計画）  
に関するアンケート調査結果報告書

発行 令和8年1月  
編集 田村市 総務部 企画調整課

〒963-4393 福島県田村市船引町船引字畑添76番地2  
TEL：(0247) 61-7615  
FAX：(0247) 81-2522

---